

体育会の新入部員獲得に向けて

2019年12月
慶應義塾大学商学部4年
濱岡豊研究会17期
高瀬ミカ

<要約>

近年、日本の大学における体育会は、大学の乱立、競技人口の減少、施設不足、資金不足などの様々な問題を抱えており、衰退が危惧されている。そこで、体育会を振興させるために、体育会に所属する学生の人数を増やすことを目的とした研究を行う。体育会に所属している学生の特性、部活動の特性、勧誘の特性などが、体育会への興味にどのような影響を及ぼしているのかを分析するために、慶應義塾大学の学生を対象にアンケート調査を行った。結果として、消費者特性では「利他的である」「高校の団体への心残り」と体育会への興味が正の相関があることがわかった。また、部活動特性では「部の実績」「創部年数の長さ」などと体育会入部意図が正の相関があることが明らかになった。さらに、勧誘特性では「競技未経験者の活躍の情報」「充実した新歓イベント」などと未経験競技への興味が正の相関があることがわかった。本研究では複数母集団での検定を行わなかったことが、研究の限界と言える。

<キーワード>

体育会、未経験競技、勧誘活動

Recruiting New Members for University Club Activities

December 2019

Mika Takase

Yutaka Hamaoka Seminar, Class of 2020
Faculty of Business and Commerce
Keio University

<Summary>

In recent years, the university club activities in Japan have various problems such as university estrangement, decreasing competition population, lack of facilities and funds, and so on. Therefore, in order to promote university club activities, research to propose a strategy to increase the number of students belonging to university club activities was conducted. Hypotheses on how the characteristics of students who belong to university club activities, the characteristics of club activities, the characteristics of solicitation, etc. affect the interest in university club activities were proposed. In order to test them, a questionnaire survey to students at Keio University was conducted. As a result, it was found that there is a positive correlation between "altruistic" and "regret to high school organizations" and interest in athletics in consumer characteristics. In addition, it was found that there is a positive correlation between the intention of joining the athletic club, such as "the performance of the club" and "the length of the number of years of the club". Furthermore, it was found that there is a positive correlation in interest in inexperienced competitions, such as "information on the activity of people who have no experience in competition" and "a fulfilling new entertainment event". In this study, it can be said that the limit of the study was not to perform the multi-population test.

<Keyword>

University club activities, inexperienced sports, solicitation activities

-目次-

1.研究の背景や目的

- 1)問題意識など
- 2)研究の目的
- 3)研究の意義

2.事例研究

- 1)二次データの分析
- 2)事例研究
- 3)競技未経験部員へのヒアリング
- 4)新入部員へのヒアリング

3.先行研究

- 1)スポーツと性格に関する研究
- 2)所属集団に関する研究
- 3)勧誘に関する研究
- 4)先行研究のまとめ

4.仮説設定

- 1)暫定的な理論的枠組み
- 2)仮説設定とその根拠
- 3)研究対象、方法

5.アンケート結果

- 1)調査概要
- 2)単純集計
- 3)クロス集計

6.分析結果

- 1)共分散構造分析(消費者特性)
- 2)コンジョイント分析(部活動特性)
- 3)コンジョイント分析(勧誘特性)
- 4)追加分析

7.考察

- 1)消費者特性
- 2)部活動特性
- 3)勧誘特性
- 4)追加分析

8.提言・まとめ

- 1)提言
- 2)本研究の限界
- 3)謝辞

9.参考・引用文献

付属資料

1. 研究の背景や目的

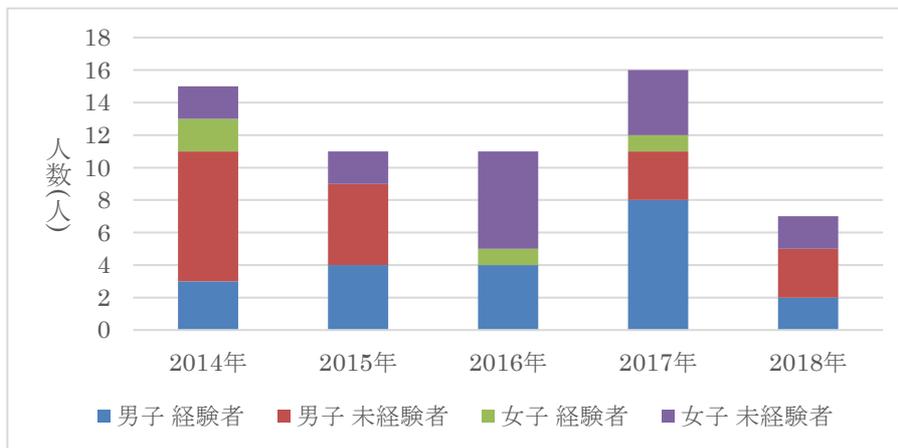
この章では、研究設定に至った背景や、研究の目的を述べる。

1) 問題意識など

井上ら(2001)によると、我が国における大学競技スポーツ、いわゆる体育会系クラブは、現在、高校運動部と企業スポーツの狭間にあり、低迷していると言われている。大学の乱立、競技人口の減少、施設不足、資金不足などの様々な問題を抱えており、体育会系クラブの衰退が危惧されている。大学の各部でも新入部員の減少は問題視されている。具体的事例として、筆者が所属している慶應義塾体育會洋弓部(以下、本塾洋弓部)を挙げ、新入部員の減少についての現状を述べる。

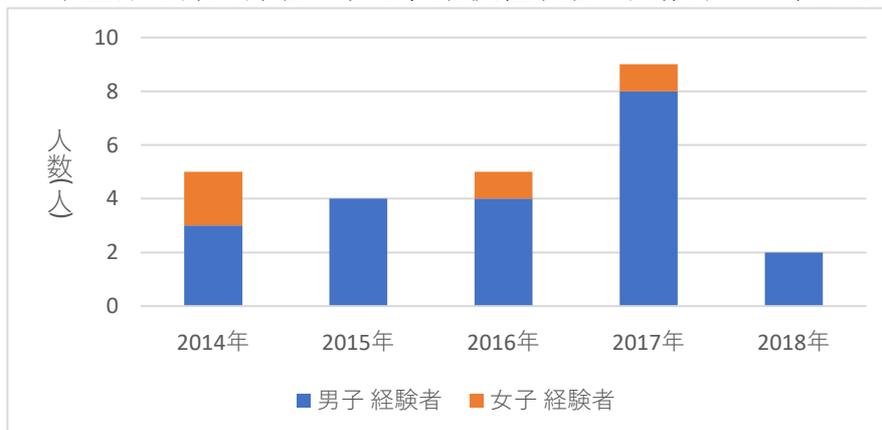
慶應義塾大学はスポーツ推薦のような入試形態を採用しておらず、体育会部員の確保が比較的難しいといえる。本塾洋弓部でも、新入部員の確保が課題となっている。図表 1-1 は、過去 5 年間の本塾洋弓部に入部した人数をまとめたものである。

図表 1-1 本塾洋弓部入部者数(2014年から2018年)

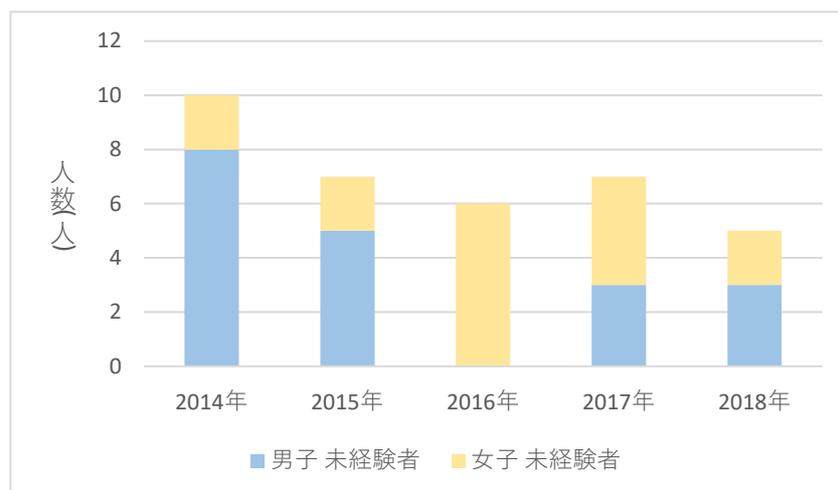


ここで着目すべきことが、2017年入部と2018年入部の人数の差である。2017年度は16人の新入部員がいたが、1年で7人と、約半数に減少している。この原因を明らかにするため、競技経験者、競技未経験者に分けた人数を、図表 1-2、1-3 にまとめる。

図表 1-2 本塾洋弓部入部者のうち、競技経験者の人数(2014年から2018年)



図表 1-3 本塾洋弓部入部者のうち、競技未経験者の人数(2014年から2018年)



図表 1-2 を見ると、競技未経験者の入部人数は変化が激しく、安定していないということがわかる。部員の全体的な技術レベルを考えても、競技経験者が安定的に入部し、部員数を確保し続けることができることが望ましいといえるが、実際は競技経験者の確保が難しいというのが現状である。アーチェリーを始めとするカレッジスポーツは、大学生から競技を始める人の割合が高く、高校までに競技を経験している人数が少ない。また、冒頭で記述したように、慶應義塾大学はスポーツ推薦のような入試形態を採用していない。そのため、競技経験者の人数は、付属高校の部員または外部高校の部員に左右されてしまうという欠点がある。

そこで、図表 1-3 を見ると、2017 年入部と 2018 年入部の競技未経験者数は一定数いるものの、決して多いとはいえない。ほとんどの学生が、高校時代に競技を経験していないという中で、競技未経験者の部員を増やすための勧誘をすることが効果的なのではないかと考える。

2) 研究の目的

体育会を振興させるために、体育会に所属する学生の人数を増やすことを目的とする。体育会に所属している学生の特徴、部活動の特徴、勧誘の特徴などが、体育会への興味にどのような影響を及ぼしているのかを分析する。

また、大学における部活動は、慶應義塾大学では「體育會」、早稲田大学では「競技スポーツセンター」、東京大学では「運動会」など、さまざまな名称が採用されているが、本研究では、一般的に使用されている「体育会」を採用する。

3) 研究の意義

体育会の勧誘活動についての研究や、体育会に所属する学生についての研究は数多くあるものの、競技経験の有無や部活動の特性などの視点からの研究はほとんどなく、本研究には学術的価値があると考えられる。

2. 事例研究

この章では、研究に関連した事例と二次データや、研究の対象者に行ったヒアリングを紹介する。

1) 二次データの分析

競技未経験者が大学で競技を始める要因を探るため、ここでは特にスポーツに関する要因、そして所属集団決定の際の要因について、二次データを用いて分析する。

(1) スポーツを始めるきっかけについての二次データ

図表 2-1、2-2 はスポーツを始めるきっかけとして少しでも影響を受けたものについての調査結果である。図表 2-1 はスポーツ別にまとめたもの、図表 2-2 はスポーツ全体を統合して集計したものである。

図表 2-1 スポーツを始めるきっかけとして少しでも影響を受けたもの

順位	スポーツ	n	好きなチーム %	憧れの選手 %	漫画・アニメ %	映画・ドラマ %	ゲーム %
1	野球	200	53.0	51.5	24.0	4.0	3.5
2	テニス	160	0.0	18.8	39.4	2.5	1.9
3	サッカー	111	24.3	24.3	36.9	3.6	4.5
4	水泳	101	1.0	6.9	0.0	1.0	1.0
5	ソフトボール	100	11.0	12.0	8.0	2.0	3.0
6	バレーボール	99	12.1	14.1	41.4	6.1	1.0
7	スキー	94	0.0	3.2	0.0	7.4	1.1
8	バスケットボール	89	5.6	3.4	22.5	1.1	0.0
9	ゴルフ	81	0.0	29.6	4.9	3.7	8.6
10	卓球	73	1.4	9.6	0.0	1.4	1.4

(出所) 「運動経験者に尋ねたスポーツを始めたきっかけ」

<http://www.sanno.ac.jp/research/sports2013.html>

図表 2-2 スポーツを始めたきっかけ(スポーツ全体を統合して集計)

順位	きっかけ	全体 %	男性 %	女性 %
1	憧れの選手がいて影響を受けたから	16.2	19.6	8.3
2	好きな漫画・アニメの影響を受けたから	15.2	13.4	19.6
3	好きなチームの影響を受けたから	9.9	12.9	2.7
4	映画・ドラマの影響を受けたから	5.6	6.6	3.4
5	ゲームの影響を受けたから	2.0	2.3	1.3

(出所) 「運動経験者に尋ねたスポーツを始めたきっかけ」

<http://www.sanno.ac.jp/research/sports2013.html>

以上の二次データから、新たにスポーツを始める要因として、憧れの選手や好きなチームなどの影響を受けやすいということがわかった。また、漫画・アニメ、映画・ドラマ、ゲームなどのメディア、エンターテインメントについても、スポーツを始める要因となっていることがわかった。

(2) スポーツを始める阻害要因についての二次データ

図表 2-3 は、やりたいと思っているスポーツを始められない理由についての調査結果をまとめたものである。本研究の調査対象である大学生は、10代から20代に含まれる。

図表 2-3 やりたいと思っているスポーツを始められない理由(複数回答)

	n=	時間がない・あわない	お金がない	施設が近くにない	体力に自信がない	道具を揃えるのが大変	一緒に始めてくれる人がいない	精神的に余裕がない	教えてくれる人がいない	いまだに恥ずかしくてやりたいと思えない	適応できるか不安で怖くてできない	人数が集まらない
TOTAL	665	61.7	40.5	26.2	18.0	14.4	14.4	11.7	8.3	8.3	7.2	7.1
男性	310	58.7	39.0	23.2	14.8	18.7	15.8	8.1	7.7	9.4	5.2	10.0
女性	355	64.2	41.7	28.7	20.8	10.7	13.2	14.9	8.7	7.3	9.0	4.5
男性10代	54	53.7	46.3	27.8	11.1	18.5	16.7	13.0	7.4	5.6	3.7	11.1
男性20代	64	65.6	54.7	25.0	9.4	21.9	21.9	4.7	14.1	17.2	6.3	15.6
男性30代	68	64.7	35.3	26.5	14.7	20.6	10.3	5.9	4.4	8.8	5.9	11.8
男性40代	71	53.5	38.0	18.3	11.3	16.9	19.7	7.0	4.2	7.0	2.8	5.6
男性50代以上	53	54.7	18.9	18.9	30.2	15.1	9.4	11.3	9.4	7.5	7.5	5.7
女性10代	60	73.3	40.0	40.0	21.7	13.3	13.3	11.7	10.0	8.3	3.3	5.0
女性20代	83	62.7	43.4	38.6	20.5	12.0	19.3	14.5	8.4	7.2	10.8	10.8
女性30代	80	77.5	55.0	22.5	15.0	16.3	8.8	16.3	7.5	5.0	10.0	3.8
女性40代	76	64.5	39.5	22.4	19.7	5.3	5.3	15.8	7.9	6.6	6.6	0.0
女性50代以上	56	37.5	25.0	19.6	30.4	5.4	21.4	16.1	10.7	10.7	14.3	1.8

(出所) 「スポーツに関する意識調査」

<https://www.intage.co.jp/library/20090824/>

この二次データから、「時間がない・あわない」「お金がない」という理由が上位となっている。次に、大学生が含まれる男性10代・男性20代・女性10代・女性20代の4世代に着目する。女性10代・女性20代は「体力に自信がない」という理由を回答した人が20%近くいるが、同性の30代・40代に比べて高い割合であり、自身の体力について悲観的である傾向があるといえる。また、男性20代は「いまだに恥ずかしくてやりたいと思えない」という回答が、世代別で最も高い結果となった。

(3) 大学生の意識に関する二次データ

図表 2-4 は、大学生が「行きたくない会社」についての調査結果をまとめたものである。

図表 2-4 「行きたくない会社」(2つ選択)

	全体		文系男子		理系男子		文系女子		理系女子	
		17年卒								
暗い雰囲気の家	33.9%	36.0%	35.0%	37.6%	33.3%	35.6%	32.6%	34.7%	35.4%	36.2%
ノルマのきつそうな会社	30.8%	30.4%	29.2%	28.0%	24.1%	22.4%	38.6%	39.6%	29.5%	28.8%
仕事の内容が面白くない会社	21.6%	22.3%	22.2%	22.1%	24.8%	27.6%	18.4%	18.6%	21.1%	21.9%
休日・休暇がとれない(少ない)会社	25.7%	27.1%	22.8%	25.1%	25.4%	25.7%	27.3%	29.1%	29.3%	30.0%
転勤の多い会社	18.1%	19.2%	15.8%	16.3%	19.1%	22.0%	19.5%	19.6%	18.3%	20.0%
大学・男女差別のありそうな会社	9.8%	10.8%	7.8%	8.0%	4.9%	7.2%	13.8%	14.3%	15.0%	16.6%
財務内容の悪い会社	10.1%	10.4%	11.2%	12.1%	12.2%	12.1%	7.7%	8.1%	8.7%	7.9%
体質が古い会社	10.2%	8.5%	11.7%	9.8%	11.5%	9.7%	8.3%	6.7%	8.7%	7.6%
給料の安い会社	14.9%	13.0%	16.8%	16.0%	19.5%	14.9%	10.4%	9.3%	11.6%	11.4%
残業が多い会社	14.5%	12.4%	14.3%	12.4%	13.2%	11.7%	15.5%	13.1%	15.1%	11.5%
歯車になりそうな会社	5.8%	6.1%	7.0%	7.9%	7.2%	7.1%	4.2%	4.0%	3.9%	5.1%

(出所) 2018年卒マイナビ大学生就職意識調査

http://mcs.mynavi.jp/enq/ishiki/data/ishiki_2018.pdf

上記の二次データより、「暗い雰囲気の会社」「ノルマのきつそうな会社」「休日・休暇がとれない(少ない)会社」が上位3つの要素であった。会社と部活動では、在籍する年数に大きな差はあるものの、「大学生が、自身が所属する集団を決める」という観点では関係があるといえる。この「行きたくない会社」の要素は、部活動に入部する際の阻害要因になる可能性がある。

(4) 塾生の学生生活実態調査について

図表 2-5 は、慶應義塾大学の学生を対象とした学生生活実態調査のうち、所属団体についてのアンケート結果を表したものである。

図表 2-5 慶應義塾大学の学生の所属団体について(2017年度、N=4469)

	全体	1年生	2年生	3年生	4年生	5・6年生	男性	女性	自宅	自宅外
体育会	645	241	173	101	86	44	434	211	497	142
スポーツ関連(体育会以外)	1446	503	402	268	233	40	841	605	1148	281
学術関係	401	181	91	66	50	13	230	171	320	79
芸術・文化関係	1006	334	252	181	205	34	476	530	774	223
レクリエーション関係	130	55	30	21	21	3	71	59	108	21
福利厚生団体	231	73	69	52	30	7	100	131	175	56
その他	197	62	58	38	34	5	96	101	142	52
参加したことがない	165	44	41	38	34	8	106	59	124	41
退部した	248	12	72	70	73	21	131	117	178	69
計	4469	1505	1188	835	766	175	2485	1984	3466	964

(出所) 慶應義塾大学学生総合センター『慶應義塾大学学生生活実態調査報告』

「退部した」という回答をした学生が 248 名おり、入部後のミスマッチを解消させることが、体育会部員を減らさないという点において重要であると言える。また、そのうち女性が約半数を占めており、体育会部員の人数比を見ると、男性よりも女性の方が、退部する割合が高いことがわかる。

(5) 二次データのまとめ

二次データから、スポーツを始める、または所属集団を決定する際の阻害要因についての知見が得られた。勧誘活動においては、この阻害要因をいかに取り除くか、または不安に感じさせないかが重要になると考える。

2) 事例研究

本塾洋弓部が現在行っている新入生勧誘活動(以下、新歓活動)についての概要をまとめる。

(1) ホームページ

常時公開している部活動ホームページに、「新入生の方へ」という項目を開設し、新入生に向けたコンテンツを紹介している(図表 2-6)。具体的な項目は以下の通りである。

図表 2-6 慶應義塾体育会洋弓部ホームページ「新入生の方へ」



(出所) 慶應義塾体育会洋弓部ホームページ <https://www.keioarchery.com/shinkan>

① 新歓トップ/新着情報

部の概要や更新情報の通知を掲載する。

② 部活の紹介

部の歴史や、アーチェリーという競技についての説明をする。

③ 練習について

練習、トレーニングについての簡単な説明をする。

④ 女子座談会

女子部員を対象に開催した座談会の内容を掲載する。

⑤部員インタビュー

数名の部員に、アーチェリーの魅力や、オフの日の過ごし方などについてインタビューし、その内容を掲載する。

⑥新歓情報/SNS/Q&A

新歓期の情報や、SNS のリンク、問い合わせ先について紹介する。

(2) 配布物

新歓期に新入生に配布する資料として、以下の2点を作成している。

①チラシ

一般的に使用されているような、1枚両面印刷のチラシを作成、配布して(図表2-7)も3000枚と多く、配り切ることを目標にしている。記載内容は、洋弓部の活動場所、頻度などの簡単な説明と、新歓コンパや連絡先など。

図表 2-7 本塾洋弓部 2019 年配布の新歓用チラシ



②新歓パンフレット

他部との差別化を図るため、8ページからなる新歓パンフレットを作成、配布している(図表2-8)。作成費用も高いため、発行部数は800部とし、配布対象は洋弓部への入部を検討する可能性のある新入生としている。記載内容は、洋弓部の年間予定や練習環境、部員一人一人の紹介など。

図表 2-8 本塾洋弓部 2019 年配布の新歓用パンフレット(一部抜粋)

年間スケジュール
チームのこと、自分のこと。アーチェリーで、充実の4年間を。

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月

基礎づくり 新人期間 選手として活躍

卒業後の進路先
運輸・インフラ・金融・不動産・広告・マスコミ・商社など
卒業後の進路は多岐に渡ります。
日本中・世界中で活躍する多数のOBの方々にバックアップを頂きながら、自らの志望する企業に
全力でコミットすることができます。

さあ、最後の青春。「日本一」を獲ろう。

KEIO ARCHERY TEAM | 6

3) 競技未経験部員へのヒアリング

二次データや事例研究よりも詳細な実態を調べるため、競技経験がないアーチェリーを体育会で始めた本塾洋弓部員3名にヒアリングを行った。そのヒアリング内容とその結果を、図表 2-9 にまとめる。

図表 2-9 ヒアリング結果まとめ

	2年女性	3年女性	2年男性
高校までのスポーツ歴	バレーボール	なし(吹奏楽部)	テニス、水泳、空手、陸上
洋弓部を知ったきっかけ	新歓期間中にパンフレットをもらい、興味を持った。	運動神経がなくてもできるスポーツを探していたところ、部のTwitterとFacebookを見つけ、興味を持った。	怪我により、大学でテニスを続けることができなくなったため、新しく始められるスポーツを探していた。
入部する際に迷った部活やサークル	フライングディスクサークル	特になし	端艇部、フェンシング部、ボクシング部、テニスサークル
入部の決め手となったこと	体験実射で弓に興味を持ち、その後の女子会(女子限定の食事会)で雰囲気の良いさを感じた。	競技未経験でも活躍できる可能性があること。大学生活で、打ち込めるものを作りたいかった。	肘の怪我を抱えながらもできるアーチェリーを選んだ。大学からでも活躍できる可能性が高そうなスポーツだったため。

ヒアリングの結果、大学から始めても活躍できる可能性が高いということに魅力を感じやすいということがわかった。また、新歓期間のパンフレット配布や、Twitter、FacebookなどのSNSでの情報発信も重要な勧誘手段であると言える。

4) 新入部員へのヒアリング

本塾洋弓部の新歓担当者が行った、2019年に入部した新入生16名を対象としたヒアリング調査の中から、本研究の参考になる部分を抜粋して図表2-10に記載する。

図表 2-10 新入生へのヒアリングまとめ

	男・競技経験者	男・競技未経験	男・競技未経験	女・競技未経験	女・競技未経験
入学前から入部を検討していたか	検討していた	検討していた	していないが體育會には興味あった	していない	していない
どのようにして洋弓部を知ったか	ホームページ、Twitter	インターネットやTwitter	Twitter	勧誘	勧誘
入部の決め手となった点	1部リーグにいる、射場が広い	アーチェリーという競技に興味があったことと、先輩や同期が優しかったこと	優しい先輩と楽しい同期がいること	早朝に練習があること、個人競技でありながらチーム意識が高い	未経験でも試合で上位の成績を狙うことができること
入部の際悩んだ点、心配だった点	活動の時間帯が早朝で不安だった	部の練習や仕事による忙しさ	上下関係の厳しさや時間的拘束、留学できない点	1人暮らしでの文武両道	体力面でついていけるかどうか
コンパや練習見学、体験、新歓合宿等の新歓イベントの評価、感想	色々聞いてよかった、新歓合宿もよかった	楽しかった、同期との仲を深められた	練習見学や体験ではアーチェリーの魅力がどこなかわからなかった。新歓合宿の時期を早めたほうが良い	見学、体験で競技中の部活の様子やアーチェリーの感覚を知れてよかった。新歓合宿で普段話さない同期以外の人たちと話せてよかった。	コンパや新歓合宿で先輩方から様々なお話を聞くことができよかった。練習見学では入部前に練習の雰囲気を知る子ができてよかった
実際に入部してみて入部前に知っておきたかったこと			1年間の具体的なスケジュール	事務作業などの部の運営において重要な仕事の存在	詳しい練習日程を前もって知っておきたかった
チラシ、パンフレットに対する評価、掲載してほしいと思ったこと	入部後に部員紹介が役立った	1年生でも確実に出来る試合があることをもっとわかりやすく載せるべき	もっと配るべき	パンフレットのイベントカレンダーや、1日のスケジュールが見やすかった	様々な情報が掲載されてあってよかった

3)で行った部員へのヒアリング同様、大学から始めても活躍できる可能性が高いという競技性、SNSでの情報発信が入部に大きく影響していることがわかる。また、練習見学や体験実射で雰囲気を知ることができたという意見がある一方、アーチェリーの魅力が伝わり切らなかったという意見もあり、新歓イベントの内容の充実さが重要であると言える。1年間の具体的なスケジュールや練習日程など、新入生の不安要素になり得ることに関しては、情報を充実させて発信するべきである。

3. 先行研究

この章では、研究に関連した先行研究を 1) スポーツと性格に関する研究、2) 所属集団に関する研究、3) 勧誘に関する研究に大別してまとめる。

1) スポーツと性格に関する研究

・高岡、佐藤(2014)

体育会男子学生のパーソナリティについての研究。一般男子学生と比較し、体育会学生の特徴を分析している。調査対象は、関西地方の私立大学所属の、体育会部活動に所属する男子学生 188 名と、体育会部活動に所属していない社会学部の一般男子学生 68 名である。

フェイスシートにて、学年、年齢を尋ねたのに加え、体育会学生についてはさらに所属部活動と競技経験年数、レギュラーであるか否かについて回答を求めた。

パーソナリティの測定のため Big Five 尺度を使用した。この尺度は、情緒不安定性 (Neuroticism), 外向性 (Extraversion), 開放性 (Openness to experience), 調和性 (Agreeableness), 誠実性 (Conscientiousness) の 5 因子、各 12 項目で全 60 項目から構成されている。

結果を図表 3-1 に示す。この図表より、「外向性」「誠実性」「調和性」の項目では、体育会学生が一般学生を上回る結果となった。一方、「情緒不安定性」「開放性」に関しては、一般学生が体育会学生を上回る結果となった。

図表 3-1 Big Five 尺度 結果

	体育会学生 (n = 188)		一般学生 (n = 68)		t 値
	M	SD	M	SD	
外向性	56.80	11.17	53.03	7.69	3.04 *
情緒不安定性	43.77	12.38	52.69	8.16	6.66 **
開放性	48.64	10.41	52.54	6.56	3.55 **
誠実性	49.77	8.13	47.34	7.64	2.14 *
調和性	53.65	7.59	47.09	7.39	6.16 **

この調査の結果を踏まえ、体育会男子学生には以下の特徴があること述べている。

- ①外向的
- ②活動的
- ③意志が強い
- ④利他的であること傾向がある
- ⑤伝統に重きを置く
- ⑥権威主義傾向が高い
- ⑦情緒的に安定している可能性高い

・Carter and Shannon(1940)

スポーツ競技者と非競技者のパーソナリティの比較について述べている。カバディ(南アジアで主に行われるチームスポーツ)とコーコー(インドとパキスタンで主に行われるス

ポーツ)の競技者と、非競技者を対象に、外向性、神経症性についての実験を行った。結果として、外向性が高く神経症性の低い人が大学のスポーツに惹かれる傾向にあるということがわかった。

• Egan and Stelmack(2003)

エベレスト山の頂上に登ろうとしている 39 名の登山者を対象に実験を行った。対象の登山者の性格プロフィールは、規範的なサンプルよりも、「外向性」と「強情」の傾向が高く、「不安」の傾向が低いことがわかった。このプロフィールは、アスリート、特に成績のいいアスリートで見られるパターンと一致していることもわかった。

• Kajtna et al. (2004)

リスクの高いスポーツをしている選手の性格を調査した。38 名の高リスクスポーツ選手(アルピニスト、スカイダイバー、パラグライダーなど)、38 名の低リスクスポーツ選手(水泳選手、陸上選手、空手家など)、76 名の非スポーツ選手の 3 グループに分類し、Big Five 尺度を用いて実験を行った。その結果が図表 3-2 である。

感情安定性(Emotional stability)は、高リスクスポーツ選手、低リスクスポーツ選手、非スポーツ選手の順で有意であった。受容性(Acceptability)では有意な結果は得られなかった。

図表 3-2 分析結果

Dimension	Pair	p
Energy	high risk – non-risk	0.66
	high risk – non-athletes	0.03*
	non risk – non-athletes	0.27
Acceptability	high risk – non-risk	0.99
	high risk – non-athletes	0.59
	non risk – non-athletes	0.70
Conscientiousness	high risk – non-risk	0.68
	high risk – non-athletes	0.00***
	non risk – non-athletes	0.02*
Emotional stability	high risk – non-risk	0.99
	high risk – non-athletes	0.04*
	non risk – non-athletes	0.03*
Openness	high risk – non-risk	0.77
	high risk – non-athletes	0.22
	non risk – non-athletes	0.04*

Legend: * - significant differences (p<0.05),

** - significant differences (p<0.01),

*** - significant differences (p<0.001)

(出所) Personality in high risk sports athletes

• Egloff and Jan Gruhn(1996)

持久力スポーツと性格についての調査を行った。競技者 86 名と非競技者 73 名を比較したところ、競技者のほうがより外向的であった。また、高負荷な競技者(週 11 時間以上)は、平均的な競技者(週 4 時間未満)よりも外向的であった。

外向的であることは、「目標の達成」や「成功」と相関があった。また、トレーニングの頻度や強度は、「身体の健康」の積極的な変化に関連していた。

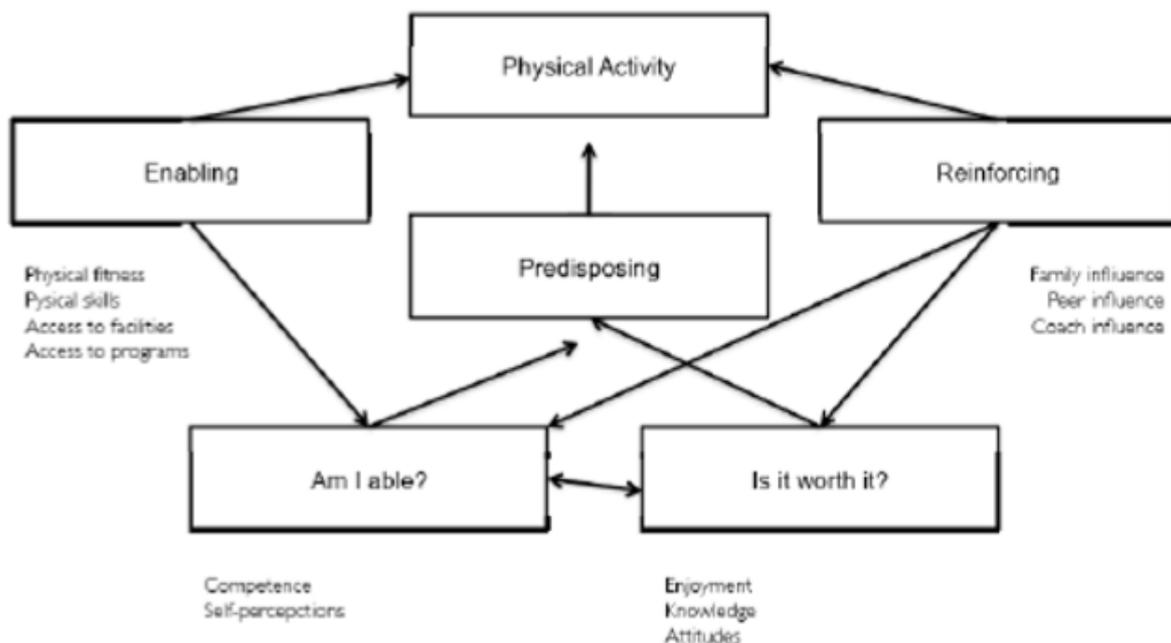
• Brustad et al. (2002)

スポーツによる子供の心理的、情緒的、社会的発達に対する親および仲間の影響について述べている。

過去 20 年間の間に親子を対象とし、スポーツや身体活動に与える影響と社会的発達に対する関与度を調べた。その結果、親が子に与える影響は強く、親が重大な意志決定権を持っているとしている。また、子供は、自己能力の評価情報を仲間に頼る傾向があるとされている。さらには、親の賞賛を重視し、自分自身の達成に対しても、親と同様の期待を持つことがわかった。

このように、他者との親和や良い社会関係は、子供のスポーツ参加の重要な動機であるといえる。図表 3-3 は分析結果のパス図を示しており、実線は支持された仮説を表している。

図表 3-3 結果パス図



出所) R. J. Brustad et al.

Mothers' expectancies and young adolescents' perceived physical competence

• Arnott Ian (2011)

消費者がスポーツへ参加しようという意志を促進させるためには、マーケティング・ミックスの 4P のうちどれが一番効果的に働くかについてイギリスの人々を対象に研究を行っている。その中で一番効果があったのは「施設(place)」であった。また、「広告(promotion)」には結果が出なかったが、その中で「口コミ」に関しては効果を持つことが示された。

• 森岡 (2004)

スポーツを始める動機および継続理由について研究をした。スポーツを始める動機は、友人や家族からの影響を受けやすい。身近な人からの詳細な情報を得ることで、動機付けに繋がる。また、スポーツを継続する理由として、「最後までやり遂げたい」「競技に愛着

がある」などが挙げられ、「プロになりたい」などの達成意欲の高い学生が継続する傾向にある。

2) 所属集団に関する研究

・ 田中 (2017)

体育会学生における社会人基礎力に関する研究。小樽商科大学の大学生を対象として、体育会とサークルの比較分析をするため、以下の3つの検証を行った。

検証Ⅰ：クラスタ分析。

検証Ⅱ：クラスタごとの社会人基礎力の伸びに関する分散分析。

検証Ⅲ：クラスタ内における、運動部、文化系サークル、運動系サークルの社会人基礎力の伸びに関する分散分析。

「同じサークルへの態度」で運動部、文化系サークル、運動系サークルの社会人基礎力の伸びを分散分析したところ、文化系サークルの社会人基礎力の伸びが大きく、これまでの研究結果を覆す結果が得られた。これは「サークルへの態度」という視点が重要であることが認識される。

また、「集団への愛着」のクラスタ内において、社会人基礎力の伸びが、運動部よりも文化系サークルが高い理由を図表3-4、「集団への責任と行動」において社会人基礎力の伸びが、サークルよりも運動部が高い理由を図表3-5にまとめた。

図表 3-4 「集団への愛着」において社会人基礎力の伸びが、文化系サークルが高い理由

主体性	文化系サークルは顧問や指導者がいないことに加え、運動部に比べて活動内容も曖昧であるゆえに、リーダー層以外も自分たちで動く場面が多い。
柔軟性	文化系サークルはクリエイティブな活動であり、毎年新しい演舞や音楽を作るにあたって、固定概念にとらわれないで考える場面が多い。モチベーションや目標について多様な人が多いから、対応性が求められる。
実行力	小道具の委託、チラシの作成印刷、会場のセッティング、協賛金集め、など運動部に比べて外部の人とかかわる場面が多い。
創造力	文化系サークルは、リーダー層以外の人についても、運営や組織の問題に関わるが多い。例えば、演舞の振りを決めるプロセスをみんなで話し合い解決策を考えたなど。
説得力	文化系サークルは、一般的に運動部に比べ人数が多いため、多様な人に伝わるように話す必要がある。
働きかけ力	文化系サークルは運動部に対して、練習に対してモチベーションが様々な人が混在しているので、働きかける必要性が強い。文化系サークルにおいては、リーダー層が呼び掛けるより、「集団への愛着」の成員が声を掛ける方が、人が集まるという意見もあった。
情報収集力	文化系の方が、演舞や音楽のトレンドや動向について知る必要がある。
プレゼンテーション力	文化系サークルの方が、仕事と組織が多いために、プレゼンテーションや意見を言う場面が多い。

(出所) 田中 (2017) 「体育会学生における社会人基礎力に関する分析」

図表 3-5 「集団への責任と行動」において社会人基礎力の伸びが、運動部が高い理由

主体性	運動部は、まとまって行動する必要性が強くリーダー層に求められる水準が高い。また、練習も自らがしっかりとこなし、見本をみせる必要がある。
柔軟性	運動部はメンバーを統制して、目標に向かわなければいけない。自分が居心地よくいるためだけではなく、違う方向を向いてる人それぞれに合わせて干渉して引っ張っていく必要がある。
実行力	運動部では、目標達成のために新しいことをやることに加え、決められたことを確実にこなす必要性が高く、マネジメント力が自然につくと考えられる。

(出所) 田中(2017) 「体育会学生における社会人基礎力に関する分析」

・浅田(2014)

「体育会系クラブ」と「学術文化会」の比較を行った。

「体育会系クラブ」は、「競争」や「精神的・肉体的に負荷がかかる活動」である傾向が強い。ただし、先輩・後輩関係の軟化が進んでおり、「精神的・肉体的に負荷がかかる活動」のレベルは低下しつつある。

「学術文化会」は「議論」「イベントの実施」といった活動が多く、比較的、「自己理解・自己管理能力」の養成機能が低いと言える。

・栗原(1989)

サークル活動の現状と課題について述べている。大学がサークル活動に期待するものは、①人間関係調整能力の開発、②技能・技術の開発、③理念的思考慮力の開発、④社会規範の取得などである。一方、学生がサークル活動に期待していることは、①仲間を得ること、②先輩・後輩との繋がりができるなどであった。

・Cave(2004)

日本の「部活動」は、価値観、信念などを学ぶ場として、1世紀以上にわたって重要な役割を果たしてきた。その中で、組織の中での忍耐力、苦労を通じた性格形成、失敗と成功を繰り返す経験、互いに支え合う精神などは、日本の常識を形作るものとも言える。

3) 勧誘に関する研究

・朝日(2005)

体育会における勧誘活動の重要性と現状の改善についての研究。早稲田大学体育会水泳部の戦績向上のために、「勧誘活動」についての現状把握、問題点の考察、そしてシステムの見直しに役立てるために研究をしている。

早稲田大学の水泳部員のなかで、スポーツ推薦を自己推薦で入学した男子17名、練習環境を大学に置いている女子2名、計19名に対して、どのような勧誘を受け、どのような志望理由で早稲田大学を受験したのかを把握した。主な志望理由は以下のとおりである。

- ①「早稲田大学」というネームバリュー
- ②学びたい学課・学部がある
- ③練習環境が整っている

④学業と競技の両立ができる

- Bruyn and Lilien(2008)

ロコミをする側とされる側の間に、①両者間の「親密度」が高い、②両者の価値観や好み、経験などにおける「知覚類似性」がある、③両者の年齢、性別、社会身分における「人口分析的類似性」がある、といった関係があると、意志決定に影響を与えやすい。

- Bush et al. (2004)

広告主が自社製品やブランド価値を高めるために、一流のアスリートを起用した広告を展開し、それが収益にどのような相関があるのかを調べた。結果として、10代から20代の一般人に対して、一流アスリートの起用による一定の広告効果を得られたことがわかった。

- Gulden(2011)

SNSの使用状況について、スポーツに関わっている180名の学生を対象にアンケート調査を行った。SNSの使用目的では、友人とのコミュニケーションが66.7%、暇潰しが57.2%、スポーツの情報収集が55.6%であった。また、1日のSNSへのログイン時間は、1~2時間が40.6%、1時間未満が24.4%であった。これらの調査により、SNSは学生の私生活に大きな影響を及ぼしていることがわかった。

4) 先行研究のまとめ

先行研究の概要などについて、図表 3-6 にまとめる。

図表 3-6 先行研究まとめ

	筆者	概要	本研究で参考にする知見
スポーツと性格に関する研究	高岡、佐藤(2014)	一般男子学生と体育会男子学生の特徴を分析。	体育会学生には7つの特徴がある。①外交的、②活動的、③意志が強い、④利他的であること、⑤伝統に重きを置く、⑥権威主義傾向が高い、⑦情緒的に安定している。
	Carter and Shannon (1940)	スポーツ競技者の性格についての研究。	外向性が高い人ほど、大学でのスポーツに惹かれる傾向にある。
	Egan and Stelmack (2003)	エベレスト山の登山者に関する研究。	登山者とアスリートは、共に「外向性」「強情」の傾向が強く、「不安」の傾向が低い。
	Kaitna et al. (2004)	高リスクスポーツ選手についての研究。	スポーツの危険性が高いほど、感情安定性が高くなる。
	Egloff and Jan Gruhn(1996)	持久力スポーツと性格についての研究。	持久力スポーツをしている人の方が、「外向的」である。また、外向的であることは、「目標の達成」や「成功」に影響を与える。
	Brustad et al. (2002)	子供の成長と親の影響についての研究。	子供は親からの賞賛を重視する。他者との神話や良い社会関係が、子供のスポーツ参加の動機になる。
	Arnott Ian(2011)	消費者がスポーツへ参加する動機についての研究。	マーケティング・ミックスの4Pのうち、一番効果があったのは「施設(Place)」である。「口コミ」も効果を持つ。
	森岡(2004)	スポーツを始める動機、継続理由についての研究。	スポーツを継続する理由として、「最後までやり遂げたい」「競技に愛着がある」「プロになりたい」などがあつた。
所属集団に関する研究	田中(2017)	体育会学生における社会人基礎力に関する研究。	「集団への責任と行動」という面においては、運動部の学生は①主体性、②柔軟性、③実行力という要素で、社会人基礎力が高い
	浅田(2014)	「体育会系クラブ」と「学術文化会」の比較。	「体育会系クラブ」は、「競争」や「精神的・肉体的に負荷がかかる活動」である傾向が強い。
	栗原(1989)	サークル活動の現状についての研究。	学生がサークル活動に期待していることは、①仲間を得ること、②先輩後輩との繋がり。
	Cave(2004)	日本の「部活動」についての研究。	部活動で、忍耐力、成功と失敗の経験などを学ぶことができる。
勧誘に関する研究	朝日(2005)	体育会における勧誘活動の重要性と現状の改善についての研究。	自己推薦やスポーツ推薦で入学した大学生が重視していたことは、①ネームバリュー、②学びたい学部・学課、③練習環境、④学業との両立という要素である。
	Bruyn and Lilien (2008)	口コミについての研究。	「親密度」「知覚類似性」「人口分析的類似性」などの関係があると、影響を受けやすい。
	Bush et al. (2011)	広告についての研究。	一流アスリートの起用が、10代～20代の一般人に対して宣伝効果を持つ。
	Gulten (2011)	SNSについての研究。	SNSは学生の私生活に大きな影響がある。

4. 仮説設定

この章では、これまでにまとめた事例や先行研究を踏まえて、仮説を設定する。

1) 理論的枠組み

本研究では、体育会部員を増員し、体育会を振興させるための提言を導き出すことを目的とする。先行研究などを踏まえると、体育会、スポーツを始める動機、勧誘活動など、体育会の部員を増やすための知見は様々な面から分析できたため、これらをまとめ、最終的に勧誘活動に活かすことのできる提言を導き出せるよう、以下の3点の軸をもとに、研究を進めていく。

(1) 消費者特性

体育会に所属している学生、または興味を持っている学生にはどのような特性があるのかを明らかにする。その分析結果から、どのようなアプローチで勧誘をするべきか、そもそも体育会に向いている学生はどのような特性を持っているのかを明らかにする。

(2) 部活動特性

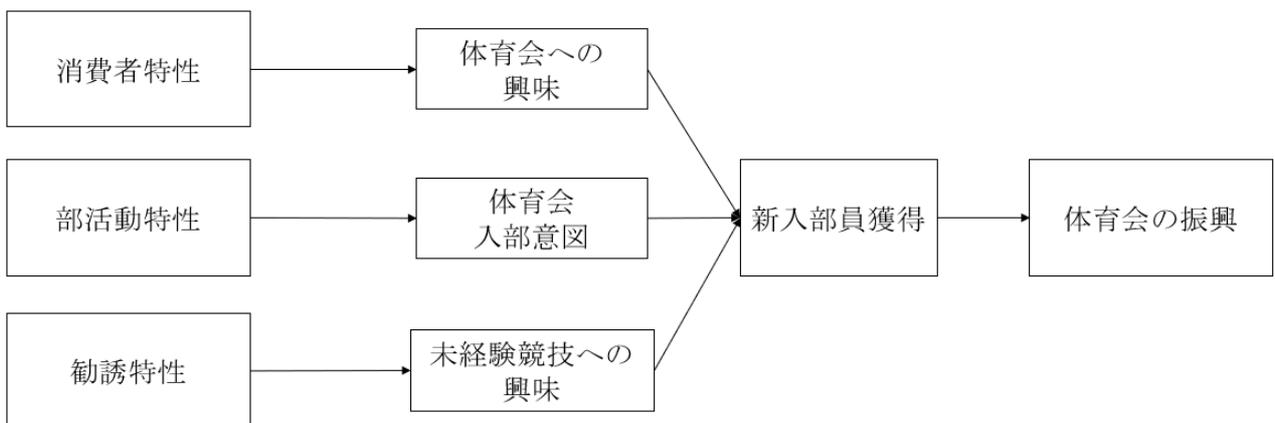
競技経験があるスポーツなどに対して、環境や実績がどう関係しているかを明らかにする。競技経験者の入部によって、部の技術的な向上も期待でき、体育会の振興に繋がると考える。

(3) 勧誘特性

大学生が所属集団を決定する際に大きな影響を与えるのが、新歓期間の活動である。競技未経験者の部員を増やすためには、未経験競技に興味を抱かせるような勧誘方法を明らかにすることが重要である。

以上を踏まえた、本研究の枠組みを図表 4-1 に表す。

図表 4-1 研究の枠組み



2) 仮説設定とその根拠

事例研究や先行研究より、以下のような仮説を設定し、具体化を進める。

(1) 消費者特性

栗原(1989)は、学生がサークル活動に期待していることの1つに、「仲間を得ること」があると述べている。共に活動をする仲間を得ることを重視する傾向が強い人は、サークル活動よりも活動時間が長い体育会への興味が強いのではないかと考え、次の仮説を設定する。

Ha1：仲間との絆の重視度と体育会への興味が正の影響を与える

浅田(2014)は、体育会系クラブと学術文化会を比較し、体育会系クラブの活動は、「競争」の傾向が強いと述べている。競争心が強い人は、結果を求められる環境である体育会への興味を示す傾向にあるのではないかと考え、次の仮説を設定する。

Ha2：競争心の強さと体育会への興味が正の影響を与える

高岡ら(2014)は、体育会学生の特徴として、①外向的、②活動的、③意志が強い、④利他的であること、⑤伝統に重きを置く、⑥権威主義傾向が高い、⑦情緒的に安定している、などを挙げている。以上の7つの特徴から抜粋し、次の仮説を設定する。

Ha3：意志の強さと体育会への興味が正の相関がある

Ha4：利他的であることと体育会への興味が正の相関がある

Ha5：伝統の重視度と体育会への興味が正の相関がある

Ha6：権威主義的傾向の強さと体育会への興味が正の相関がある

Egloff and Jan(1996)は、持久力スポーツをしている人は外向的であり、外向的な人は「目標の達成」を求める傾向にあると述べている。持久力スポーツに限らず、スポーツに打ち込む意欲がある人は達成感を重視するという特徴があるのではないかと考え、次の仮説を設定する。

Ha7：達成感を求めることと体育会への興味が正の相関がある

田中(2017)は、「集団への責任と行動」という面においては、運動部の学生は①主体性、②柔軟性、③実行力という要素で、社会人基礎力が高いと述べている。このから、今回は「主体性」を取り上げ、次の仮説を設定する。

Ha8：主体性があることと体育会への興味が正の相関がある

(2) 部活動要因

ヒアリングより、チームが1部リーグにいることが入部意欲を促進させる要因になることがわかった。大学で部活動をする上で、高いレベルの実績を残していることが重要であると考え、次の仮説を設定する。

Hb1：部の実績と体育会入部意図と正の相関がある

団体の歴史が長いことに対して魅力を感じ、入部意欲が高まることのあるのではないかと独自に考え、次の仮説を設定する。

Hb2：創部年数の長さや体育会入部意図と正の相関がある

大学生にとって、就職活動は大きな不安要素である。また、体育会生はOBとの繋がりなどによって就職活動に強いというイメージがある。就職活動の情報が、意志決定に大き

な影響を与えるのでないかと独自に考え、次の仮説を設定する。

Hb3：就職先の情報と体育会入部意図と正の相関がある

朝日(2005)は、自己推薦やスポーツ推薦で入学した大学生は練習環境などを重視していたと述べている。また、ヒアリングより、充実した練習環境が入部意欲を促進させる要因になることがわかった。大学の敷地内に練習場所がある部活ばかりではなく、練習場所の充実さはスポーツに専念しようと考えている人によって重要であると考え、次の仮説を設定する。

Hb4：充実した練習環境と体育会入部意図と正の相関がある

(3) 勧誘特性

Bush et al. (2011)は、広告に一流アスリートを起用することで宣伝効果を得られたと述べている。そこで、競技未経験者向けの広告には競技未経験者を起用することで効果を得られるのではないかと考えた。また、ヒアリングより、入部を決定した理由として、競技未経験者でも活躍することができるから、という意見が多数あり、競技未経験者の情報が意志決定に影響を与えると考え、次の仮説を設定する。

Hc1：競技未経験者の活躍の情報と未経験競技への興味は正の相関がある

Bruyn and Lilien(2008)は、「知覚類似性」「人口分析的類似性」といった関係性が高いほど、口コミの信頼度が上がると述べている。新歓イベントなどを通して、集団に所属している上級生と直接話すなどのコミュニケーションをとることで、「知覚類似性」などを感じとり、入部の意思決定に繋がるのではないかと考え、次の仮説を設定する。

Hc2：充実した新歓イベントと未経験競技への興味は正の相関がある

ヒアリングより、入部を決定した理由として、競技未経験者でも活躍できる、大学から始める人が多いという意見があったため、次の仮説を設定する。

Hc3：競技未経験者の比率の高さと未経験競技への興味は正の相関がある

ヒアリングより、入部前に知っておきたかった情報として、入部後1年間のスケジュールや競技の技術的進捗などという意見があったため、次の仮説を設定する。

Hc4：年間スケジュールの記載と未経験競技への興味は正の相関がある

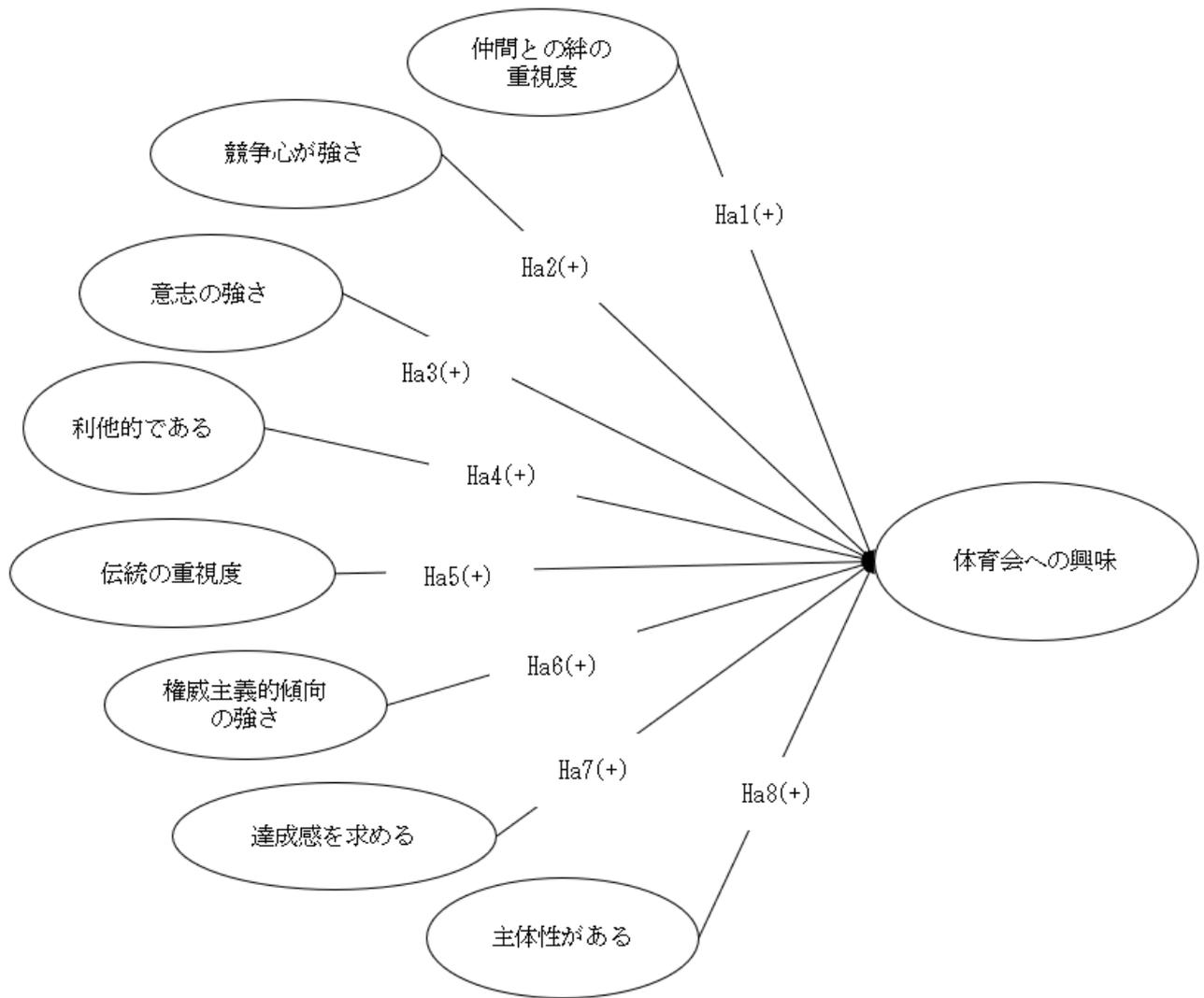
(4) 仮説のまとめ

以上の仮説を図表 4-2 にまとめ、それぞれのパス図を図表 4-3～4-5 に示す。

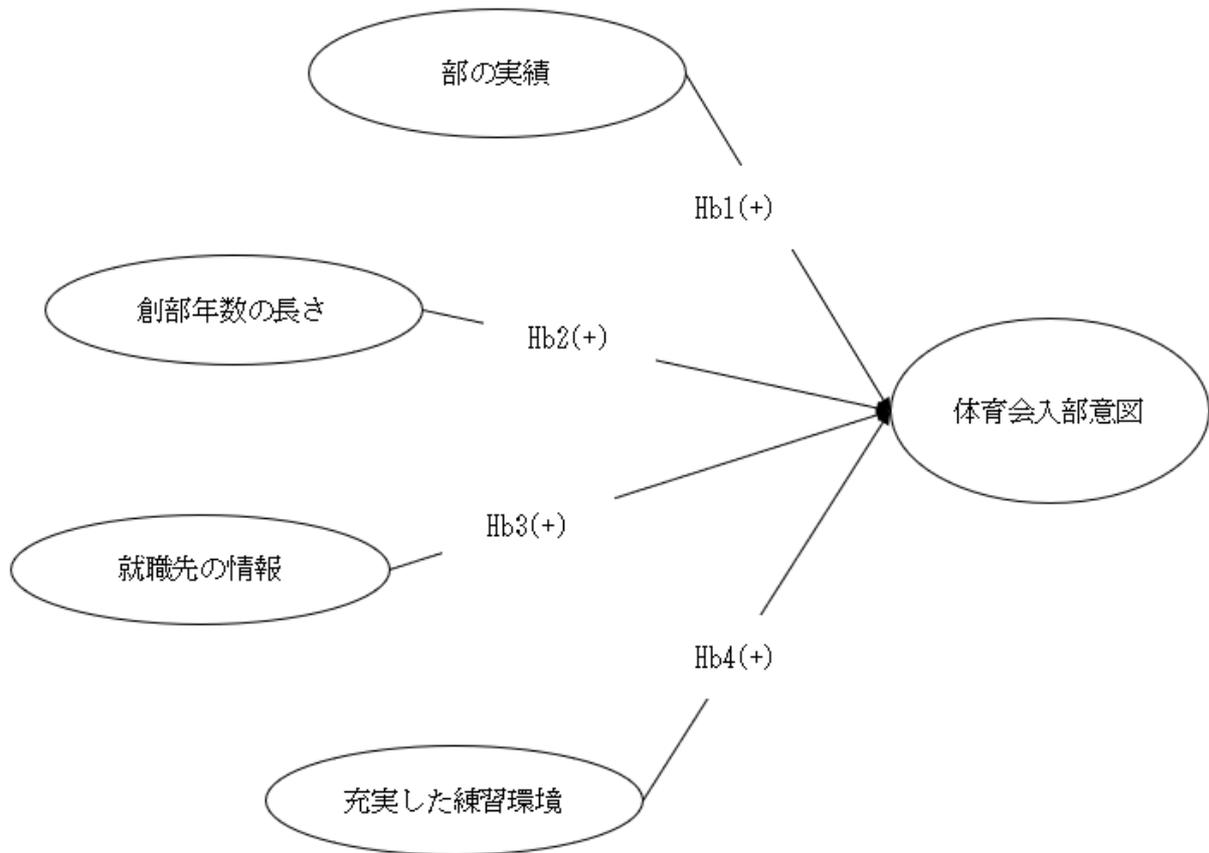
図表 4-2 仮説のまとめ

	仮説 番号	仮説	参考
消費者特性	Ha1	仲間との絆の重視度と体育会への興味は正の相関がある	栗原(1989)
	Ha2	競争心の強さと体育会への興味は正の相関がある	浅田(2014)
	Ha3	意志の強さと体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤 (2014)
	Ha4	利他的であることと体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤 (2014)
	Ha5	伝統の重視度と体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤 (2014)
	Ha6	権限主義傾向の強さと体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤 (2014)
	Ha7	達成感を求めることと体育会への興味は正の相関がある	Egloff and Jan (1996)
	Ha8	主体性があることと体育会への興味は正の相関がある	田中(2017)
部活動特性	Hb1	部の実績と体育会入部意図は正の相関がある	ヒアリング
	Hb2	創部年数の長さと体育会入部意図は正の相関がある	独自
	Hb3	就職先の情報と体育会入部意図は正の相関がある	独自
	Hb4	充実した練習環境と体育会入部意図は正の相関がある	朝日(2005)、 ヒアリング
勧誘特性	Hc1	競技未経験者の活躍の情報と未経験競技への興味は正の相関がある	Bushet al. (2011)
	Hc2	充実した新歓イベントと未経験競技への興味は正の相関がある	Bruyn and Lilien(2008)、 ヒアリング
	Hc3	競技未経験者の比率の高さと未経験競技への興味は正の相関がある	ヒアリング
	Hc4	年間スケジュールの記載と未経験競技への興味は正の相関がある	ヒアリング

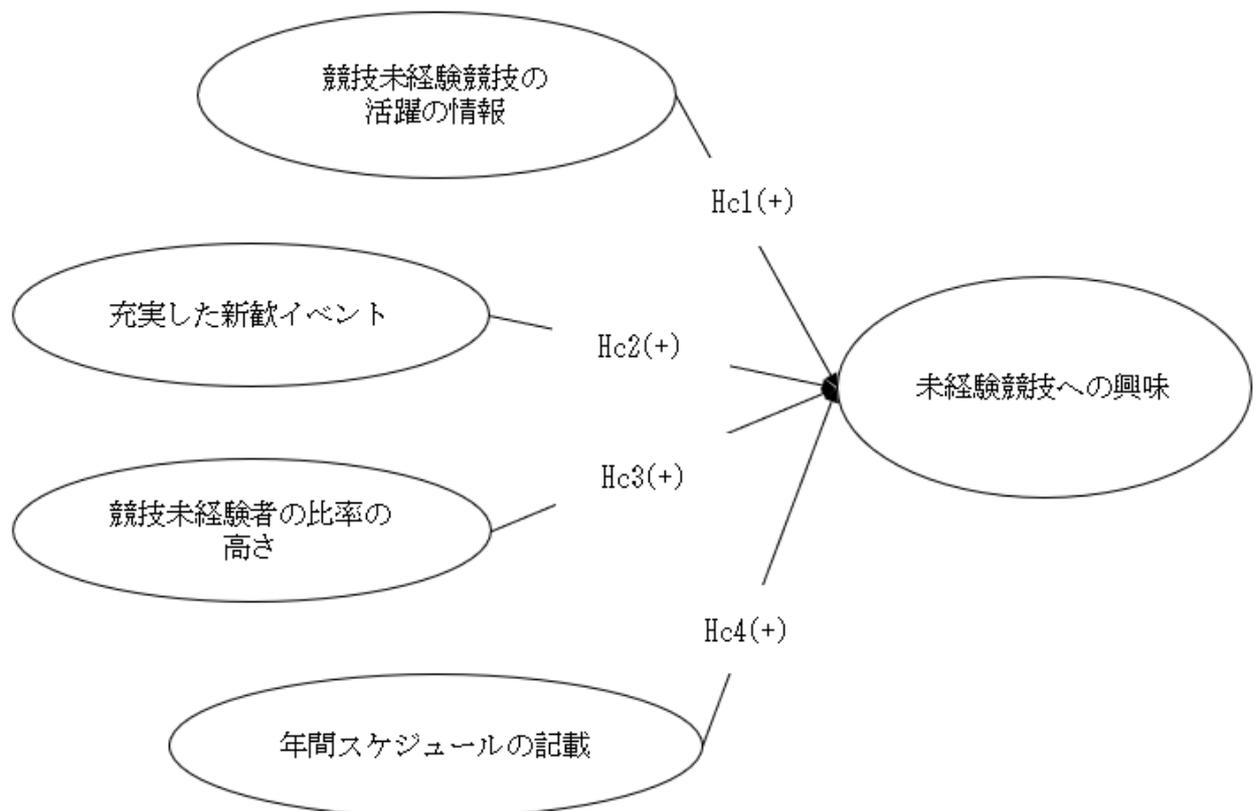
図表 4-3 パス図(消費者特性)



図表 4-4 パス図(部活動特性)



図表 4-5 パス図(勧誘特性)



5. アンケート結果

この章では、慶應義塾大学の学生を対象に行ったアンケート調査の概要の説明と、結果の集計をする。

1) 調査概要

(1) 調査対象

本研究の目的が体育会の振興であるため、研究対象は大学生とする。また、体育会部員だけでなく、体育会に所属していない一般学生も対象とすることで、2つの属性の比較を行う。

前章で設定した仮説を検証するため、2019年7月に慶應義塾大学の学生を対象にインターネット上でアンケートを実施し、235人の有効回答を得た。体育会に所属している学生は78名、その他の団体に所属している学生は139名、団体に所属していない学生は18名であった。質問項目の詳細については論文の巻末に掲載する。

(2) 分析方法

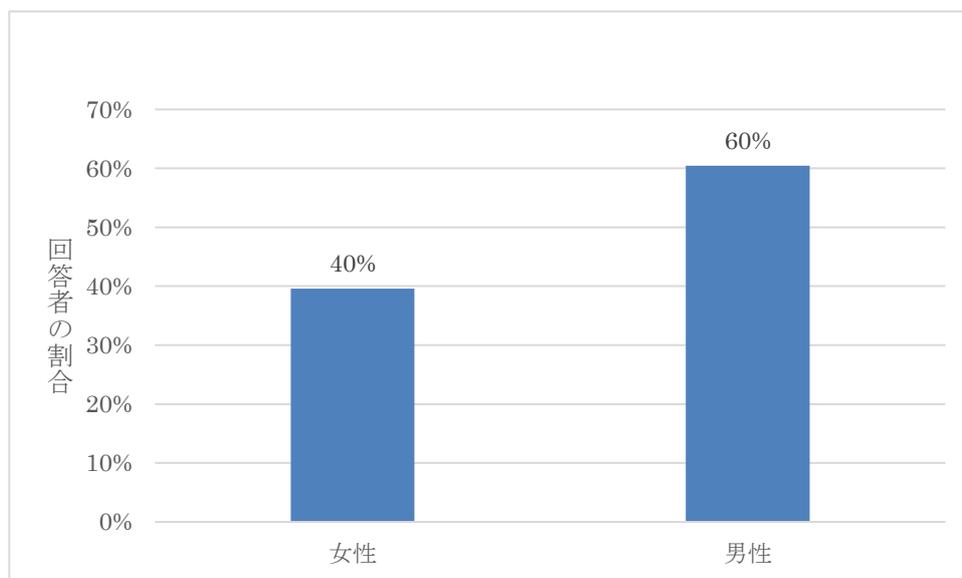
消費者特性については、大学生にアンケートをとり、「体育会への興味」と消費者特性の関係を、共分散構造分析を用いて分析する。活動特性、勧誘特性についてはコンジョイント分析を用いる。仮説に挙げた条件について、「入部意欲が高まったか」「未経験競技への興味が高まったか」を分析する。

2) 単純集計

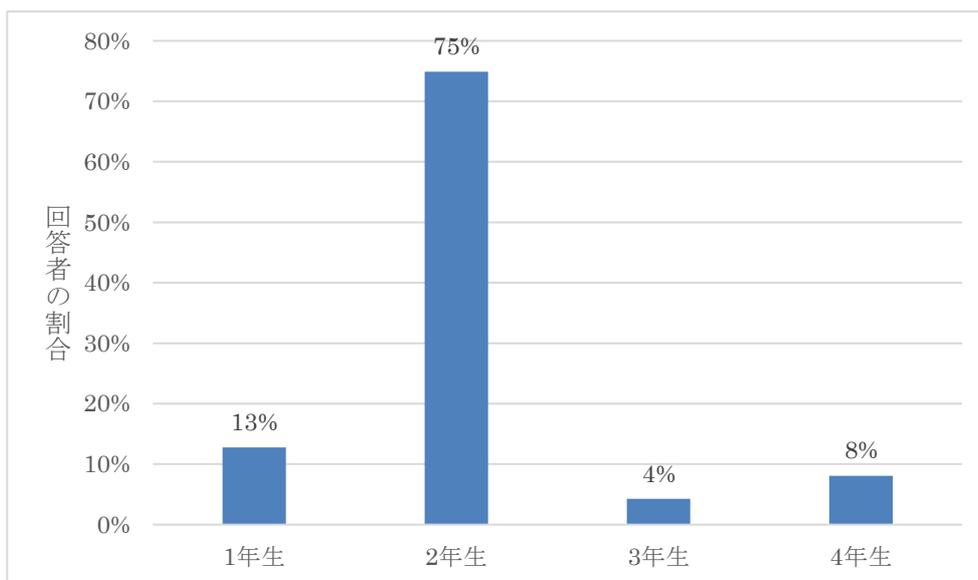
(1) 回答者の属性

まず、アンケート回答者の属性を表す。図表5-1、5-2のように、男女比は約3:2であり、回答者の約75%が大学2年生であった。

図表 5-1 性別 (N=235)



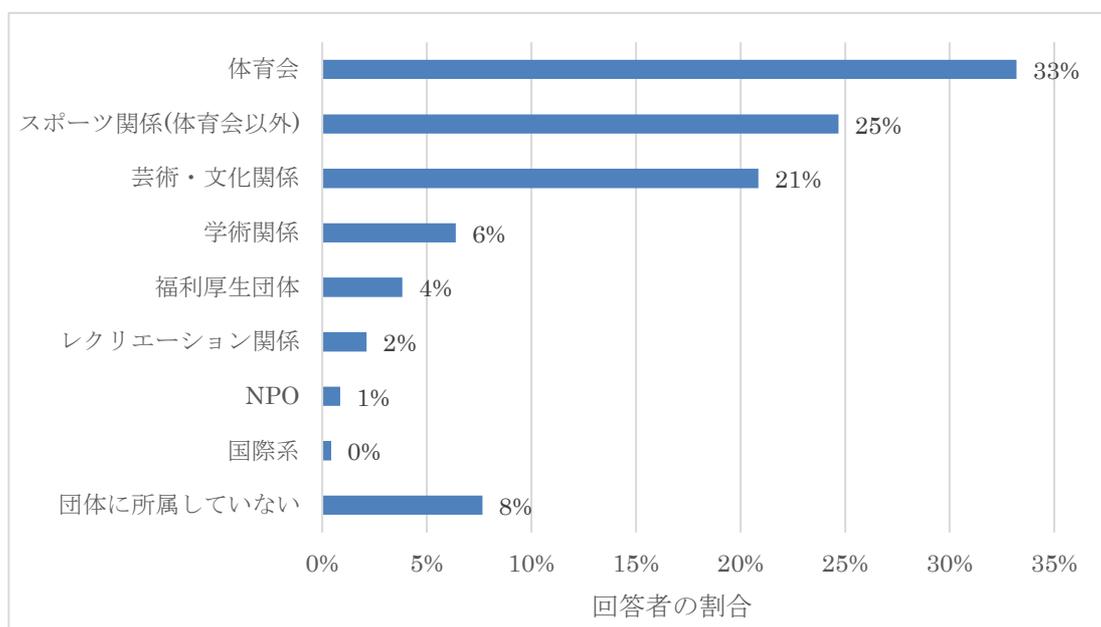
図表 5-2 学年 (N=235)



(2) 現在所属している団体について

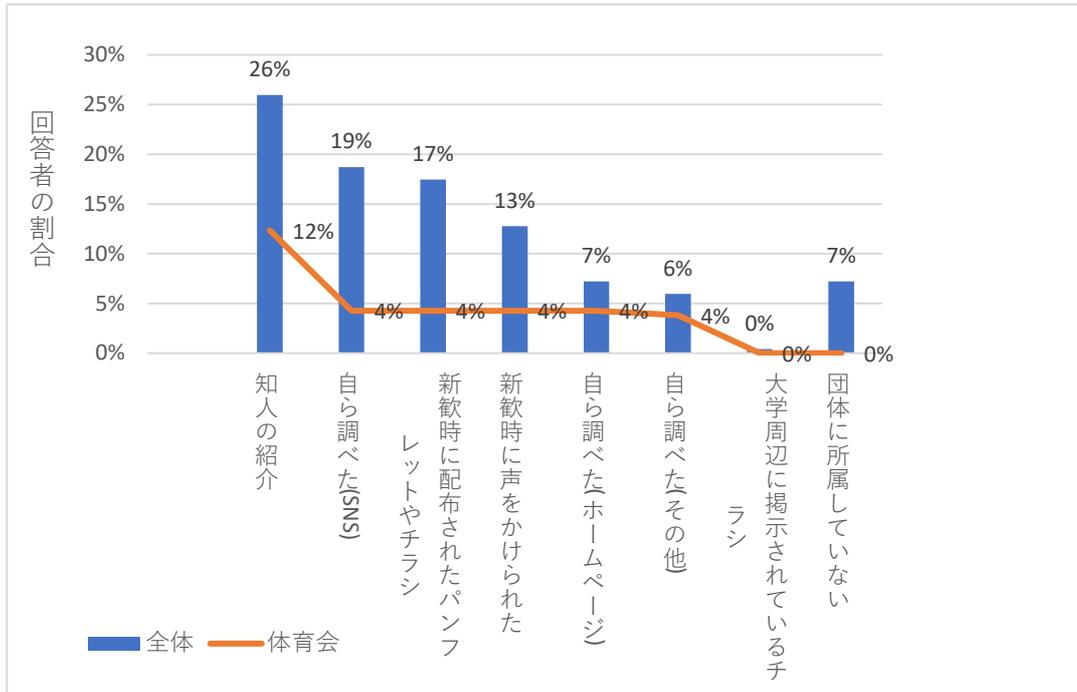
現在所属している団体の区分を図表 5-3 に表す。回答者のうち、体育会に所属している学生は全体の約 33%であった。

図表 5-3 現在所属している団体の区分 (N=235)



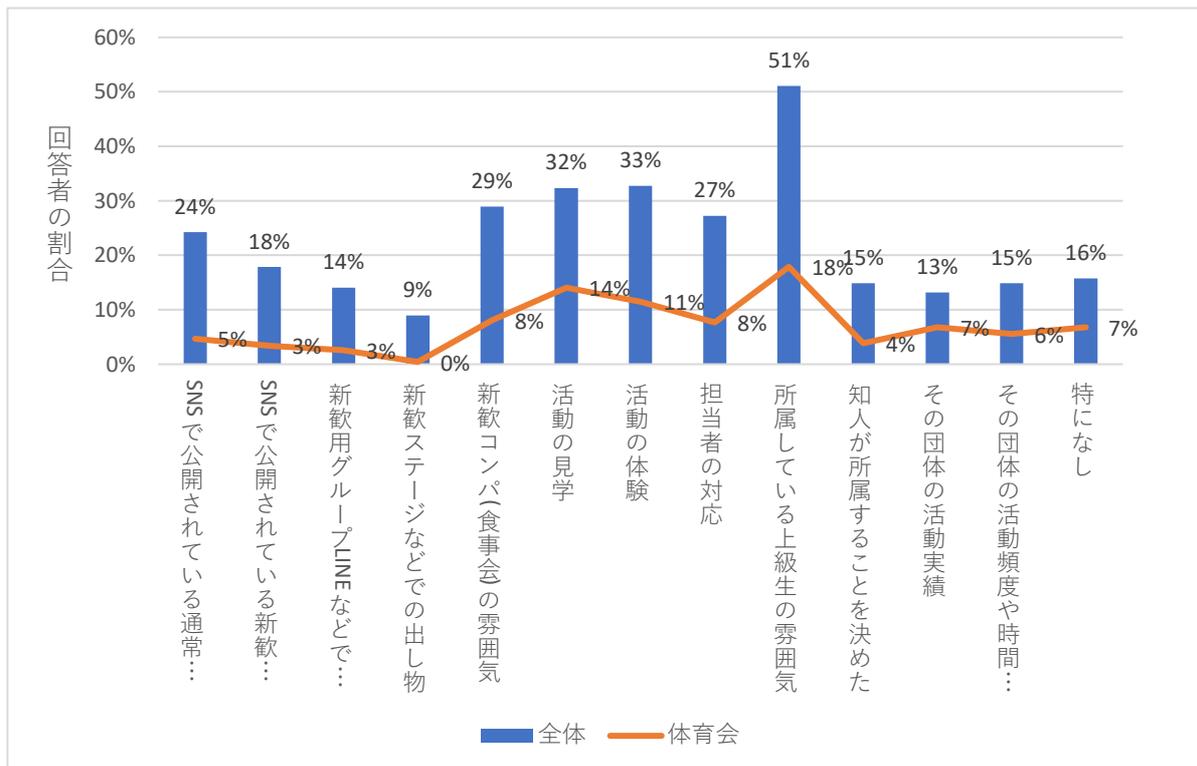
また、現在所属している団体を知った経緯についての回答結果は図表 5-4 である。体育会生の回答を折れ線で示している。「知人の紹介」という回答が約 25%で最も多かったが、「新歓時に配布されたパンフレットやチラシ」「新歓時に声をかけられた」という回答を合わせると約 30%であり、勧誘活動が所属団体を決める際に大きな役割を果たしていると言える。

図表 5-4 現在所属している団体を知った経緯 (N=235)



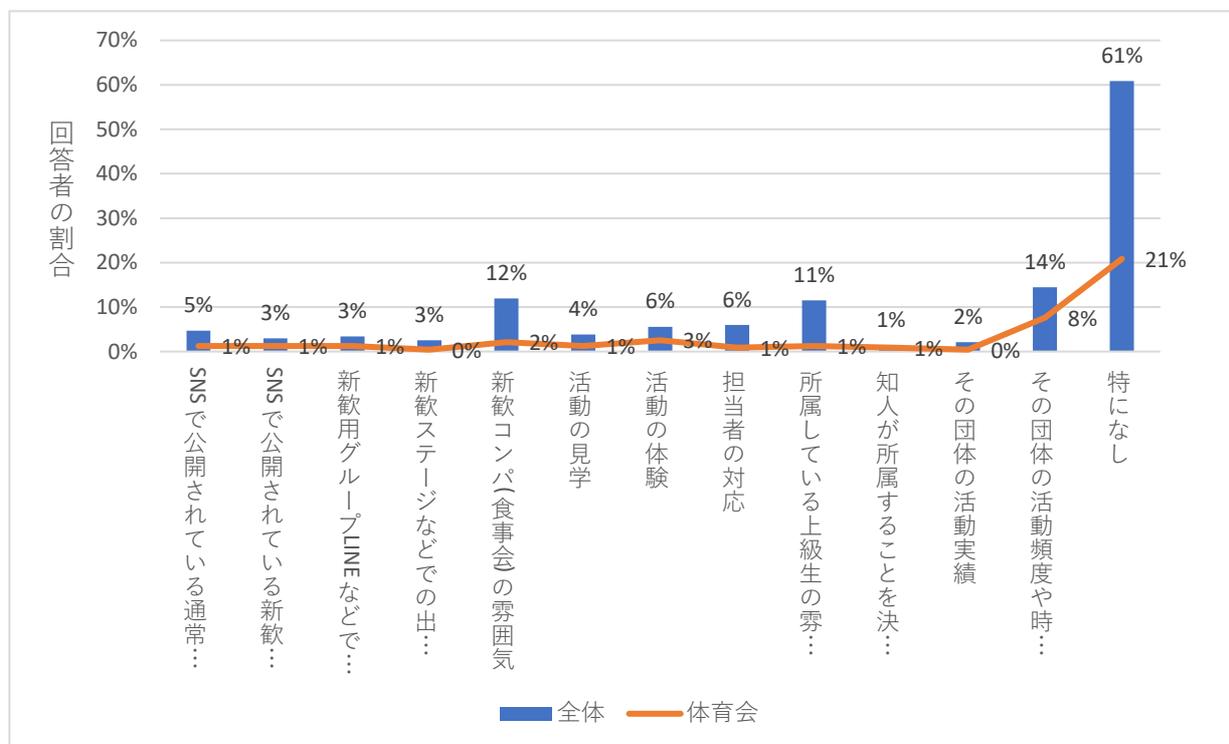
新歓期間に、団体への所属意欲が高まったことについての複数回答の結果が図表 5-5 である。体育会生の回答を折れ線で示している。最も高かった回答が「所属している上級生の雰囲気」であった。また、「活動の体験」「活動の見学」「新歓コンパ(食事会)の雰囲気」などの回答も多く、実際の活動を体感するイベントなどの開催で雰囲気を感じ取ることができる場を設けることが重要である。

図表 5-5 団体への所属意欲が高まったこと (N=235) 【複数回答】



一方、団体への所属意欲が低下したことへの回答が図表 5-6 である。体育会生の回答を折れ線で示している。所属意欲が高まったことでも上位回答であった「新歓コンパ(食事会)の雰囲気」「所属している上級生の雰囲気」が、所属意欲を低下させる原因にもなり得るということがわかった。

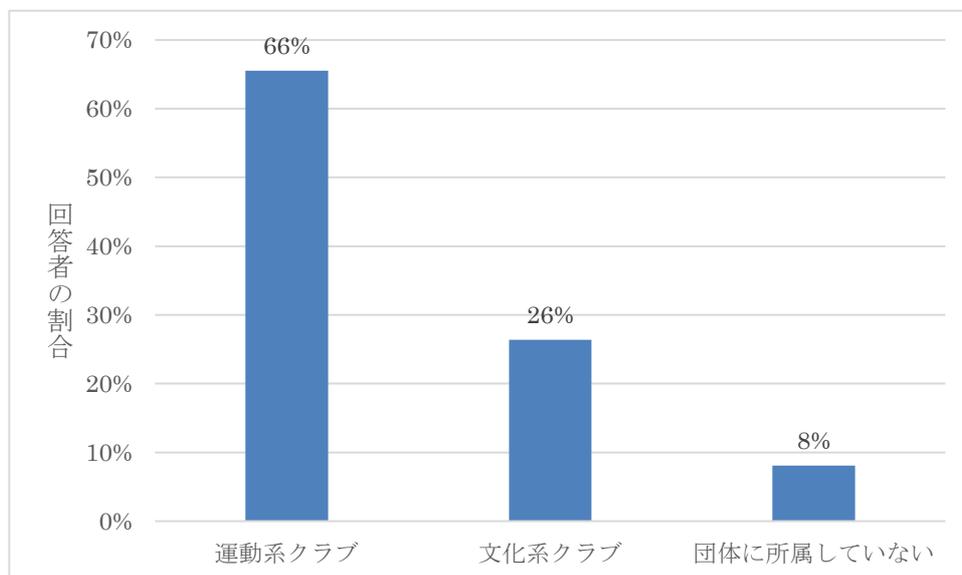
図表 5-6 団体への所属意欲が低下したこと (N=235) 【複数回答】



(3) 高校時代に所属していた団体について

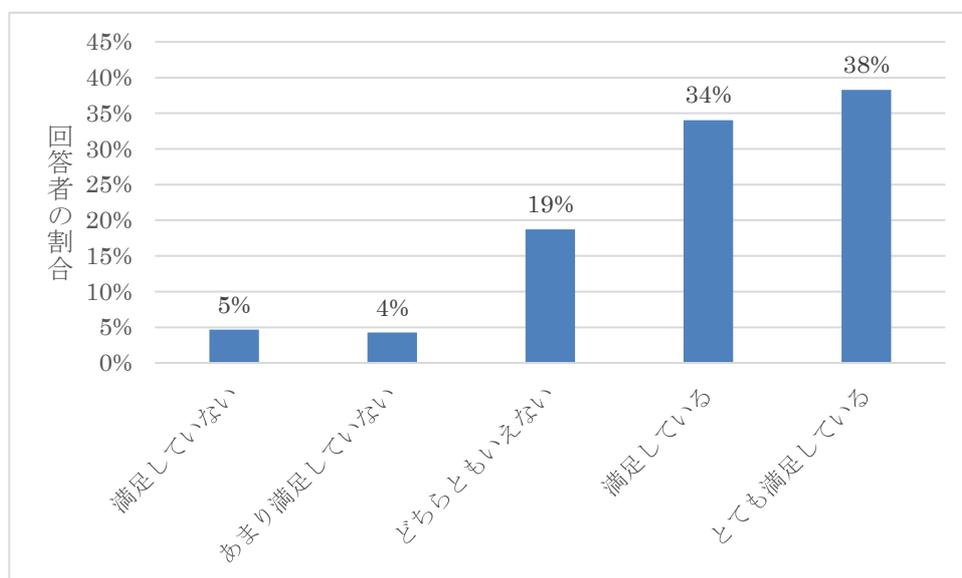
高校時代に所属していた団体の区分は図表 5-7 の通りであった。

図表 5-7 高校時代に所属していた団体の区分 (N=235)



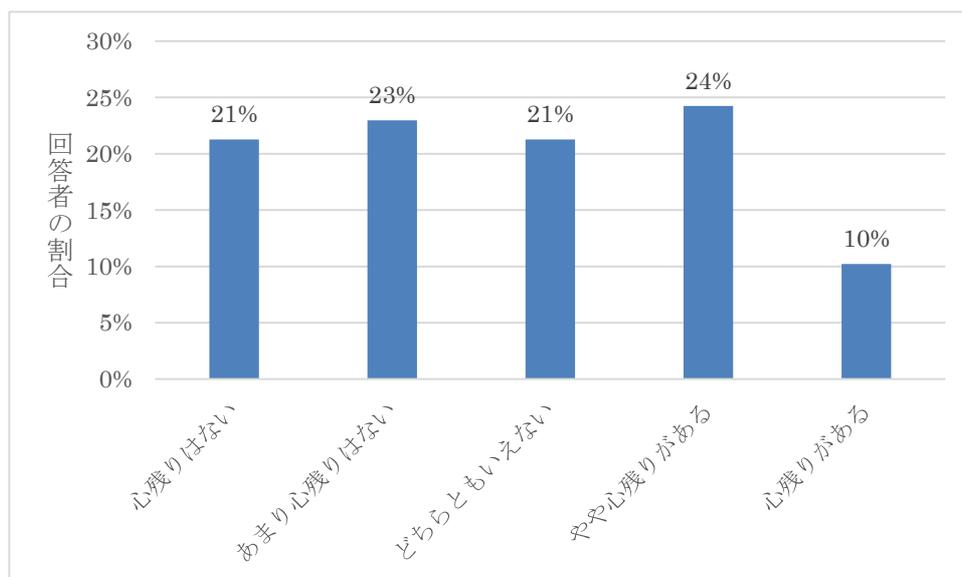
また、高校時代に所属していた団体に対する満足度を5段階で表したものが図表 5-8 である。70%以上が「満足している」以上であると回答しており、満足度が高い学生が比較的多いと言える。

図表 5-8 高校時代に所属していた団体に対する満足度 (N=235)



高校時代に所属していた団体に対する心残りを5段階で表したものが図表 5-9 である。満足度と対照的に、回答にばらつきがある結果となった。この高校時代の団体に対する心残りが、大学での所属団体にどのように影響するかも、今後の分析で明らかにしていきたい。

図表 5-9 高校時代に所属していた団体に対する心残り (N=235)



3) クロス集計

(1) 大学時代を過ごすにあたって重視していること

図表 5-10 は、大学時代を過ごすにあたって重視していることへの回答を、団体の区分別に集計したものである。それぞれの区分の回答率に 10%以上の差がある項目を網掛けで表している。体育会に所属している学生はそれ以外の学生に比べ、「何かに打ち込むこと」「何かで成果をあげること」を重視する傾向にある。一方、「大学以外での勉強に励むこと」「アルバイトをすること」は比較的重視していないことがわかる。

図表 5-10 団体の区分/大学時代を過ごすにあたって重視していること
(N=235) 【複数回答】

	回答数	大学での勉強に励むこと	大学以外での勉強に励むこと	アルバイトをすること	友人と遊ぶこと	何かに打ち込むこと	仲間を得ること	健康に過ごすこと	恋人を作ること	飲み会に参加すること	何かで成果をあげること	特になし/その他
体育会	67	48	15	8	21	52	33	17	17	3	33	1
		72%	22%	12%	31%	78%	49%	25%	25%	4%	49%	1%
体育会以外	168	107	58	37	65	57	79	29	34	14	54	1
		64%	35%	22%	39%	34%	47%	17%	20%	8%	32%	1%

注) 上段は人数、下段は回答数に占める割合。網掛けは回答率に 10%以上の差がある項目。

(2) 体育会へのイメージ

図表 5-11 は、体育会へのイメージを、団体の区分別に集計したものである。それぞれの区分の回答率に 10%以上の差がある項目を網掛けで表している。体育会に所属している学生は、「活動頻度が多い」「夜が遅い」「アルバイトとの両立ができない/大変だ」というマイナスな印象のイメージを抱えている一方、「就職活動に有利になる」「卒業後も続く仲間ができる」というプラスの印象も持っている。また、体育会に所属していない学生の 37%が「授業に出れない」という印象を持っているが、体育会の学生の回答率は 15%であった。

図表 5-11 団体の区分/体育会へのイメージ(N=235) 【複数回答】

	回答数	活動頻度が多い	練習がきつい	上下関係が厳しい	部則などの規則が厳しい	飲み会が激しい	朝が早い	夜が遅い	アルバイトとの両立ができない/大変だ	伝統を重視している	授業に出れない	勉強との両立ができない	就職活動に有利になる	卒業後も続く仲間ができる
体育会	67	61	49	41	37	15	37	18	38	44	10	16	49	47
		91%	73%	61%	55%	22%	55%	27%	57%	66%	15%	24%	73%	70%
体育会以外	168	125	124	106	77	50	89	29	77	59	62	53	89	49
		74%	74%	63%	46%	30%	53%	17%	46%	35%	37%	32%	53%	29%

注) 上段は人数、下段は回答数に占める割合。網掛けは回答率に 10%以上の差がある項目。

6. 分析結果

この章では、アンケート調査の結果をもとに、統計ソフト R を用いて共分散構造分析、コンジョイント分析、二項ロジスティック回帰分析を行い、仮説を検定した結果を述べる。

1) 共分散構造分析(消費者特性)

まず、共分散構造分析を行うための質問項目とそれに対応する変数を図表 6-1 に示す。質問内容は独自に作成した。なお、本分析の有効水準は 10% とする。

図表 6-1 共分散構造分析の質問項目

仮説番号	因子名	変数名	質問項目
被説明変数	体育会への興味	taiikukai1	体育会に所属したいと思う
		taiikukai2	体育会に所属することを検討した/している
		taiikukai3	体育会に興味がある
H1	仲間との絆の重視度	kizuna1	ともに困難を乗り越えた仲間は大切だ
		kizuna2	仲間の存在は重要だと思う
		kizuna3	学生生活の中で、信頼し合える仲間を作りたい
H2	競争心の強さ	kyousou1	相手に勝ちたいという思いが強い
		kyousou2	負けず嫌いだ
		kyousou3	勝負ごとは勝ちにこだわりたい
H3	意志の強さ	ishi1	困難なことにも諦めない
		ishi2	一度決めたことはやり通す
		ishi3	他人の意見に左右されにくい
H4	利他的である	rita1	自分のためではなく、集団のために行動する
		rita2	自分の行動によって、集団の質をあげたいと思う
		rita3	他人のためになるなら、多少の犠牲はしかたないと思う
H5	伝統の重視度	dentou1	伝統を重んじる
		dentou2	伝統的に行われてきたことは守っていききたい
		dentou3	伝統のある集団に魅力を感じる
H6	権威主義的傾向の強さ	keni1	権力のある人には逆らわない
		keni2	立場の低い人に対して、強くものをいう
		keni3	上下関係に敏感である
H7	達成感を求める	tasseikan1	何事も、やり切ることが重要だ
		tasseikan2	達成したときのことを想像しながら努力する
		tasseikan3	何かを達成するまでは途中で投げ出したくない
H8	主体性がある	shutaisei1	常に自分の考えを持っている
		shutaisei2	自分の考えに従って行動する
		shutaisei3	自分の行動に責任を持つ

(1) 探索的因子分析

まず、体育会への興味と消費者特性の9因子について、プロマックス回転を用いて、探索的因子分析を行った。サンプル数は235である。分析過程で以下の調整を行い、図表6-2のように因子を決定した。

- ・「ishi3」を「主体性がある」に変更
- ・「keni2」を削除
- ・「tasseikan3」を「意志の強さ」に変更

図表 6-2 探索的因子分析の結果

因子名	変数名	Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8	Factor9
体育会への 興味	taiikukai1	0.928								-0.137
	taiikukai2	0.826								0.155
	taiikukai3	0.953								
仲間との絆 の重視度	kizuna1				0.701					-0.102
	kizuna2				0.986	0.105				
	kizuna3				0.835					
競争心の 強さ	kyousou1		0.871					-0.103		-0.106
	kyousou2		0.813							
	kyousou3		0.908							0.101
意志の強さ	ishi1		0.274				0.614	0.113		
	ishi2						1.045			
	tasseikan3					0.104	0.577		0.207	
利他的で ある	rita1							0.663		
	rita2							0.934	-0.164	
	rita3		0.102			-0.111		0.678		
伝統の 重視度	dentou1			0.897						
	dentou2			0.937						
	dentou3			0.717						
権威主義的 傾向の強さ	keni1					-0.101	0.158			0.602
	keni3					0.162		0.11		0.492
達成感を 求める	tasseikan1							-0.144	1.124	
	tasseikan2					0.126	0.137	0.114	0.368	
主体性が ある	shutaisei1					0.939				
	shutaisei2					0.703	-0.2		0.129	
	shutaisei3					0.519		0.229		-0.186
	ishi3					0.472	0.203	-0.183	-0.148	-0.127
		Factor1	Factor2	Factor3	Factor4	Factor5	Factor6	Factor7	Factor8	Factor9
固有値	2.511	2.377	2.244	2.213	2.009	1.971	1.956	1.552	0.784	
寄与率	0.097	0.091	0.086	0.085	0.077	0.076	0.075	0.060	0.030	
累積寄与率	0.097	0.188	0.274	0.359	0.437	0.513	0.588	0.647	0.678	

(注)N=235、因子負荷量 0.368 以上を黄色で示す、p-value=0.00105

ほぼ想定通りの因子が抽出できたため、この結果を用いて確認的因子分析を行う。

(2) 確認的因子分析

(1)で定義した因子とそれぞれに対応する質問項目の測定の妥当性を検討するために、R言語のlavaanを用いて確認的因子分析を行った。その結果を図表6-3に表す。

結果としてCFI=0.943、RMSEA=0.055、SRMR=0.055、AIC=14957.562、BIC=14983.082であり、あてはまりはおおむね良好であるため、この結果を用いて共分散構造分析を行う。

図表 6-3 確認的因子分析の結果

因子名	変数名	Estimate	Std. Err	z-value	P(> z)	Std. lv	Std. all
体育会への興味	taiikukai1	1.000				1.367	0.922
	taiikukai2	1.016	0.054	18.764	0.000	1.388	0.827
	taiikukai3	1.057	0.038	27.702	0.000	1.445	0.979
仲間との絆の重視度	kizuna1	1.000				0.656	0.807
	kizuna2	0.876	0.057	15.338	0.000	0.575	0.906
	kizuna3	0.963	0.066	14.477	0.000	0.632	0.845
競争心の強さ	kyousou1	1.000				0.900	0.781
	kyousou2	0.917	0.069	13.240	0.000	0.826	0.836
	kyousou3	1.058	0.077	13.697	0.000	0.952	0.874
意志の強さ	ishil	1.000				0.850	0.845
	ishi2	1.073	0.069	15.640	0.000	0.912	0.856
	tasseikan3	0.968	0.070	13.899	0.000	0.823	0.786
利他的である	rital	1.000				0.746	0.677
	rita2	1.120	0.118	9.515	0.000	0.835	0.804
	rita3	1.071	0.121	8.846	0.000	0.799	0.703
伝統の重視度	dentou1	1.000				0.932	0.873
	dentou2	1.012	0.064	15.885	0.000	0.943	0.877
	dentou3	0.940	0.067	14.053	0.000	0.876	0.784
権威主義的傾向の強さ	kenil	1.000				0.500	0.478
	keni3	1.203	0.307	3.918	0.000	0.602	0.552
達成感を求める	tasseikan1	1.000				0.724	0.762
	tasseikan2	1.119	0.129	8.698	0.000	0.810	0.681
主体性がある	shutaisei1	1.000				0.855	0.827
	shutaisei2	0.740	0.074	10.048	0.000	0.633	0.688
	shutaisei3	0.722	0.070	10.270	0.000	0.617	0.704
	ishi3	0.791	0.095	8.354	0.000	0.677	0.575

(注)N=235, CFI=0.943, RMSEA=0.055, SRMR=0.055, AIC=14957.562, BIC=14983.082

(3) 共分散構造分析

確認的因子分析までの結果をもとに共分散構造分析を行ったところ、採択された仮説は1つであった(モデル①)。モデル①は、CFI=0.944、RMSEA=0.055、SRMR=0.055、AIC=14955.577、BIC=15256.560であった。その結果を図表6-4に表す。

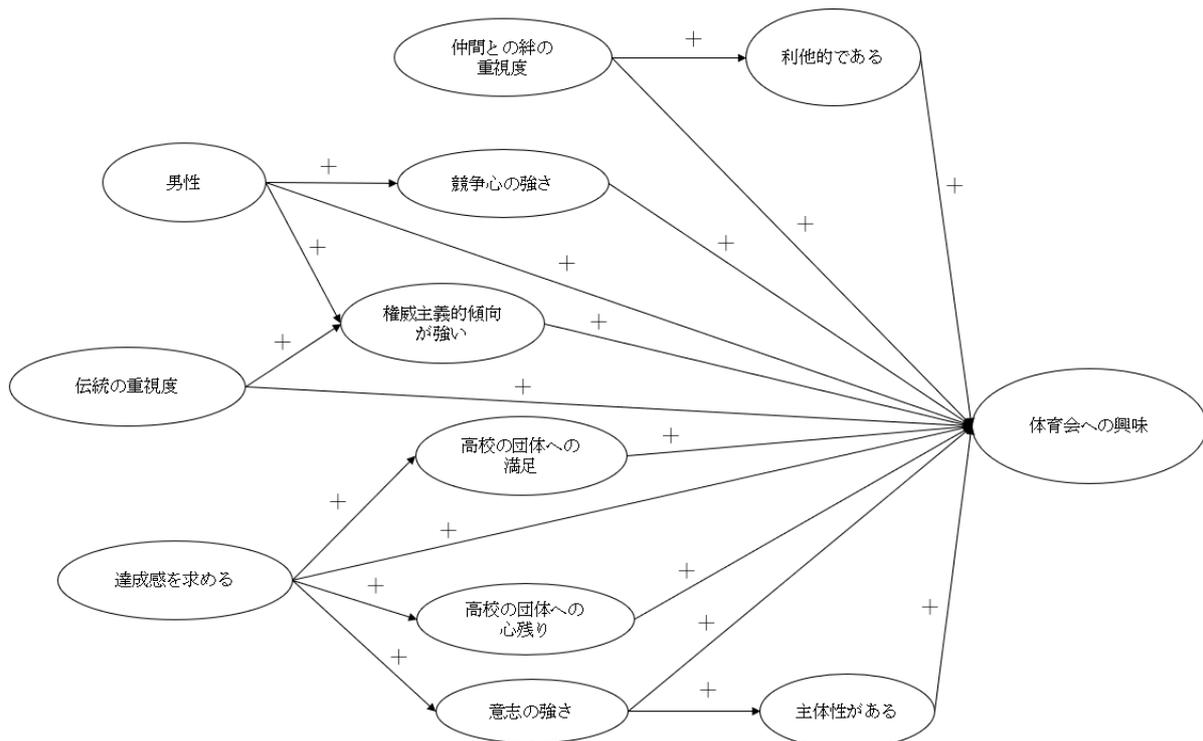
図表6-4 共分散構造分析の結果(モデル①)

	Estimate	Std. Err	z-value	P(> z)	Std. lv	Std. all	
体育会への興味 ~							
H2(+):競争心の強さ	-0.028	0.179	-0.158	0.875	-0.019	-0.019	棄却
H5(+):伝統の重視度	0.139	0.130	1.067	0.286	0.095	0.095	棄却
H1(+):仲間との絆の重視度	0.177	0.188	0.943	0.346	0.085	0.085	棄却
H8(+):主体性がある	0.148	0.159	0.930	0.353	0.092	0.092	棄却
H3(+):意志の強さ	-0.050	0.407	-0.123	0.902	-0.031	-0.031	棄却
H4(+):利他的である	0.630	0.213	2.960	0.003	0.344	0.344	採択(1%水準)
H7(+):達成感を求める	0.238	0.396	0.600	0.548	0.126	0.126	棄却
H6(+):権威主義的傾向の強さ	0.226	0.455	0.497	0.619	0.083	0.083	棄却

採択された仮説が少なかったため、アンケートで質問した、「男性であること」「高校の団体への満足感」「高校の団体への心残り」の3因子を追加し、再分析を行った(モデル②)。モデル②は、CFI=0.938、RMSEA=0.053、SRMR=0.052、AIC=16769.026、BIC=17187.636であった。

また、モデル②で追加した因子の中で、相関があると想定される因子を用い、多段階モデルを作成した(モデル③)。そのパス図を図表6-5に示す。

図表6-5 共分散構造分析のパス図(モデル③)



モデル③の分析を行ったところ、CFI=0.890、RMSEA=0.067、SRMR=0.129、AIC=16892.506、BIC=17169.272であった。

モデル③の結果、CFI、RMSEA、SRMR、AIC、BICの値のあてはまりが悪くなってしまったため、追加した「男性であること」「高校の団体への満足感」「高校の団体への心残り」をそれぞれ削除したモデルを作成した。以下の6つのモデルを比較し(図表6-6)、CFI、RMSEA、SRMR、AIC、BICの値のあてはまりが最も良いと判断されるモデル④を採用して考察をする。

図表 6-6 共分散構造分析の結果の比較(モデル①～⑥)

モデル名	概要	CFI	RMSEA	SRMR	AIC	BIC
モデル①	説明変数8因子	0.944	0.055	0.055	14955.577	15256.560
モデル②	「男性」「満足感」「心残り」の3因子を追加	0.938	0.053	0.052	16769.026	17187.636
モデル③	モデル②の多段階モデル	0.890	0.067	0.129	16892.506	17169.272
モデル④	モデル③から「男性」を削除	0.914	0.062	0.085	16492.750	16755.678
モデル⑤	モデル③から「満足感」を削除	0.897	0.067	0.130	16106.427	16372.815
モデル⑥	モデル③から「心残り」を削除	0.889	0.070	0.132	16203.502	16469.890

(注)採用するモデルを黄色で示す

追加分析を通して追加した仮説は以下の8つである。

Ha9：高校の団体への満足感は、体育会への興味に正の相関がある

Ha10：高校の団体への心残りは、体育会への興味に正の相関がある

Ha11：仲間との絆の重視度は、利他的であることに正の相関がある

Ha12：伝統の重視度は、権威主義的行動の強さに正の相関がある

Ha13：意志の強さは、主体性があることに正の相関がある

Ha14：達成感を求めることは、意志の強さに正の相関がある

Ha15：達成感を求めることは、高校の団体への満足感に正の相関がある

Ha16：達成感を求めることは、高校の団体への後悔に正の相関がある

モデル④の分析結果、仮説の検定結果、結果パス図を、図表6-7～6-9にまとめる。

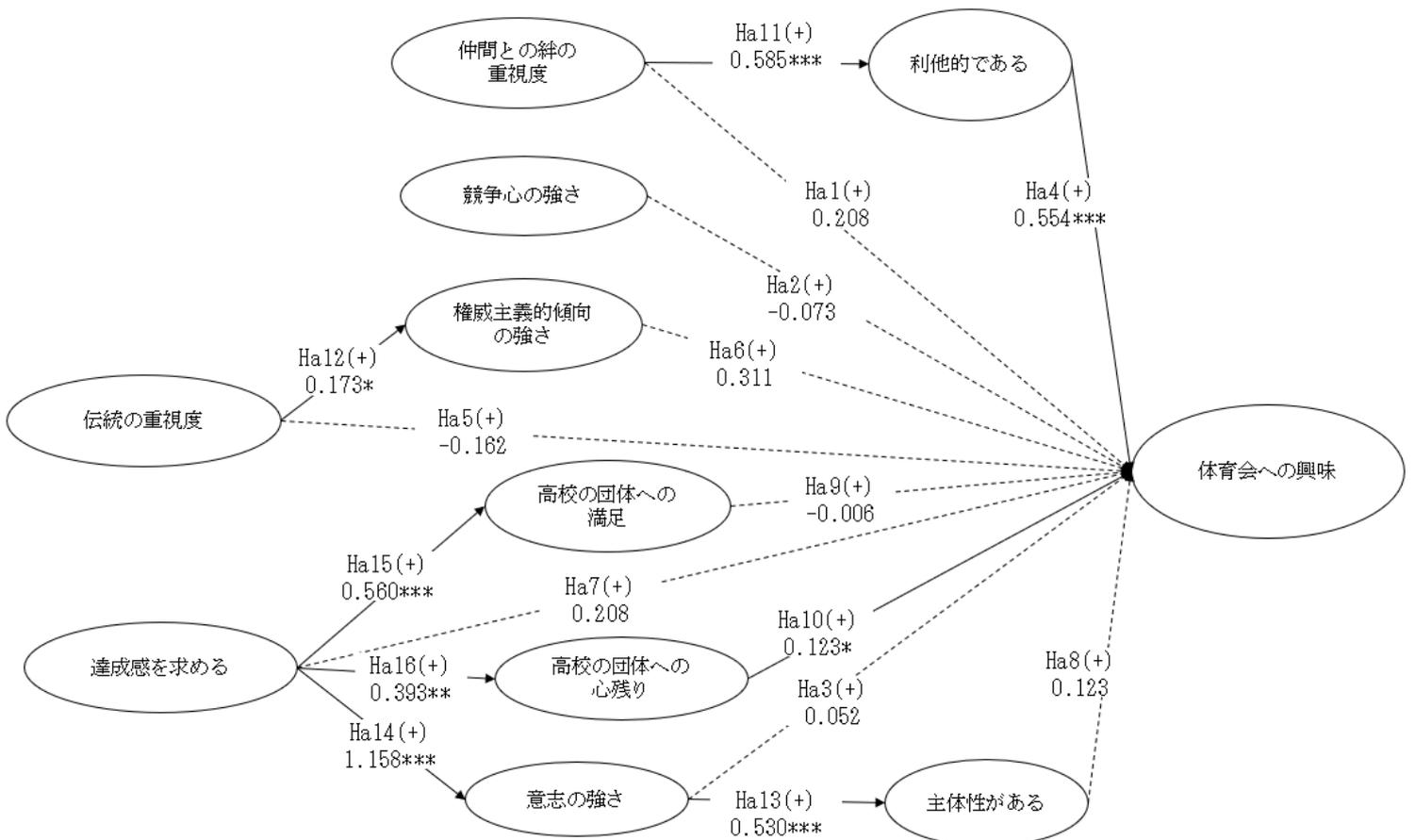
図表 6-7 共分散構造分析の結果(モデル④)

	Estimate	Std. Err	z-value	P(> z)	Std. lv	Std. all	
体育会への興味 ~							
Ha2(+):競争心の強さ	-0.073	0.151	-0.480	0.631	-0.048	-0.048	棄却
Ha5(+):伝統の重視度	0.162	0.116	1.396	0.163	0.112	0.112	棄却
Ha1(+):仲間との絆の重視度	0.208	0.199	1.045	0.296	0.101	0.101	棄却
Ha8(+):主体性がある	0.123	0.121	1.018	0.309	0.079	0.079	棄却
Ha3(+):意志の強さ	0.052	0.366	0.142	0.887	0.032	0.032	棄却
Ha4(+):利他的である	0.554	0.156	3.547	0.000	0.301	0.301	採択(0.1%水準)
Ha7(+):達成感を求める	0.208	0.643	0.324	0.746	0.096	0.096	棄却
Ha6(+):権威主義的傾向の強さ	0.311	0.331	0.939	0.348	0.086	0.086	棄却
Ha9(+):高校の団体への満足感	-0.006	0.079	-0.074	0.941	-0.005	-0.005	棄却
Ha10(+):高校の団体への心残り	0.123	0.062	1.989	0.047	0.118	0.118	採択(5%水準)
利他的である ~							
Ha11(+):仲間との絆の重視度	0.585	0.094	6.199	0.000	0.525	0.525	採択(0.1%水準)
権威主義的傾向の強さ ~							
Ha12(+):伝統の重視度	0.173	0.076	2.291	0.022	0.432	0.432	採択(5%水準)
主体性がある ~							
Ha13(+):意志の強さ	0.530	0.078	6.821	0.000	0.509	0.509	採択(0.1%水準)
意志の強さ ~							
Ha14(+):達成感を求める	1.158	0.134	8.645	0.000	0.867	0.867	採択(0.1%水準)
高校の団体への満足感 ~							
Ha15(+):達成感を求める	0.560	0.128	4.388	0.000	0.324	0.324	採択(0.1%水準)
高校の団体への心残り ~							
Ha16(+):達成感を求める	0.393	0.151	2.599	0.009	0.189	0.189	採択(1%水準)

図表 6-8 仮説の検定結果

仮説番号	仮説	結果	
Ha1	仲間との絆の重視度は、体育会への興味に正の相関がある	棄却	
Ha2	競争心の強さは、体育会への興味に正の相関がある	棄却	
Ha3	意志の強さは、体育会への興味に正の相関がある	棄却	
Ha4	利他的であることは、体育会への興味に正の相関がある	採択 (0.1%水準)	
Ha5	伝統の重視度は、体育会への興味に正の相関がある	棄却	
Ha6	権限主義的傾向の強さは、体育会への興味に正の相関がある	棄却	
Ha7	達成感を求めることは、体育会への興味に正の相関がある	棄却	
Ha8	主体性があることは、体育会への興味に正の相関がある	棄却	
追加分析	Ha9	高校の団体への満足感は、体育会への興味に正の相関がある	棄却
	Ha10	高校の団体への心残りは、体育会への興味に正の相関がある	採択 (5%水準)
	Ha11	仲間との絆の重視度は、利他的であることに正の相関がある	採択 (0.1%水準)
	Ha12	伝統の重視度は、権威主義的傾向の強さに正の相関がある	採択 (5%水準)
	Ha13	意志の強さは、主体性があることに正の相関がある	採択 (0.1%水準)
	Ha14	達成感を求めることは、意志の強さに正の相関がある	採択 (0.1%水準)
	Ha15	達成感を求めることは、高校の団体への満足感に正の相関がある	採択 (0.1%水準)
	Ha16	達成感を求めることは、高校の団体への心残りに正の相関がある	採択 (1%水準)

図表 6-9 共分散構造分析の結果パス図(モデル④)



実線:採択、破線:棄却、有意水準 0.1%*** 1%** 5%*

2) コンジョイント分析(部活動特性)

Hb1～Hb4 を検定するために、コンジョイント分析を行う。なお、本分析の有効水準は10%とする。

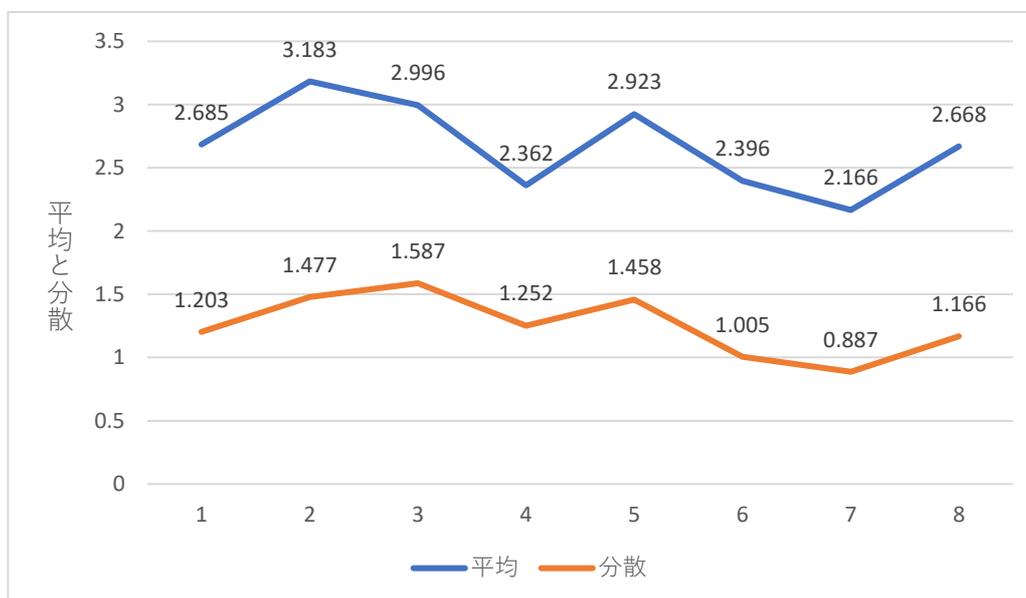
構成要素の組み合わせと水準を決めるために、R を用いて直交表を作成した(図表 6-10)。これを用い、プロフィールを作成した。

図表 6-10 コンジョイント分析(部活動特性) 直交表

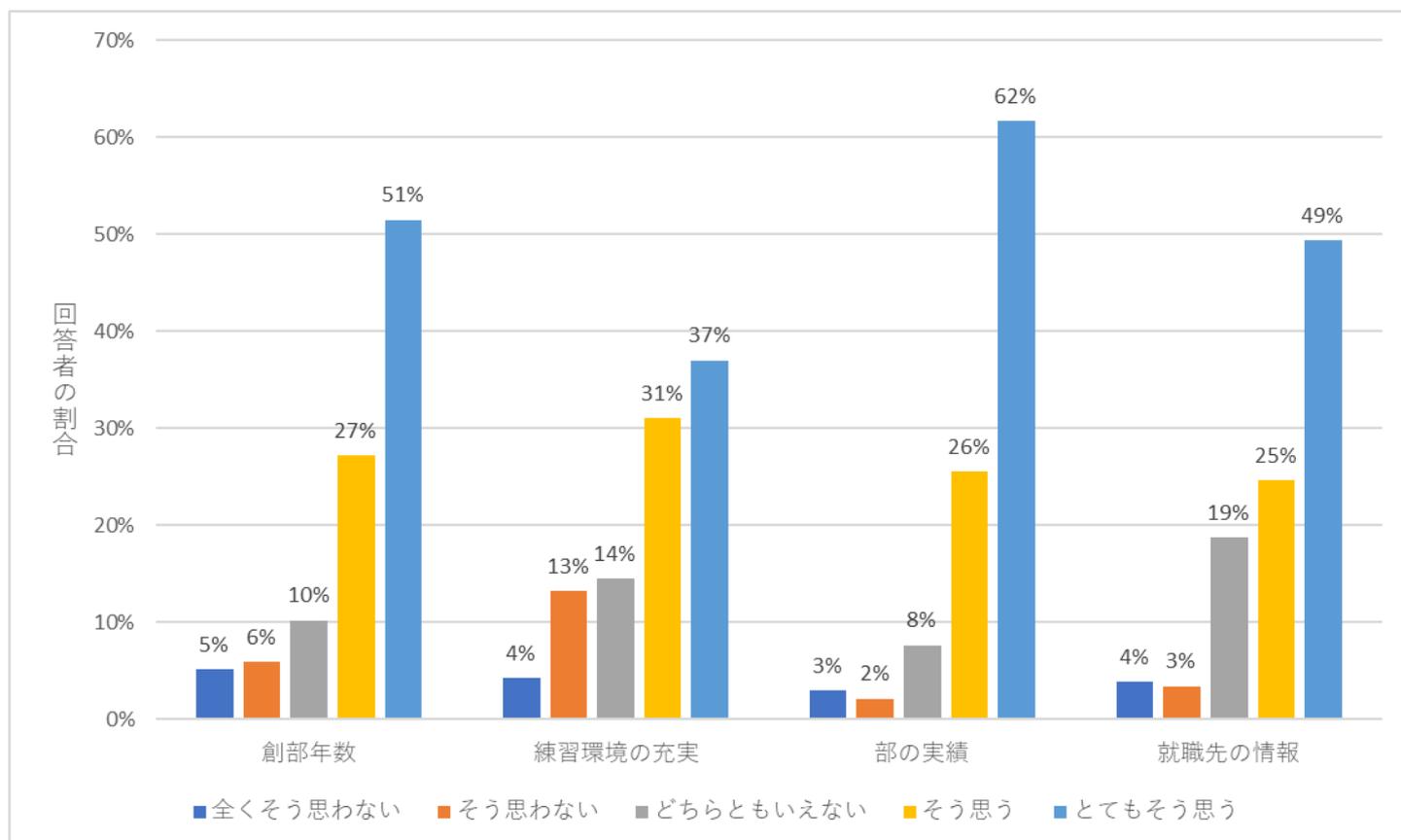
	部の実績	創部年数	就職先の情報	練習環境
部活 1	ない	120 年	あり	良い
部活 2	ある	20 年	あり	良い
部活 3	ある	120 年	なし	良い
部活 4	ない	20 年	なし	良い
部活 5	ある	120 年	あり	悪い
部活 6	ない	20 年	あり	悪い
部活 7	ない	120 年	なし	悪い
部活 8	ある	20 年	なし	悪い

コンジョイント分析で用いる回答の平均と分散を図表 6-11 に示す。また、マニピュレーションチェックの結果を図表 6-12 に表す。

図表 6-11 平均と分散



図表 6-12 マニピュレーションチェック (各項目について、画像を見て意識できたか)



分析の結果、過去の実績 (Estimate=0.270、t-value=10.445、P=2e-16)、就職先の情報 (Estimate=0.124、t-value=4.811、P=1.62e-06)、練習環境 (Estimate=0.134、t-value=0.025、P=2.44e-07) が 0.1%水準で有意となった。また、創部年数 (Estimate=0.020、t-value=0.025、P=0.435) が棄却された。

よって以下の仮説が採択された。

Hb1 : 部の実績は、体育会入部意図に正の相関がある

Hb2 : 創部年数の長さは、体育会入部意図に正の相関がある

Hb4 : 充実した練習環境は体育会入部意図に正の相関がある

また、以下の仮説が棄却された。

Hb3 就職先の情報は、体育会入部意図に正の相関がある

図表 6-13~6-15 に、コンジョイント分析の結果、仮説の結果、結果パス図を示す。

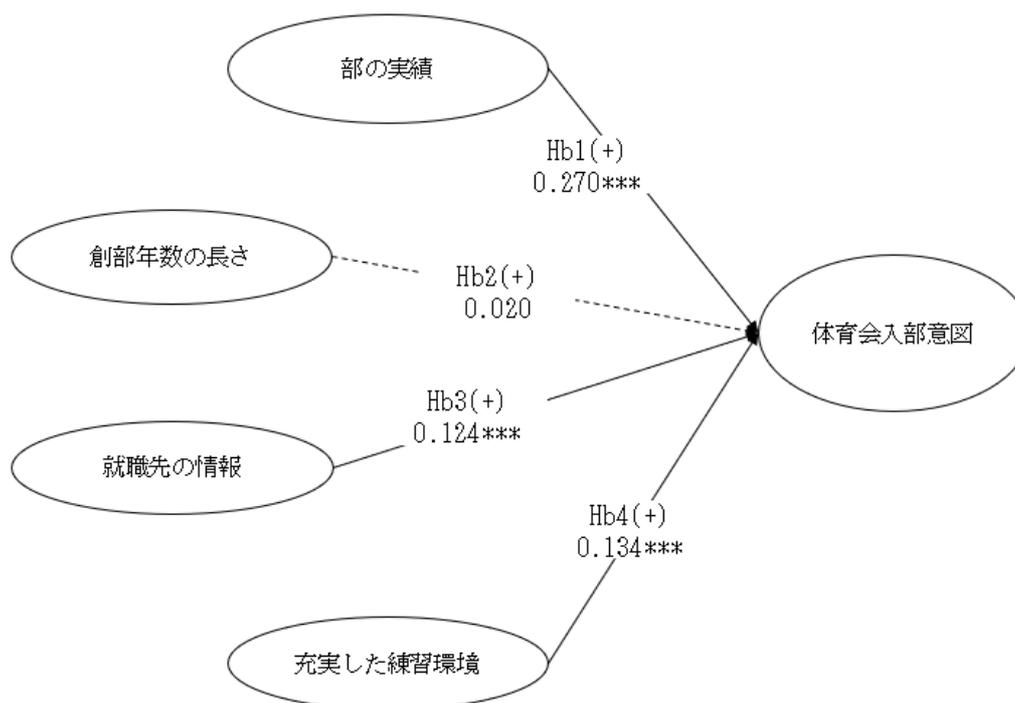
図表 6-13 コンジョイント分析(部活動特性)の結果

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)	検定結果
(Intercept)	267.234	0.025	103.297	< 2e-16	
部の実績	0.270	0.025	10.445	< 2e-16	採択(0.1%水準)
創部年数	0.020	0.025	0.781	0.435	棄却
就職先の情報	0.124	0.025	4.811	1.62e-06	採択(0.1%水準)
練習環境	0.134	0.025	5.181	2.44e-07	採択(0.1%水準)

図表 6-14 コンジョイント分析(部活動特性) 結果まとめ

仮説番号	仮説	結果
Hb1	部の実績は、体育会入部意図に正の相関がある	採択(0.1%水準)
Hb2	創部年数の長さは、体育会入部意図に正の相関がある	棄却
Hb3	就職先の情報は、体育会入部意図に正の相関がある	採択(0.1%水準)
Hb4	充実した練習環境は体育会入部意図に正の相関がある	採択(0.1%水準)

図表 6-15 コンジョイント分析(部活動特性) 結果パス図



実線:採択、破線:棄却、有意水準 0.1%=*** 1%=** 5%=*

3) コンジョイント分析(勧誘特性)

Hc1~Hc4 を検定するために、コンジョイント分析を行う。なお、本分析の有効水準は10%とする。

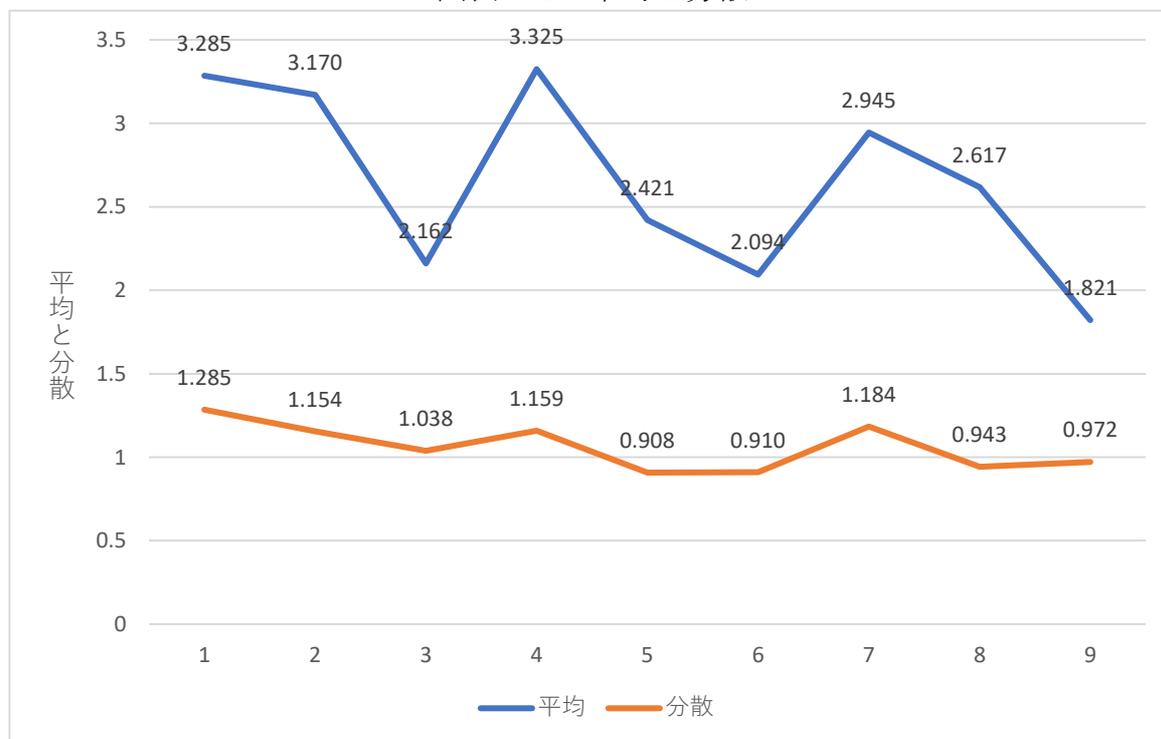
構成要素の組み合わせと水準を決めるために、R を用いて直交表を作成した(図表 6-16)。これを用い、プロフィールを作成した。

図表 6-16 コンジョイント分析(勧誘特性) 直交表

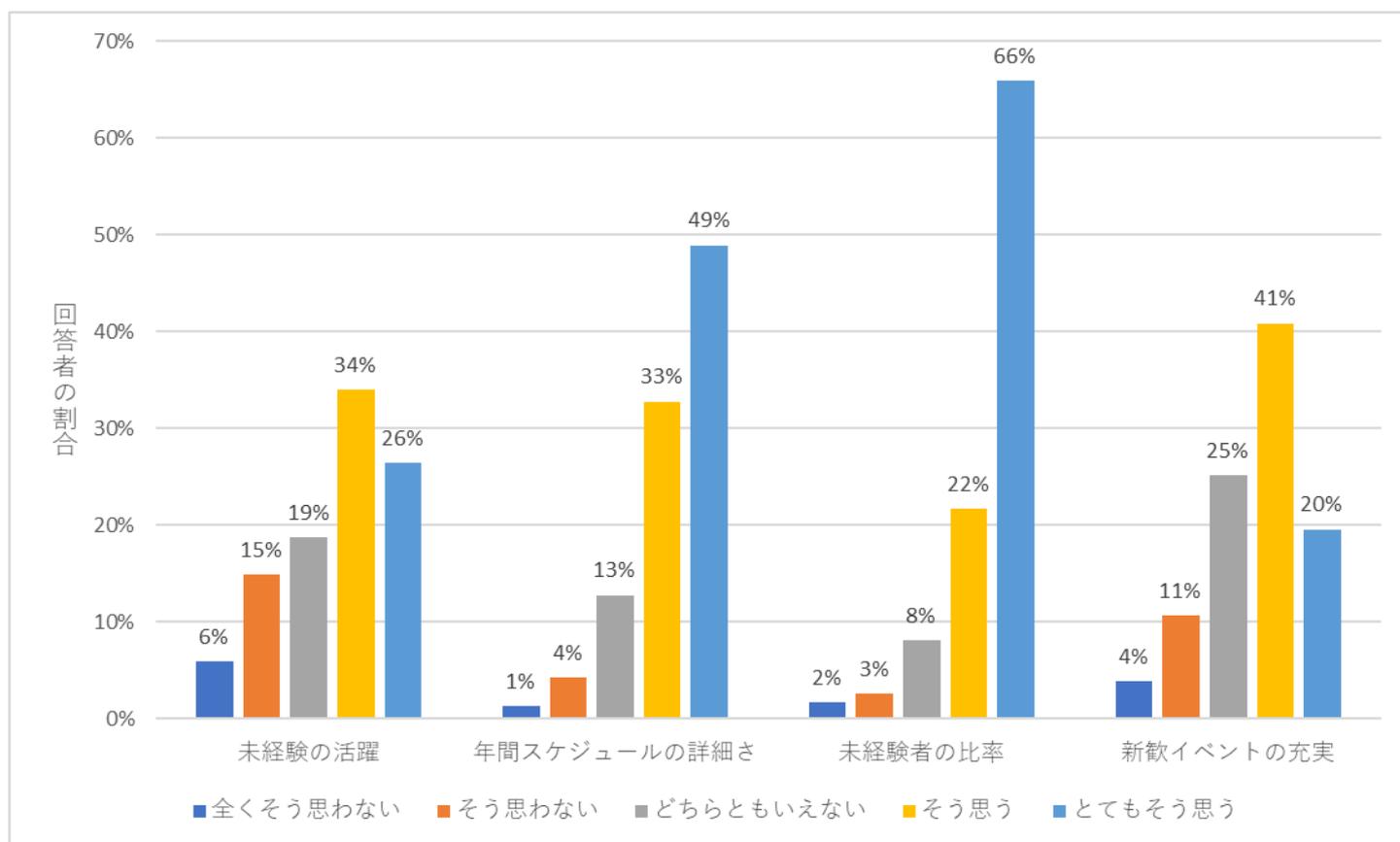
	未経験者の活躍	イベントの情報	未経験者の比率	年間スケジュール
勧誘 1	ない	なし	90%	明確
勧誘 2	ある	あり	50%	明確
勧誘 3	ない	あり	10%	明確
勧誘 4	ある	あり	90%	簡潔
勧誘 5	ない	なし	50%	簡潔
勧誘 6	ない	あり	10%	簡潔
勧誘 7	ない	あり	90%	なし
勧誘 8	ない	あり	50%	なし
勧誘 9	ある	なし	10%	なし

コンジョイント分析で用いる回答の平均と分散を図表 6-17 に示す。また、マニピュレーションチェックの結果を図表 6-18 に表す。

図表 6-16 平均と分散



図表 6-18 マニピュレーションチェック (各項目について、画像を見て意識できたか)



この分析では、競技未経験者の活躍の情報 (Estimate=0.092、t-value=3.874、P=0.000)、充実した新歓イベント (Estimate=0.105、t-value=4.391、P=1.18e-05)、競技未経験者の比率の高さ [90%] (Estimate=0.536、t-value=16.849、P=2e-16)、詳細な年間スケジュールの記載 (Estimate=0.223、t-value=0.032、P=2.83e-12) が 0.1%水準で、競技未経験者の比率の高さ [50%] (Estimate=0.087、t-value=0.032、P=2.745) が 1%水準で有意となった。また、簡潔な年間スケジュールの記載 (Estimate=-0.036、t-value=-1.119、P=0.263) が棄却となった。

よって以下の仮説が採択された。

Hc1 : 競技未経験者の活躍の情報は、未経験競技への興味に正の相関がある

Hc2 : 充実した新歓イベントは、未経験競技への興味に正の相関がある

Hc3 : 競技未経験者の比率が 90%であることは、未経験競技への興味に正の相関がある

Hc3' : 競技未経験者の比率が 50%であることは、未経験競技への興味に正の相関がある

Hc4 : 詳細な年間スケジュールの記載は、未経験競技への興味に正の相関がある

また、以下の仮説が棄却された。

Hc4' : 簡潔な年間スケジュールの記載は、未経験競技への興味に正の相関がある

図表 6-19～6-21 に、コンジョイント分析の結果、仮説の結果、結果パス図を示す。

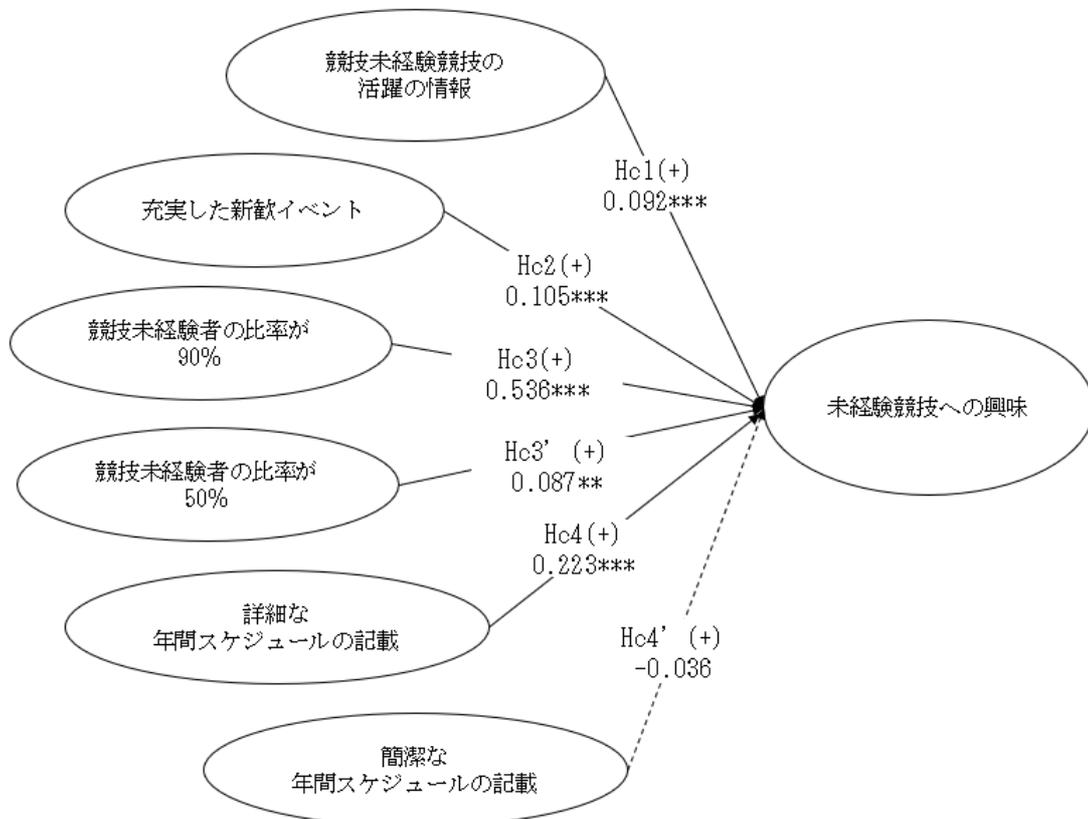
図表 6-19 コンジョイント分析(部活動特性)の結果

	Estimate	Std. Error	t value	Pr(> t)	検定結果
(Intercept)	264.476	0.025	105.179	< 2e-16	
未経験者の活躍	0.092	0.024	3.874	0.000	採択(0.1%水準)
新歓イベント	0.105	0.024	4.391	1.18e-05	採択(0.1%水準)
未経験者の比率	90%	0.536	16.849	< 2e-16	採択(0.1%水準)
	50%	0.087	2.745	0.006	採択(1%水準)
年間スケジュール	明確	0.223	7.027	2.83e-12	採択(0.1%水準)
	簡潔	-0.036	0.032	-1.119	0.263

図表 6-20 コンジョイント分析(部活動特性) 結果まとめ

仮説番号	仮説	結果
Hc1	競技未経験者の活躍の情報は、未経験競技への興味に正の相関がある	採択(0.1%水準)
Hc2	充実した新歓イベントは、未経験競技への興味に正の相関がある	採択(0.1%水準)
Hc3	競技未経験者の比率が90%であることは、未経験競技への興味に正の相関がある	採択(0.1%水準)
Hc3'	競技未経験者の比率が50%であることは、未経験競技への興味に正の相関がある	採択(1%水準)
Hc4	詳細な年間スケジュールの記載は、未経験競技への興味に正の相関がある	採択(0.1%水準)
Hc4'	簡潔な年間スケジュールの記載は、未経験競技への興味に正の相関がある	棄却

図表 6-21 コンジョイント分析(部活動特性) 結果パス図



実線:採択、破線:棄却、有意水準 0.1%=*** 1%=** 5%=*

4) 追加分析

アンケートにおいて実態調査として質問した「大学時代を過ごすにあたって重視していること」「体育会へのイメージ」への回答をもとに、所属している団体の区分(体育会=1、それ以外の団体・所属していない=0)を用いて、二項ロジスティック回帰分析を行った。なお、本分析の有効水準は10%とする。

(1) 二項ロジスティック回帰分析(大学時代を過ごすにあたって重視していること)

実態調査において、「大学時代を過ごすにあたって重視しているもの」として以下の10項目があてはまるかを、複数回答で調査した。

- | | |
|------------------|-----------------|
| 1. 大学での勉強に励むこと | 6. 仲間を得ること |
| 2. 大学以外での勉強に励むこと | 7. 健康に過ごすこと |
| 3. アルバイトをすること | 8. 恋人を作ること |
| 4. 友人と遊ぶこと | 9. 飲み会に参加すること |
| 5. 何かに打ち込むこと | 10. 何かで成果をあげること |

この質問への回答と体育会への所属の関係を明らかにするため、二項ロジスティック回帰分析を行った。分析結果を図表 6-22、6-23 に表す。

その結果、何かに打ち込むこと (Estimate=1.172、z-value=2.893、P=0.004) が1%水準で、仲間を得ること (Estimate=0.599、z-value=1.655、P=0.098) が10%水準で、正で有意となった。

また、友人と遊ぶこと (Estimate=-1.407、z-value=-3.959、P=0.000) が0.1%水準で、大学以外での勉強に励むこと (Estimate=-1.026、z-value=-2.737、P=0.006) が1%水準で、アルバイトをすること (Estimate=-0.979、z-value=-2.327、P=0.020) が5%水準で、飲み会に参加すること (Estimate=-1.332、z-value=1.372、P=0.170) が10%水準で、負で有意となった。

よって以下の項目が、体育会への所属と正の相関がある。

5. 何かに打ち込むこと
6. 仲間を得ること

また、以下の項目が、体育会への所属と負の相関がある。

2. 大学以外での勉強に励むこと
3. アルバイトをすること
4. 友人と遊ぶこと
9. 飲み会に参加すること

図表 6-22 二項ロジスティック回帰分析(大学時代を過ごすにあたって重視していること)の結果

	Estimate	Std. Error	z value	Pr(> z)	検定結果
(Intercept)	-0.956	0.458	-2.085	0.037	
大学での勉強に励むこと	-0.353	0.346	-1.021	0.308	棄却
大学以外での勉強に励むこと	-1.026	0.375	-2.737	0.006	負で有意(1%水準)
アルバイトをすること	-0.979	0.421	-2.327	0.020	負で有意(5%水準)
友人と遊ぶこと	-1.407	0.355	-3.959	0.000	負で有意(0.1%水準)
何かに打ち込むこと	1.172	0.405	2.893	0.004	正で有意(1%水準)
仲間を得ること	0.599	0.362	1.655	0.098	正で有意(10%水準)
健康に過ごすこと	0.477	0.366	1.302	0.193	棄却
恋人を作ること	0.697	0.442	1.577	0.115	棄却
飲み会に参加すること	-1.332	0.756	-1.760	0.078	負で有意(10%水準)
何かで成果をあげること	0.445	0.324	1.372	0.170	棄却

(注)赤字は正で有意、青字は負で有意

図表 6-23 大学時代を過ごすにあたって重視していることと体育会への所属の結果

体育会への所属との関係	大学時代を過ごすにあたって重視していること	有意水準
正の相関がある	何かに打ち込むこと	1%水準
	仲間を得ること	10%水準
負の相関がある	大学以外での勉強に励むこと	1%水準
	アルバイトをすること	5%水準
	友人と遊ぶこと	0.1%水準
	飲み会に参加すること	10%水準
10%水準で有意な相関がない	大学での勉強に励むこと	/
	健康に過ごすこと	
	恋人を作ること	
	何かで成果をあげること	

(注)赤字は正で有意、青字は負で有意

(2) 二項ロジスティック回帰分析(体育会へのイメージ)

実態調査において、「体育会へのイメージ」として以下の15項目があてはまるかを、複数回答で調査した。

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 活動頻度が多い | 9. 伝統を重視している |
| 2. 練習がきつい | 10. 授業に出られない |
| 3. 上下関係が厳しい | 11. 勉学との両立ができない |
| 4. 部則などの規則が厳しい | 12. 就職活動に有利になる |
| 5. 飲み会が激しい | 13. 卒業後も続く仲間ができる |
| 6. 朝が早い | 14. 達成感を得ることができる |
| 7. 夜が遅い | 15. 成長できる |
| 8. アルバイトとの両立ができない/大変だ | |

この質問への回答と体育会への所属の関係を明らかにするため、二項ロジスティック回帰分析を行った。分析結果を図表 6-24、6-25 に表す。

その結果、成長できる (Estimate=1.174、z-value=2.610、P=0.009) が 1%水準で、伝統を重視している (Estimate=0.798、z-value=2.213、P=0.027) が 5%水準で、卒業後も続く仲間ができる (Estimate=0.760、z-value=1.850、P=0.064) が 10%水準で、正で有意となった。

また、授業に出られない (Estimate=-1.458、z-value=-3.333、P=0.001) が 0.1%水準で、練習がきつい (Estimate=-0.822、z-value=-2.029、P=0.043) が 5%水準で、上下関係が厳しい (Estimate=-0.744、z-value=-1.913、P=0.056) が 10%水準で、負で有意となった。

よって以下の項目が、体育会への所属と正の相関がある。

- 9. 伝統を重視している
- 13. 卒業後も続く仲間ができる
- 15. 成長できる

また、以下の項目が、体育会への所属と負の相関がある。

- 3. 上下関係が厳しい
- 4. 部則などの規則が厳しい
- 10. 授業に出られない

図表 6-24 二項ロジスティック回帰分析(体育会へのイメージ)の結果

	Estimate	Std. Error	z value	Pr(> z)	検定結果
(Intercept)	-0.511	0.439	-1.165	0.244	
活動頻度が多い	0.273	0.438	0.624	0.533	棄却
練習がきつい	-0.822	0.405	-2.029	0.043	負で有意(5%水準)
上下関係が厳しい	-0.744	0.389	-1.913	0.056	負で有意(10%水準)
部則などの規則が厳しい	0.461	0.402	1.145	0.252	棄却
飲み会が激しい	-0.620	0.416	-1.489	0.137	棄却
朝が早い	-0.540	0.379	-1.427	0.154	棄却
夜が遅い	0.677	0.466	1.452	0.147	棄却
アルバイトとの両立ができない/大変だ	0.099	0.367	0.271	0.786	棄却
伝統を重視している	0.798	0.361	2.213	0.027	正で有意(5%水準)
授業に出られない	-1.458	0.437	-3.333	0.001	負で有意(0.1%水準)
勉学との両立ができない	-0.306	0.410	-0.747	0.455	棄却
就職活動に有利になる	0.323	0.356	0.906	0.365	棄却
卒業後も続く仲間ができる	0.760	0.411	1.850	0.064	正で有意(10%水準)
達成感を得ることができる	-0.711	0.490	-1.451	0.147	棄却
成長できる	1.174	0.450	2.610	0.009	正で有意(1%水準)

(注)赤字は正で有意、青字は負で有意

図表 6-25 大学時代を過ごすにあたって重視していることと体育会への所属の結果

体育会への所属との関係	体育会へのイメージ	有意水準
正の相関がある	伝統を重視している	5%水準
	卒業後も続く仲間ができる	10%水準
	成長できる	1%水準
負の相関がある	練習がきつい	5%水準
	上下関係が厳しい	10%水準
	授業に出られない	0.1%水準
10%水準で有意な相関がない	活動頻度が多い	/
	部則などの規則が厳しい	
	飲み会が激しい	
	朝が早い	
	夜が遅い	
	アルバイトとの両立ができない/大変だ	
	勉学との両立ができない	
	就職活動に有利になる	
	達成感を得ることができる	

(注)赤字は正で有意、青字は負で有意

7. 考察

本章では、分析によって得られた結果についての考察を行う。始めに、本研究の分析結果を図表 7-1 にまとめる。

図表 7-1 分析結果のまとめ

		仮説	参考文献	結果
消費者特性	Ha1	仲間との絆の重視度と体育会への興味は正の相関がある	栗原(1989)	棄却
	Ha2	競争心の強さと体育会への興味は正の相関がある	浅田(2014)	棄却
	Ha3	意志の強さと体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤(2014)	棄却
	Ha4	利他的であることと体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤(2014)	採択(0.1%水準)
	Ha5	伝統の重視度と体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤(2014)	棄却
	Ha6	権限主義的傾向の強さと体育会への興味は正の相関がある	高岡、佐藤(2014)	棄却
	Ha7	達成感を求めることと体育会への興味は正の相関がある	Egloff et al. (1996)	棄却
	Ha8	主体性があることと体育会への興味は正の相関がある	田中(2017)	棄却
	Ha9	高校の団体への満足感と体育会への興味は正の相関がある	追加分析	棄却
	Ha10	高校の団体への心残りやと体育会への興味は正の相関がある	追加分析	採択(5%水準)
	Ha11	仲間との絆の重視度と利他的であることは正の相関がある	追加分析	採択(0.1%水準)
	Ha12	伝統の重視度と権威主義的傾向の強さは正の相関がある	追加分析	採択(5%水準)
	Ha13	意志の強さと主体性があることは正の相関がある	追加分析	採択(0.1%水準)
	Ha14	達成感を求めることと意志の強さは正の相関がある	追加分析	採択(0.1%水準)
	Ha15	達成感を求めることと高校の団体への満足感に正の相関がある	追加分析	採択(0.1%水準)
	Ha16	達成感を求めることと高校の団体への心残りは正の相関がある	追加分析	採択(1%水準)
部活動特性	Hb1	部の実績と体育会入部意図は正の相関がある	ヒアリング	採択(0.1%水準)
	Hb2	創部年数の長さやと体育会入部意図は正の相関がある	独自	棄却
	Hb3	就職先の情報やと体育会入部意図は正の相関がある	独自	採択(0.1%水準)
	Hb4	充実した練習環境やと体育会入部意図は正の相関がある	朝日(2005)、 ヒアリング	採択(0.1%水準)
勧誘特性	Hc1	競技未経験者の活躍の情報やと未経験競技への興味は正の相関がある	Bush et al. (2011)	採択(0.1%水準)
	Hc2	充実した新歓イベントやと未経験競技への興味は正の相関がある	Bruyn et al. (2008)、 ヒアリング	採択(0.1%水準)
	Hc3	競技未経験者の比率が90%であることと未経験競技への興味は正の相関がある	ヒアリング	採択(0.1%水準)
	Hc3'	競技未経験者の比率が50%であることと未経験競技への興味は正の相関がある		採択(1%水準)
	Hc4	詳細な年間スケジュールの記載やと未経験競技への興味は正の相関がある	ヒアリング	採択(0.1%水準)
	Hc4'	簡潔な年間スケジュールの記載やと未経験競技への興味は正の相関がある		棄却

1) 消費者特性

Ha1 : 仲間との絆の重視度と体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

栗原(1998)の中で、学生がサークル活動へ期待していることとして「仲間」や「先輩・後輩との繋がり」が挙げられていたが、棄却された。実態調査で行った「大学生活で重視するもの」に「仲間を得ること」と回答した人が、体育会 49%、その他団体 47%だったため、仲間との絆が重視されていないというよりは、体育会への興味を示している回答者とそれ以外の学生の間には差がないため棄却されたと考えられる。

Ha2 : 競争心の強さと体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

浅田(2014)の中で、「体育会系クラブ」と「学術文化会」の違いとして「競争」の要素が挙げられていたが、棄却された。アンケートの結果から、競争心が強い特性を持った回答者が多く、回答に偏りが出てしまったため、体育会への興味を示している回答者とそれ以外の学生の間には差がないため棄却されたと考えられる。

Ha3 : 意志の強さと体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

Ha4 : 利他的であることと体育会への興味は正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

Ha5 : 伝統の重視度と体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

Ha6 : 権限主義的傾向の強さと体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

高岡、佐藤(2014)によると、体育会男子学生と非競技者の男子学生のパーソナリティ特徴を比較した結果、体育会男子学生は「意志が強い」「利他的であること」「伝統に重きを置く」「権威主義的傾向が強い」などの特徴があるとされたが、本研究ではHa4の「利他的であること」が0.1%水準で採択された。しかし、他の3つの仮説については棄却されてしまった。先行研究との違いとして、性別を制限していないこと、集団の基準を、競技ではなく団体にしたことが挙げられる。

Ha7 : 達成感を求めることと体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

Egloff、Jan Gruhn(1996)は、持久カスポートをしている人は外向的であり、外向的な人は「目標の達成」を求める傾向にあると述べていたが、体育会への興味との相関はみられず、仮説は棄却された。持久カスポートとその他スポーツの特有の違いであり、体育会とその他団体の間には差はないと考えられる。

Ha8 : 主体性があることと体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

田中(2017)によると、運動部は主体性において高い成長を示すとされていたが、仮説は棄却された。原因として、主体性は、体育会での活動の中で成長するもので、主体性があることが所属集団を決める要因にはならないからだを考える。所属集団を決める要因になることと、所属集団の中で成長する要素の区別を明確にしておくべきであると言える。

《追加分析》

Ha9 : 高校の団体への満足感と体育会への興味は正の相関がある⇒棄却

Ha10 : 高校の団体への心残りとの関係と体育会への興味は正の相関がある⇒採択(5%水準)

実態調査の回答をもとに追加分析した高校の団体についての仮説は、満足感の棄却、心残りは5%水準で採択された。新たな環境において、満足感といったプラスの感情よりも心残りといったマイナスの感情の方がモチベーションに影響を与えやすいことがわかった。

Ha11：仲間との絆の重視度と利他的であることは正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

追加分析をした Ha11 は 0.1%水準で採択された。仲間との絆を重視する傾向にある人は、他人との関わりを大切にし、利他的であることがわかった。

Ha12：伝統の重視度と権威主義的傾向の強さは正の相関がある⇒採択(5%水準)

追加分析をした Ha12 は 5%水準で採択された。伝統を重視することと権威主義的傾向の強さに正の相関があることがわかったが、「伝統」「権威主義」ともに、権力を重んじるという要素がある。

Ha13：意志の強さと主体性があることは正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

Ha14：達成感を求めることと意志の強さは正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

追加分析をした Ha13 は 0.1%水準で、Ha14 は 0.1%水準で採択された。「達成感」「意志」ともに、目標達成へ向かう強い意欲を表しており、主体的な行動に繋がることがわかった

Ha15：達成感を求めることと高校の団体への満足感は正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

Ha16：達成感を求めることと高校の団体への心残りは正の相関がある⇒採択(1%水準)

追加分析をした Ha15 は 0.1%水準で、Ha16 は 1%水準で採択された。達成感を求める傾向の人は結果にこだわるため、高校の団体での実際の結果が、満足感や心残りに繋がるのではないかと考えたが、今回の研究では、高校の団体での実績などを調査していないため、実際に相関があるかは明言できない。

2) 部活動特性

Hb1：部の実績と体育会入部意図は正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

ヒアリングより、大学で部活動をする上で、高いレベルの実績を残していることが重要だという知見が得られたが、仮説も 0.1%水準で採択された。体育会において、部の実績があることが入部意図に影響を与えることがわかった。しかし、この要因が体育会特有のものなのか、高校などの部活動に対しても同様のことが言えるのかは今回の研究では明言できない。

Hb2：創部年数の長さとは体育会への入部意図は正の相関がある⇒棄却

団体の歴史が長いことに対して魅力を感じ、入部意欲が高まることがあるのではないかと考え、独自に設定した創部年数についての仮説は棄却された。マニピュレーションチェックにより、回答者が創部年数を意識して回答したことは確認されているが、今回用いた、20年という基準が、創部年数が浅いという印象を与えたとは断言できないため、数値が適切ではなかった可能性も考えられる。

Hb3：就職先の情報と体育会への入部意図は正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

大学生にとって、就職活動は大きな不安要素であるため関連があるのではないかと考え、独自に設定した就職先の情報についての仮説は採択された。リクルートが行った「大学生の実態調査 2016」によると、将来の進路を考えると「不安」と思う理由として、72.3%が「就職できるか心配だから」と回答している。大学生にとって、就職は不安要素の一つであり、就職先の情報は体育会への興味に関係なく重視されると考えられる。

Hb4：充実した練習環境と体育会への入部意図は正の相関がある⇒採択(0.1%水準)

朝日(2005)やヒアリングより得られた知見をもとに設定した練習環境についての仮説は、0.1%水準で採択された。体育会に入って競技に打ち込むにあたって、練習環境が整っていることが重要であることがわかった。

3) 勧誘特性

Hc1：競技未経験者の活躍の情報と未経験競技への興味は正の相関がある

⇒採択(0.1%水準)

Bushら(2011)やヒアリングから得られた知見をもとに設定した仮説は、0.1%水準で採択された。「大学から始めた部員もたくさん活躍しています!」という表記を付け加えるだけで、未経験競技への興味に影響を与えるという結果になった。勧誘する際にアピールすべき要素の一つであることがわかった。

Hc2：充実した新歓イベントと未経験競技への興味は正の相関がある

⇒採択(0.1%水準)

Bruyn and Lilien(2008)の研究をもとに、「知覚類似性」などを高めるために有効的だと考え設定した、新歓イベントについての仮説は、0.1%水準で採択された。実態調査での「新歓時に団体への所属意欲が高まったこと」への回答で、「上級生の雰囲気」「食事会の雰囲気」「活動の見学」「活動の体験」などの回答率が高かったことより、活動や上級生の雰囲気を実際に確認できる新歓イベントは、所属団体を決めるうえで重要な要素であるといえる。

Hc3：競技未経験者の比率の高さ[90%]と未経験競技への興味は正の相関がある

⇒採択(0.1%水準)

Hc3'：競技未経験者の比率の高さ[50%]と未経験競技への興味は正の相関がある

⇒採択(1%水準)

ヒアリングより設定した競技未経験者の比率についての仮説は、未経験者90%は0.1%水準で、未経験者比率50%では1%水準で採択された。また、勧誘特性についてのコンジョイント分析の4つの要素の中で最も重要度が高かった。90%の場合0.1%水準で採択、50%の場合でも1%水準で採択された。この要素は実際の新歓時に操作できない数値であるが、今回の分析で、部員の半数が競技未経験であれば充分アピール要素になり得ることがわかった。

Hc4：詳細な年間スケジュールの記載と未経験競技への興味は正の相関がある

⇒採択(0.1%水準)

Hc4'：簡潔な年間スケジュールの記載と未経験競技への興味は正の相関がある

⇒棄却

ヒアリングにて、入部前に知っておきたかった情報として挙げられた年間スケジュールについての仮説は、1年生の技術的な進度を詳細に記載したスケジュール表記は0.1%水準で採択されたが、部活全体の年間予定のみを簡潔に記載したスケジュールは棄却された。ヒアリングでも得られたように、未経験競技を始めるにあたって初めの1年間のスケジュールは新歓時に詳細に説明し、入部後のイメージがつきやすいようにするべきである。

4) 追加分析

大学時代を過ごすにあたって重視していることへの回答をもとに行った追加分析では、体育会の所属に正の影響を与える2つの要素、負の影響を与える4つの要素がわかった。

大学生活で「何かに打ち込むこと」「仲間を得ること」を重視することと体育会の所属は正の相関がある

大学生活で「大学以外での勉強に励むこと」「アルバイトをすること」「友人と遊ぶこと」「飲み会に参加すること」を重視することと体育会の所属は負の相関がある

大学4年間を部活で過ごす選択をした体育会生は、何か一つのことには打ち込みたいという思いを持っている傾向があることがわかった。また、リクルートが行った「大学生の実態調査2016」によると、48.1%の大学生が資格取得のための勉強をしており、そのうち21.1%が週5日以上勉強していることがわかった。

体育会に所属することで、一つのことには打ち込みやすい環境になるが、活動外の時間が制限されてしまうため、何かに熱中したいか、色々なことを経験したいかという価値観の違いが所属団体に影響すると考えられる。

また、体育会へのイメージについての回答をもとに行った追加分析では、体育会の所属に正の影響を与える3つの要素、負の影響を与える3つの要素がわかった。

体育会に「伝統を重視している」「卒業後も続く仲間ができる」「成長できる」イメージを持っていることと体育会の所属は正の相関がある

体育会に「上下関係が厳しい」「部則などの規則が厳しい」「授業に出られない」イメージを持っていることと体育会の所属は負の相関がある

「伝統を重視している」については、その伝統が上下関係の厳しさや規則の厳しさといったマイナスなイメージではなく、良い文化が継承されている、他団体との深いつながりがあるなどのプラスなイメージに繋がるような印象付けを行う。また、「卒業後も続く仲間ができる」「成長できる」といったイメージをアピールすることで、勧誘に効果が得られると考えられる。

また、実態調査の回答で「授業に出られない」イメージがあると回答した割合は、他の団体の学生37%に対し、体育会生15%と、大きな差がみられた。実際よりも、授業に出られないという実態はないと言える。66%の学生が、「大学での勉強に励むこと」を重視すると回答したため、授業と部活動の両立はできるという印象付けは重要である。

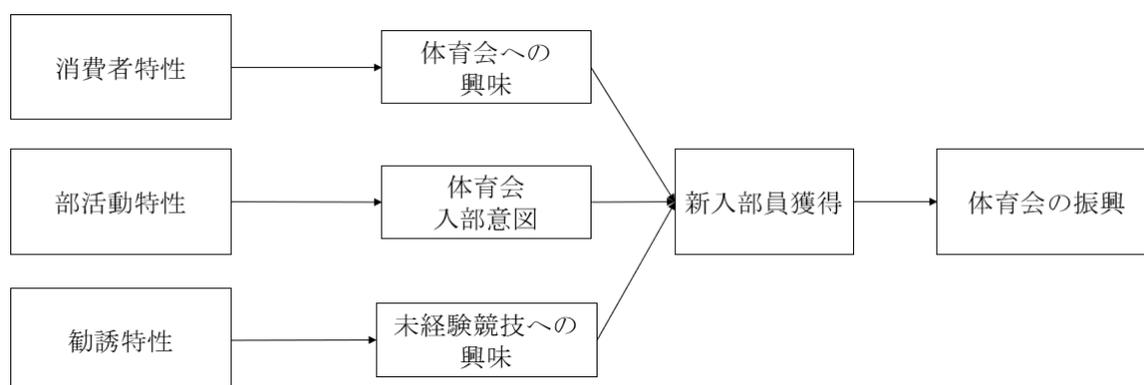
8. 提言・まとめ

1章で研究の背景や目的を明らかにし、2・3章で関連する事例や研究をまとめ、4章で仮説を設定した。5章でアンケート調査の結果をまとめ、その結果をもとに6章で分析を行った。そして7章では分析を踏まえて考察を述べた。この章では、7章での考察を踏まえて、体育会の振興に向けての提言と、本研究のまとめを行う。

1) 提言

体育会を振興させるために、体育会に所属する学生の人数を増やすことを目的として研究を行った。

図表 8-1 研究の枠組み(再掲)



これまでの研究で得られた分析結果や考察を踏まえ、体育会の新入部員を増やすために、どのような活動が効果的であるかを提言する。主に以下の4つの取り組みが重要であると考えた。

- ・体育会へのイメージと実態の「ずれ」を解消する
- ・アピールする要素を選定する
- ・高校までの経験を利用した勧誘をする
- ・部の環境を整える

(1) 体育会へのイメージと実態の「ずれ」を解消する

体育会へのマイナスな固定観念が、入部への興味に負の影響を与えている。追加分析で明らかになった、体育会の所属に負の相関がある要因である「上下関係が厳しい」「部則などの規則が厳しい」「授業に出れない」イメージを払拭させることが重要である。

しかし、上記の3つのイメージを否定できない部活動もある。そのような場合は、部活動の実態を隠して誤った印象付けをして新入部員を増やしたとしても、退部に繋がってしまう可能性があるため、それぞれの部の実態を偽ることなく伝えなければならない。

そこで、体育会の所属に正の影響を与える「伝統を重視している」「卒業後も続く仲間ができる」「成長できる」というプラスのイメージに結びつけながら、それぞれの部の雰囲気を実態をアピールさせることが効果的であると考えられる。例えば、上下関係が厳しい部活動は「技術的な成長だけでなく、礼儀を大切にできる環境」など、マイナスなイメージだけでなく、そこから得られることを併記することで、阻害要因を払拭する効果が期待できる。

(2) アピールする要素を選定する

それぞれの部活動にある特徴の中で、入部意欲を高めるためにアピールするべき要素を選定する。勧誘特性の分析結果から、競技未経験者の活躍の情報、競技未経験者の比率が未経験者競技への興味に影響を与えることがわかった。競技未経験者の比率は操作できないものであるが、50%であったとしてもアピールできる要素であり、また、さらに比率が低かったとしても、現在活躍していて、大学から競技を始めた部員をピックアップして紹介することで、未経験競技への興味を高める効果が期待できる。

また、カレッジスポーツの中には、下級生のみで行う新人戦を開催している部も少なくない。年間スケジュールの中で、下級生が活躍できる場や、目標となるものを記載することで、入部後のイメージを持ちやすくすることも効果的である。

(3) 高校までの経験を利用した勧誘をする

高校時代に部活動に所属していた経験のある人が多数を占めているため、そこでの経験を利用した勧誘をすることが効果的であると考えられる。消費者特性の分析で、高校時代に所属していた団体に対する心残りが、体育会への興味と正の相関があることがわかった。そのため、心残りを感じている人に対して、それを解消できるようなフレーズやキャッチコピーが有効であると考えられる。また、達成感を求めることと高校の団体への心残りは相関があることもわかったため、部活動を通して得ることができる達成感をアピールすることも、効果的であると考えられる。

ヒアリングから、大学で部活動に所属している人は、高校時代も部活動に熱中していた傾向があることが明らかになった。高校時代の経験から、どのような大学生活を過ごしたかを聞き出しながら、部活動のアピールポイントと結び付けていくことで興味を引き出すことができると考える。

(4) 練習環境を整える

学生だけの力では限界があり、どの部活動もできることではないが、やはり練習環境や部の実績などの要素は、結果を求める部活動においては重要な要素になり得る。特に競技経験者の入部数を増やすためには、高いレベルで活動しているということが求められる。大学敷地内に練習場所を作るなどの体制作りができない場合は、合宿を充実したものにすることや、外部トレーナーを採用するなど、レベルアップのための取り組みを行うことも効果的であると考えられる。

2) 本研究の限界

本研究では、慶應義塾大学の学生 235 名を対象にアンケート調査を行い、分析をした。アンケート調査の対象が 2 年生であったことや、体育会生の比率が低かったことなど、サンプルの属性に偏りがあったことが、調査の限界であると言える。複数母集団による検定を行うことで、より有益な検定結果を得ることが期待できる。

金銭面や家庭環境など、アンケート調査では触れなかった要素についても、大学生が所属団体を決定する上で重要な要素になると考えられるため、本研究の内容だけでは不十分である。今後、さらに多様な要因を含む調査が必要であると言える。

3) 謝辞

本研究にご協力いただきました、慶應義塾大学商学部の学生の方々、慶應義塾體育會洋弓部の部員の方々、研究に助言をしてくださった濱岡豊研究会の皆様、この場をもって御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

9. 参考・引用文献

<文献>

- Alan J. Bush, Craig A. Martin, Victoria D. Bush (2004). 「Sports Celebrity Influence on the Behavioral Intentions of Generation Y」 *Journal of Advertising Research*, Vol. 44 Issue: 1 pp. 108-118.
- Arnaud De Bruyn and Gray L. Lilien (2008), 「A multi-stage model of word-of-mouth influence through viral marketing」, 「*International Journal of Research in Marketing*」, vol.25, pp.151-163
- Arnott Ian (2011) 「Effective Marketing Communication Efforts of Sports Development Initiatives :A Case Study of the Public Sector in the United Kingdom」
- Brustad R. J. and Partridge J. A. (2002) Mothers' expectancies and young adolescents' perceived physical competence: A year-long study. *Journal of Early Adolescence*, 22, 384-406.
- Carter, G. C., and Shannon, J. R. (1940). Adjustment and personality traits of athletes and non-athletes. *School Review*, 48, 127-130.
- Cave, P. (2004). Bukatsudo: The educational role of Japanese school clubs. *Journal of Japanese Studies*, 30, 383-415.
- Egan, S., and Stelmack, R. M. (2003). A personality profile of Mount Everest climbers. *Personality and Individual Differences*, 34, 1491-1494.
- Egloff and Jan Gruhn (1996). Personality and endurance sports. *Personality and Individual Differences*, 21, 223-229.
- Gulten Herguner(2011) 「Options of students in physical education and sports teaching on the use of social network sites」 *The Turkish Online Journal of Educational Technology* Vol.10, Issue:2.
- Kajtana, T., Tusak, M., Baric, R., and Burnik, S. (2004). Personality in high-risk sport athletes. *Kinesiology*, 36, 24-34.

浅田昌吾(2014)「大学体育会系クラブの教育的機能に関する考察」

朝日大二郎(2005)「体育会における勧誘活動の重要性と現状の改善」

井上功一、入口豊、太田順康、吉田雅行(2001)

「大学競技スポーツ組織の現状と今後の展望」

栗原満義(1989)「サークル活動の現状と課題」

高岡しの、佐藤寛(2014)「体育会男子学生のパーソナリティ」

田中慶一(2017)「体育会学生における社会人基礎力に関する分析」

森岡寛玄(2004)「スポーツを始める動機および継続理由について」

<書籍>

慶應義塾大学学生総合センター(2017年3月発行)『慶應義塾大学学生生活実態調査報告』

<インターネット>

インテージ調査レポート「スポーツに関する意識調査」

<https://www.intage.co.jp/library/20090824/> (2019年2月6日アクセス)

慶應義塾體育會洋弓部ホームページ

<https://www.keioarchery.com/> (2019年11月20日アクセス)

産業能率大学調査報告書「運動部経験者に尋ねたスポーツを始めたきっかけ」

<http://www.sanno.ac.jp/research/sports2013.html> (2019年2月6日アクセス)

スポーツに関する意識調査

<https://www.intage.co.jp/library/20090824/> (2019年2月6日アクセス)

2018年卒マイナビ大学生就職意識調査

http://mcs.mynavi.jp/enq/ishiki/data/ishiki_2018.pdf (2019年2月6日アクセス)

付属資料

<調査票>

-卒業論文アンケート-

慶應義塾大学商学部4年、濱岡研究会17期の高瀬ミカと申します。この度、卒業論文を執筆するにあたり、大学部活動を振興させるためのマーケティング研究を行っています。そこで、アンケートにご協力いただきたいと思います。所要時間は【10分程度】です。よろしくお願いします。

1. 学年
2. 学籍番号
3. 氏名
4. 性別
5. 所属キャンパス

言葉の定義について

「団体」とは、あなたが学内で主として参加しているクラブやサークルのことを指します。「体育会」とは、三田体育会の他、準体育会や理工学部体育会なども含みます。

6. あなたが大学時代を過ごすにあたって重視しているもの(複数回答可)

- ・大学での勉強に励むこと
- ・大学以外での勉強に励むこと
- ・アルバイトをすること
- ・友人と遊ぶこと
- ・何かに打ち込むこと
- ・仲間を得ること
- ・健康に過ごすこと
- ・恋人を作ること
- ・飲み会に参加すること
- ・何かで成果をあげること
- ・特になし

7. 「体育会」のイメージにあてはまるもの(複数回答可)

- ・活動頻度が多い
- ・練習がきつい
- ・上下関係が厳しい
- ・部則などの規則が厳しい
- ・飲み会が激しい
- ・朝が早い
- ・夜が遅い
- ・アルバイトとの両立ができない/大変だ
- ・伝統を重視している

- ・授業に出られない
- ・勉強との両立ができない
- ・就職活動に有利になる
- ・卒業後も続く仲間ができる
- ・達成感を得ることができる
- ・成長できる
- ・特になし

-所属している団体について-

現在あなたが所属している団体についてお聞きします。複数の団体に所属している場合は、メインで活動しているものについてお答えください。

1. 団体の区分

- ・体育会
- ・スポーツ関係(体育会以外)
- ・学術関係
- ・芸術・文化関係
- ・レクリエーション関係
- ・福利厚生団体
- ・その他
- ・所属していない

2. 現在あなたが所属している団体を知った経緯

- ・自ら調べた(SNS)
- ・自ら調べた(ホームページ)
- ・自ら調べた(その他)
- ・新歓時に配布されたパンフレットやチラシ
- ・新歓時に声をかけられた
- ・大学周辺店舗に掲示されているチラシ
- ・知人の紹介
- ・団体に所属していない
- ・その他(回答欄)

3. 活動頻度

- ・週7日
- ・週5, 6日
- ・週2~4日
- ・週1日以下

4. その団体の活動内容を、大学から始める人の割合(例：バドミントンサークルにおいて、その団体に所属している人の中で、バドミントンを大学から始める人の割合)

- ・約0%
- ・約25%

- ・約 50%
- ・約 75%
- ・約 100%

5. あなたがその団体の活動内容を始めた時期(例：バドミントンサークルに所属している場合、バドミントンを始めた時期)

- ・小学生以前
- ・中学時代
- ・高校時代
- ・大学入学後

6. 新歓時にその団体への所属意欲が【高まったこと】(複数回答可)

- ・SNS で公開されている通常の活動情報の内容、頻度
- ・SNS で公開されている新歓用の情報の内容、頻度
- ・新歓用グループ LINE など提供される情報の内容、頻度
- ・新歓ステージなどでの出し物
- ・新歓コンパ(食事会)の雰囲気
- ・活動の見学
- ・活動の体験
- ・担当者の対応
- ・所属している上級生の雰囲気
- ・知人が所属することを決めた
- ・その団体の活動実績
- ・その団体の活動頻度や時間帯、場所
- ・特になし
- ・その他(回答欄)

7. 新歓時に、その団体への所属意欲が【低下したこと】(複数回答可)

- ・SNS で公開されている情報の内容、頻度
- ・SNS で公開されている新歓用の内容、頻度
- ・新歓用グループ LINE など提供される情報の内容、頻度
- ・新歓ステージなどでの出し物
- ・新歓コンパ(食事会)の雰囲気
- ・活動の見学
- ・活動の体験
- ・担当者の対応
- ・所属している上級生の雰囲気
- ・知人が所属することを決めた
- ・その団体の活動実績
- ・その団体の活動頻度や時間帯
- ・特になし
- ・その他(回答欄)

-高校時代に所属していた団体について-

高校時代にあなたが所属していた団体についてお聞きします。複数の団体に所属していた場合は、メインで活動していたものについてお答えください。

1. 団体の区分
 - ・ 運動系クラブ
 - ・ 文化系クラブ
 - ・ 団体に所属していない
2. 活動頻度
 - ・ 週 7 日
 - ・ 週 5, 6 日
 - ・ 週 2~4 日
 - ・ 週 1 日以下
3. 活動人数
 - ・ 1~10 人
 - ・ 11~30 人
 - ・ 31~50 人
 - ・ 51~80 人
 - ・ 81~100 人
 - ・ 100 人以上
4. その団体に対する満足度はどの程度ですか(1~5)
5. その団体に対する心残りや後悔はありますか(1~5)

-あなた自身について-

以下について 5 段階(全くあてはまらない~とてもあてはまる)で回答してください。

- ・ 体育会に所属したいと思う
- ・ 体育会に所属することを検討した/している
- ・ 体育会に興味がある

- ・ とともに困難を乗り越えた仲間は大切だ
- ・ 仲間の存在は重要だと思う
- ・ 学生生活の中で、信頼し合える仲間を作りたい

- ・ 相手に勝ちたいという思いが強い
- ・ 負けず嫌いだ
- ・ 勝負ごとは勝ちにこだわる

- ・ 困難なことも諦めない

- ・一度決めたことはやり通す
- ・他人の意見に左右されにくい
- ・自分のためではなく、集団のために行動する
- ・自分の行動によって、集団の質を上げたいと思う
- ・他人のためになるなら、多少の犠牲は仕方ないと思う
- ・伝統を大切にする
- ・伝統的に行われてきたことは守っていききたい
- ・伝統のある集団に魅力を感じる
- ・権力のある人には逆らわない
- ・立場の低い人に対して、強くものをいうことがある
- ・上下関係に敏感である
- ・何事も、やり切ることが重要だ
- ・達成したときのことを想像しながら努力する
- ・何かを達成するまでは途中で投げ出したくない
- ・常に自分の考えを持っている
- ・自分の考えに従って行動する
- ・自分の行動に責任を持つ

-体育会入部について-

あなたが最も得意である、または打ち込んできたスポーツや活動について想像してください。以下の部の紹介ページを見て、そのスポーツや活動を、【「体育会」に所属して続けたいと思うか】について、5段階で回答してください。現在そのスポーツや活動をしている体育会が存在するかは考慮しないものとします。また、練習場所などは、あなたが想像するスポーツや活動に合わせて想定してください。

全く入部したいと思わない～とても入部したいと思う

1

 ○○大学体育会○○部

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	キャンパス内グラウンド、室内練習場
昨年の戦績	六大学選手権 6位 関東リーグ 2回戦敗退
卒部後の進路	○○電機 1名 ○○商事 1名 ○○銀行 1名 ⋮ ○○不動産 1名 他

2

〇〇大学体育会〇〇部

創部年数	2000年(創部20年)
練習場所	キャンパス内グラウンド、室内練習場
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝
卒部後の進路	〇〇電機 1名 〇〇商事 1名 〇〇銀行 1名 : 〇〇不動産 1名 他

3

〇〇大学体育会〇〇部

創部年数	2000年(創部20年)
練習場所	キャンパス内グラウンド、室内練習場
昨年の戦績	六大学選手権 6位 関東リーグ 2回戦敗退

4

〇〇大学体育会〇〇部

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	キャンパス内グラウンド、室内練習場
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

5

〇〇大学体育会〇〇部

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝
卒部後の進路	〇〇電機 1名 〇〇商事 1名 〇〇銀行 1名 : 〇〇不動産 1名 他

6

〇〇大学体育会〇〇部

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 6位 関東リーグ 2回戦敗退

7

〇〇大学体育会〇〇部

創部年数	2000年(創部20年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 6位 関東リーグ 2回戦敗退
卒部後の進路	〇〇電機 1名 〇〇商事 1名 〇〇銀行 1名 : 〇〇不動産 1名 他

8

〇〇大学体育会〇〇部

創部年数	2000年(創部20年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

-未経験スポーツへの興味について-

あなたが今まで部活動等で取り組んでこなかったスポーツについて想像してください。以下のチラシを見て、その団体について【興味がわいたか】について、5段階で回答してください。入部に対する意欲ではなく、練習を見学したい、や、新歓イベントに参加したい、などの意欲について回答してください。

全く興味がわかなかった～とても興味がわいた

1

〇〇大学体育会〇〇部 新入生募集！！

4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

年間スケジュール

六大学選手権

4 5 6 7 8 9

基礎づくり

夏合宿

10 11 12

新人期間

関東リーグ 全日本大会 春合宿

1 2 3

選手として活躍

基礎練習やトレーニングを通して、基礎作りをします

上級生と一緒に練習ができるようになっています

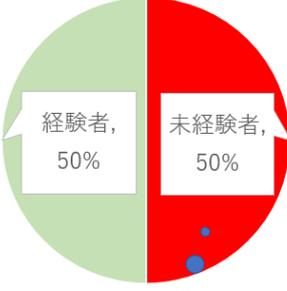
1年生のみで戦う新人戦が開催されます！

チームを引っ張る存在として活躍できます！

*練習見学会 4月1日～4月14日※
*練習体験会 4月8日～4月21日※

※上記日程以外でも、ご連絡いただければいつでも対応します。各イベントへの参加を希望される方は、以下にご連絡ください！
連絡先 shinkan.△×△×@〇〇.com

競技経験者と未経験者の比率



経験者, 50%
未経験者, 50%

大学から始めた部員もたくさん活躍しています

2

〇〇大学体育会〇〇部 新入生募集！！

4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

年間スケジュール

六大学選手権

4 5 6 7 8 9

基礎づくり

夏合宿

10 11 12

新人期間

関東リーグ 全日本大会 春合宿

1 2 3

選手として活躍

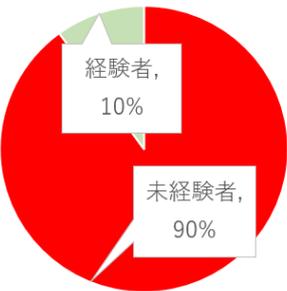
基礎練習やトレーニングを通して、基礎作りをします

上級生と一緒に練習ができるようになっています

1年生のみで戦う新人戦が開催されます！

チームを引っ張る存在として活躍できます！

競技経験者と未経験者の比率



経験者, 10%
未経験者, 90%

〇〇大学体育会〇〇部 新入生募集！！

4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

年間スケジュール

六大学選手権 夏合宿 関東リーグ 全日本大会 春合宿

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月

基礎づくり 新人期間 選手として活躍

基礎練習やトレーニングを通して、基礎作りをします

上級生と一緒に練習ができるようになっています

1年生のみで戦う新人戦が開催されます！

チームを引っ張る存在として活躍できます！

* 練習見学会 4月1日～4月14日※
* 練習体験会 4月8日～4月21日※

※上記日程以外でも、ご連絡いただければいつでも対応します。
各イベントへの参加を希望される方は、以下にご連絡ください！
連絡先 shinkan.△×△×@〇〇.com

競技経験者と未経験者の比率

経験者, 90%
未経験者, 10%

〇〇大学体育会〇〇部 新入生募集！！

4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

年間スケジュール

六大学選手権 夏合宿 関東リーグ 全日本大会 春合宿

4 5 6 7 8 9 10 11 12 1 2 3 月

* 練習見学会 4月1日～4月14日※
* 練習体験会 4月8日～4月21日※

※上記日程以外でも、ご連絡いただければいつでも対応します。
各イベントへの参加を希望される方は、以下にご連絡ください！
連絡先 shinkan.△×△×@〇〇.com

競技経験者と未経験者の比率

経験者, 10%
未経験者, 90%

大学から始めた部員もたくさん活躍しています

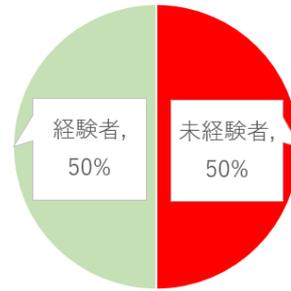
〇〇大学体育会〇〇部 新入生募集！！

4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

年間スケジュール



競技経験者と未経験者の比率



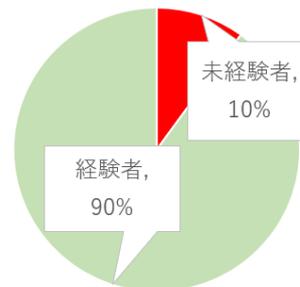
〇〇大学体育会〇〇部 新入生募集！！

4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

年間スケジュール



競技経験者と未経験者の比率



* 練習見学会 4月1日～4月14日※

* 練習体験会 4月8日～4月21日※

※上記日程以外でも、ご連絡いただければいつでも対応します。
各イベントへの参加を希望される方は、以下にご連絡ください！
連絡先 shinkan.△×△×@〇〇.com

〇〇大学体育会〇〇部 新入生募集！！

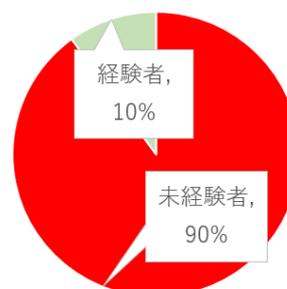
4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

* 練習見学会 4月1日～4月14日※

* 練習体験会 4月8日～4月21日※

※上記日程以外でも、ご連絡いただければいつでも対応します。
各イベントへの参加を希望される方は、以下にご連絡ください！
連絡先 shinkan.△×△×@〇〇.com

競技経験者と未経験者の比率

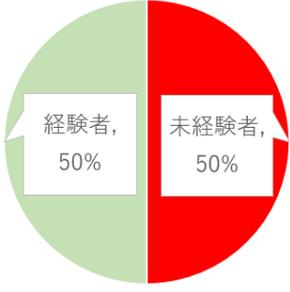


〇〇大学体育会〇〇部
新入生募集！！
 4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

*練習見学会 4月1日～4月14日※
 *練習体験会 4月8日～4月21日※

※上記日程以外でも、ご連絡いただければいつでも対応します。
 各イベントへの参加を希望される方は、以下にご連絡ください！
 連絡先 shinkan.△×△×@〇〇.com

競技経験者と未経験者の比率

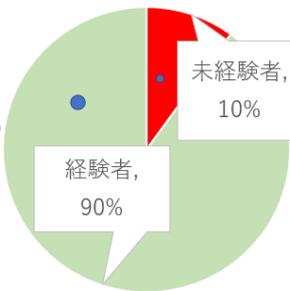


経験者	未経験者
50%	50%

〇〇大学体育会〇〇部
新入生募集！！
 4年間の大学生活、何かに打ち込んでみませんか？

大学から始めた部員も
 たくさん活躍しています

競技経験者と未経験者の比率



経験者	未経験者
90%	10%

-マニピュレーションチェック-

全くそう思わない～とてもそう思う

1. 以下の2枚の画像を見比べて、上の画像は下の画像よりも創部年数が長いという印象を受けますか

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

創部年数	2000年(創部20年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

2. 以下の2枚の画像を見比べて、上の画像は下の画像よりも練習環境が充実しているという印象を受けますか

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	キャンパス内グラウンド、室内練習場
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

3. 以下の2枚の画像を見比べて、上の画像は下の画像よりも過去の戦績が良いという印象を受けますか

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

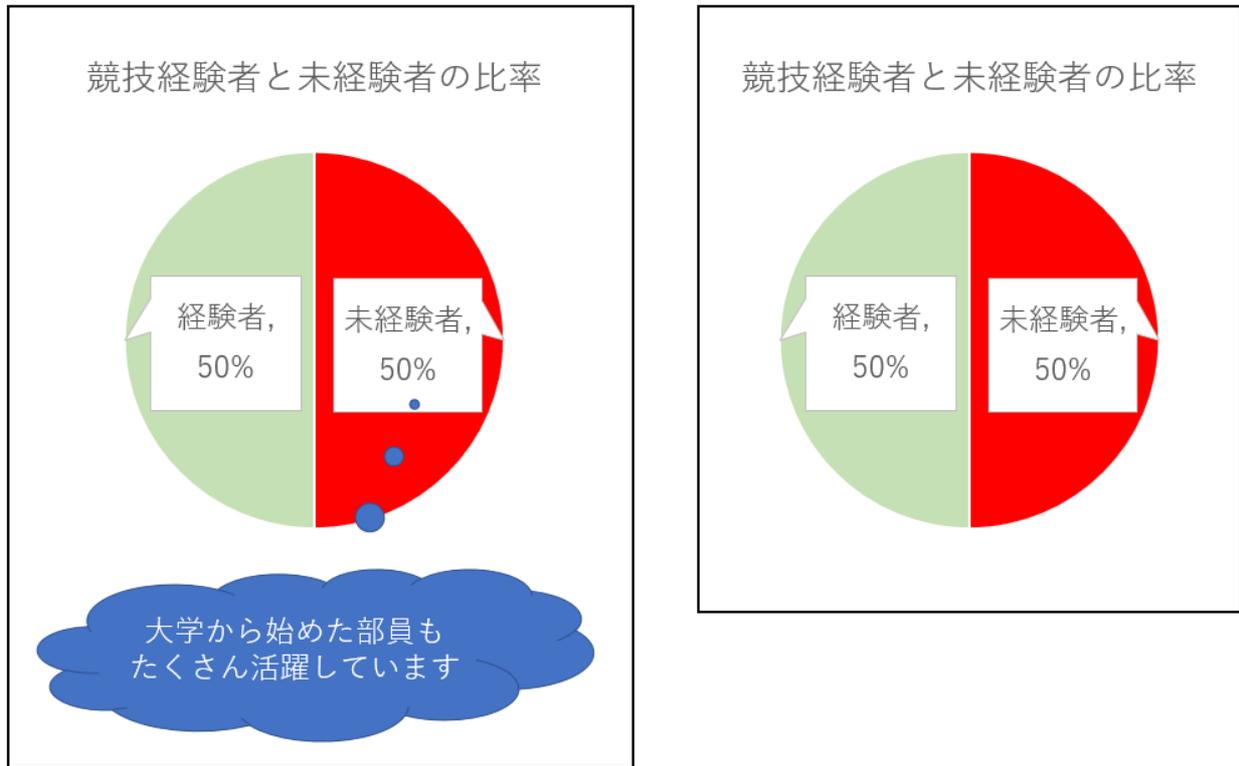
創部年数	2000年(創部20年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

4. 以下の2枚の画像を見比べて、上の画像は下の画像よりも就職先についての情報が充実しているという印象を受けますか

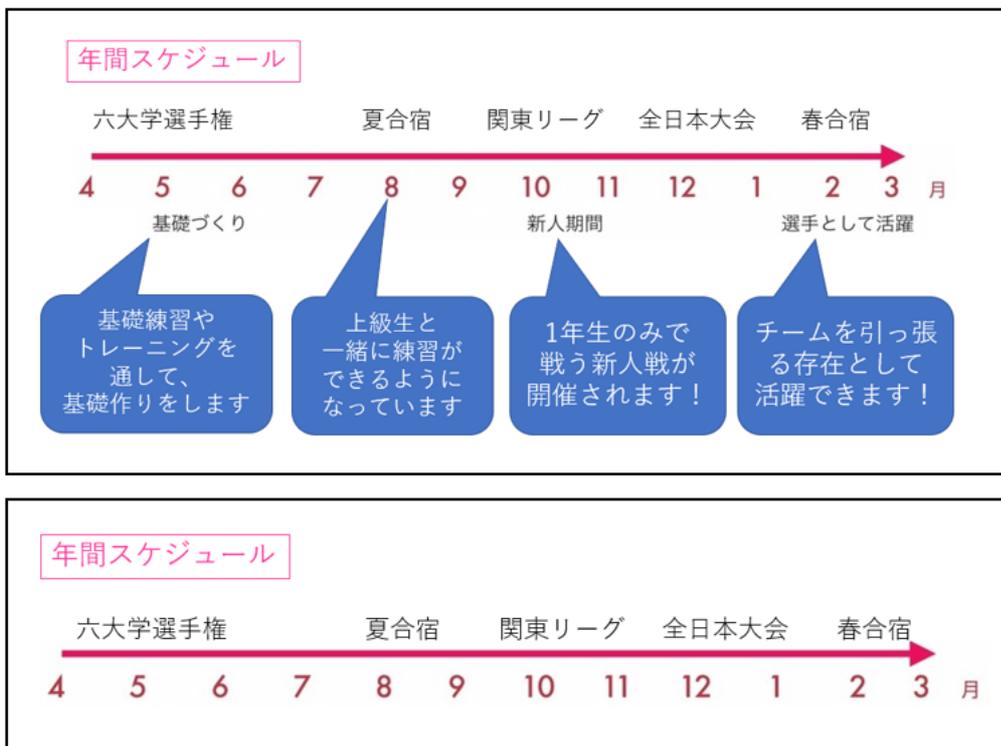
創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝
卒部後の進路	〇〇電機 1名 〇〇商事 1名 〇〇銀行 1名 : 〇〇不動産 1名 他

創部年数	1900年(創部120年)
練習場所	外部グラウンド(時期により変動)
昨年の戦績	六大学選手権 優勝(3年連続) 関東リーグ 準優勝

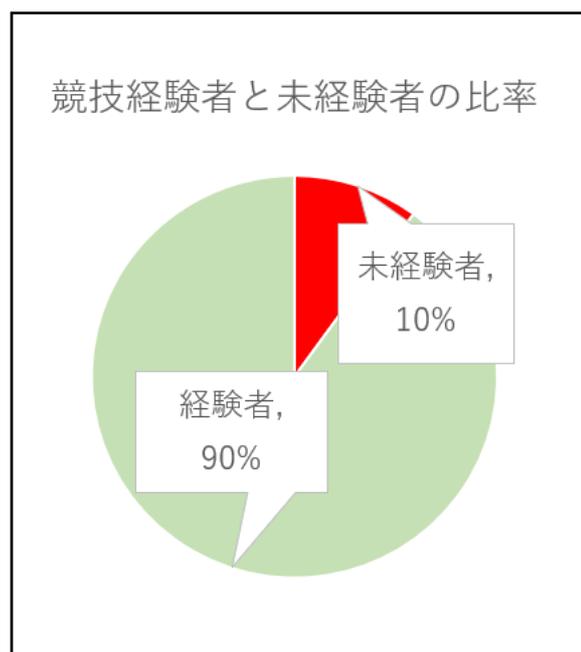
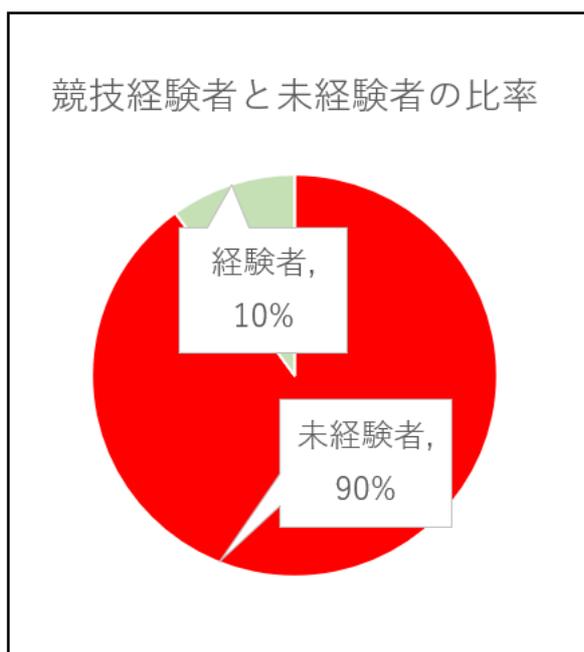
5. 以下の2枚の画像を見比べて、左の画像は右の画像よりも、未経験者が活躍できるという印象を受けますか



6. 以下の2枚の画像を見比べて、上の画像は下の画像よりも、年間スケジュールが詳細であるという印象を受けますか



7. 以下の2枚の画像を見比べて、左の画像は右の画像よりも、競技未経験者の比率が高いという印象を受けますか



8. 以下の画像のような記載があることで、新歓イベントが充実しているという印象を受けますか

*練習見学会 4月1日～4月14日※
*練習体験会 4月8日～4月21日※

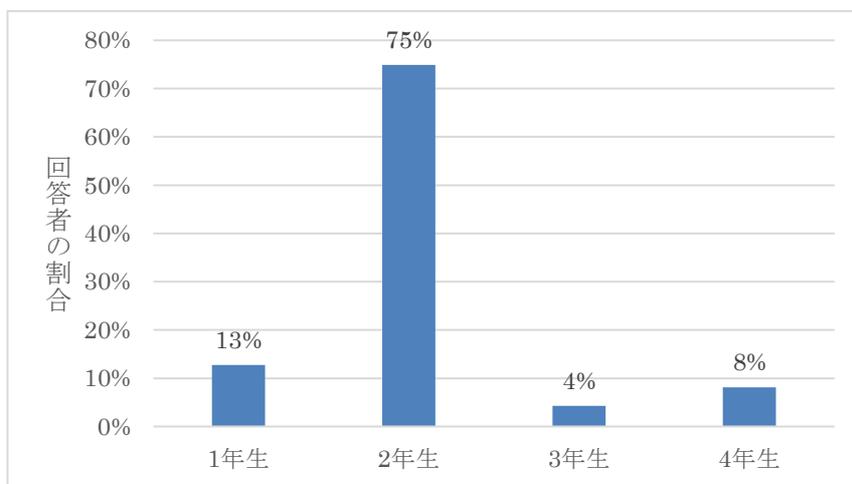
※上記日程以外でも、ご連絡いただければいつでも対応します。
各イベントへの参加を希望される方は、以下にご連絡ください！
連絡先 shinkan.△×△×@〇〇.com

アンケートは以上となります。ご協力いただき、ありがとうございました。

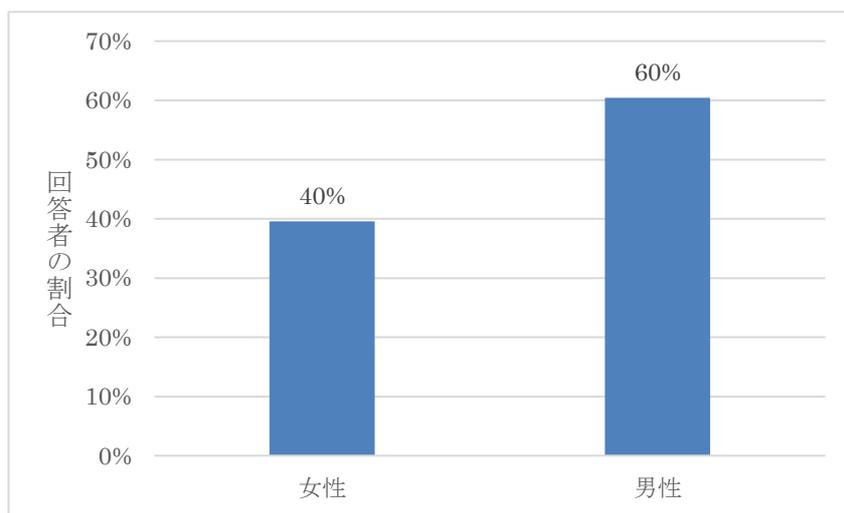
<単純集計>

-卒業論文アンケート-

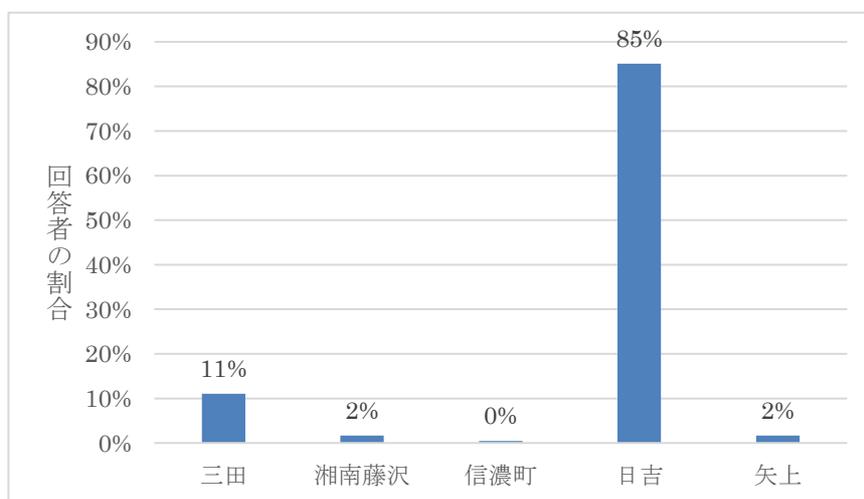
1. 学年 (N=235)



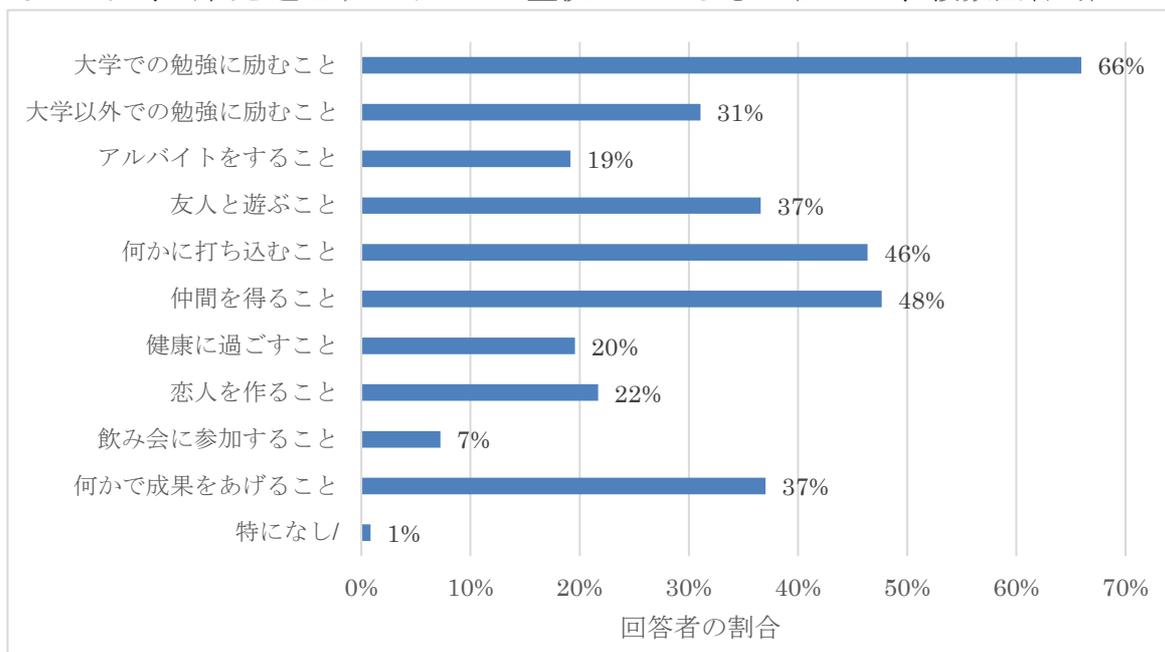
4. 性別 (N=235)



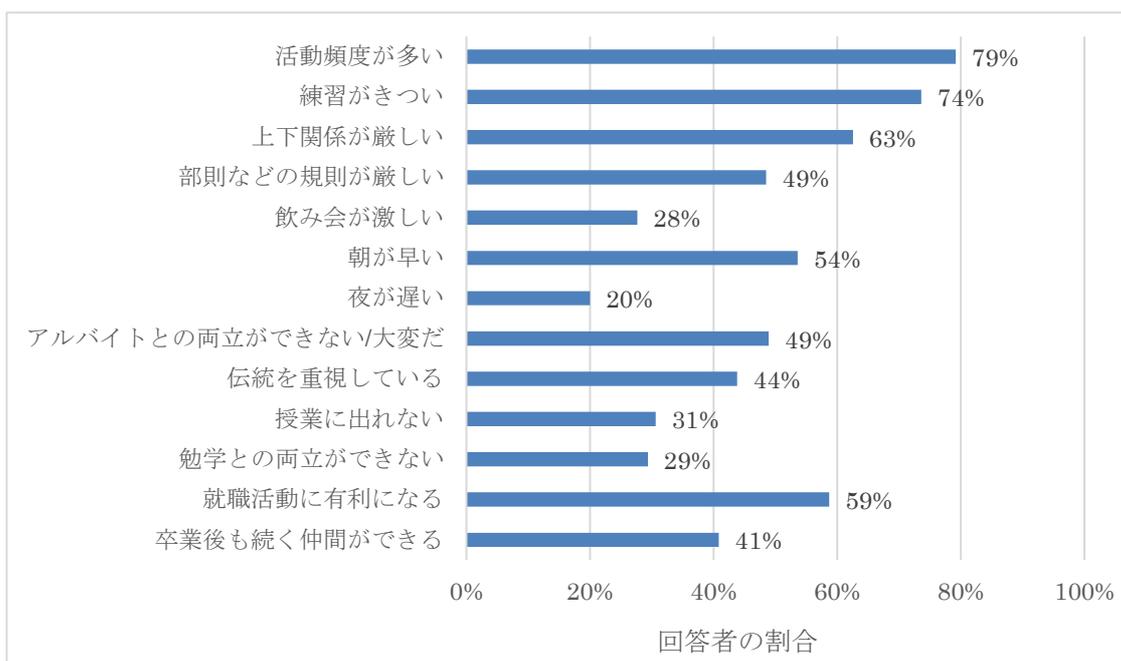
5. 所属キャンパス (N=235)



6. あなたが大学時代を過ごすにあたって重視しているもの(N=235、複数回答可)

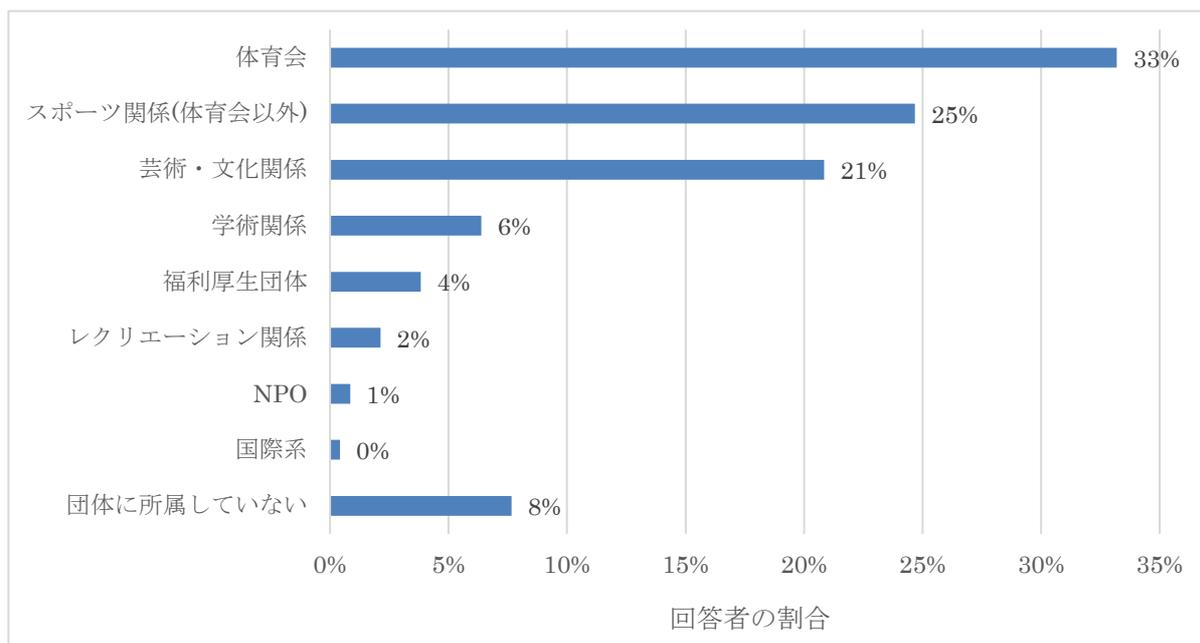


7. 「体育会」のイメージにあてはまるもの(N=235、複数回答可)

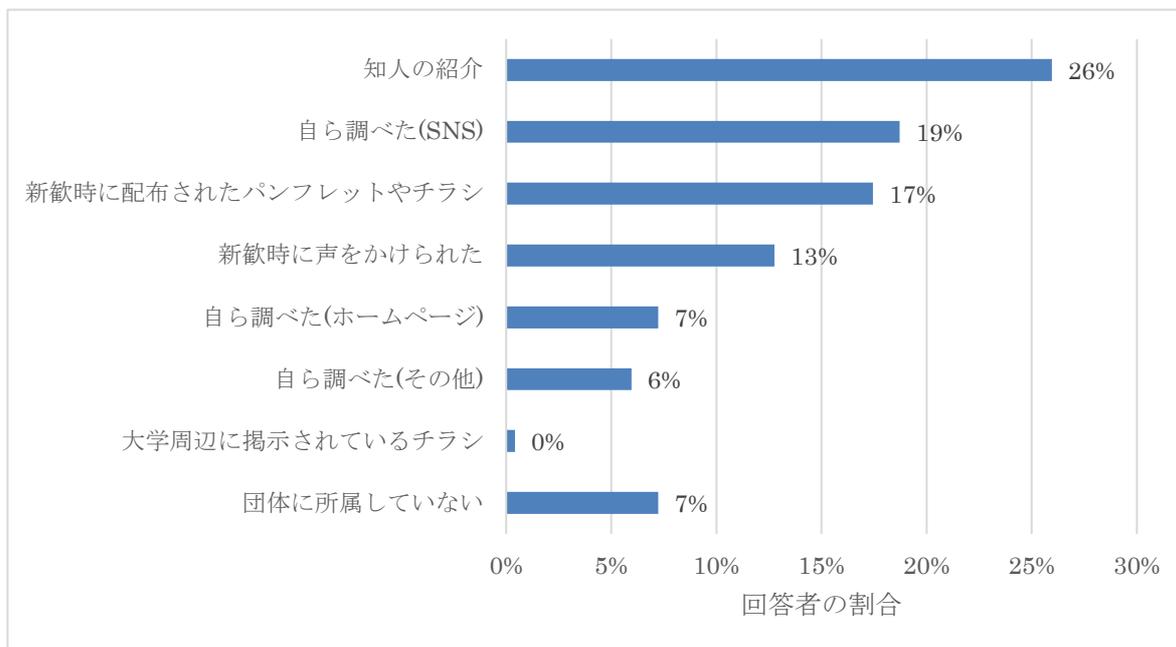


-所属している団体について-

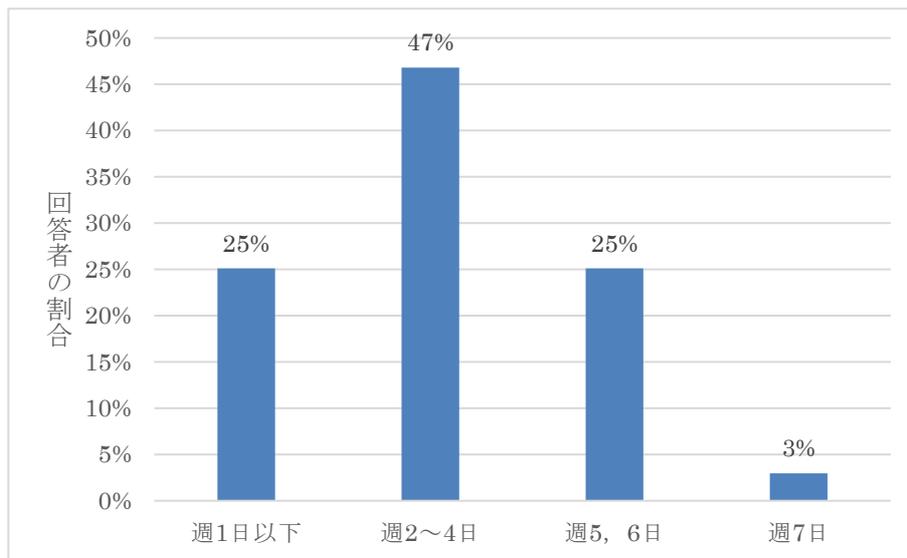
1. 団体の区分 (N=235)



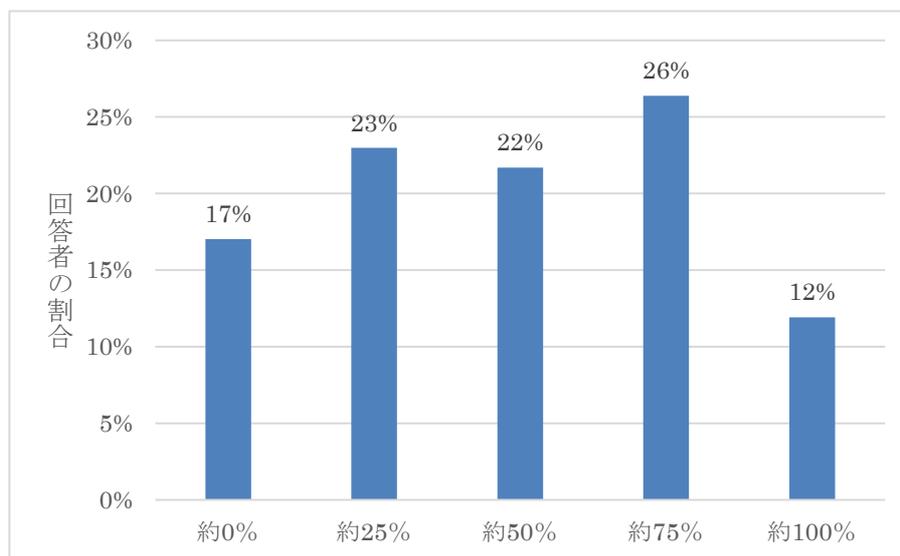
2. 現在あなたが所属している団体を知った経緯 (N=235)



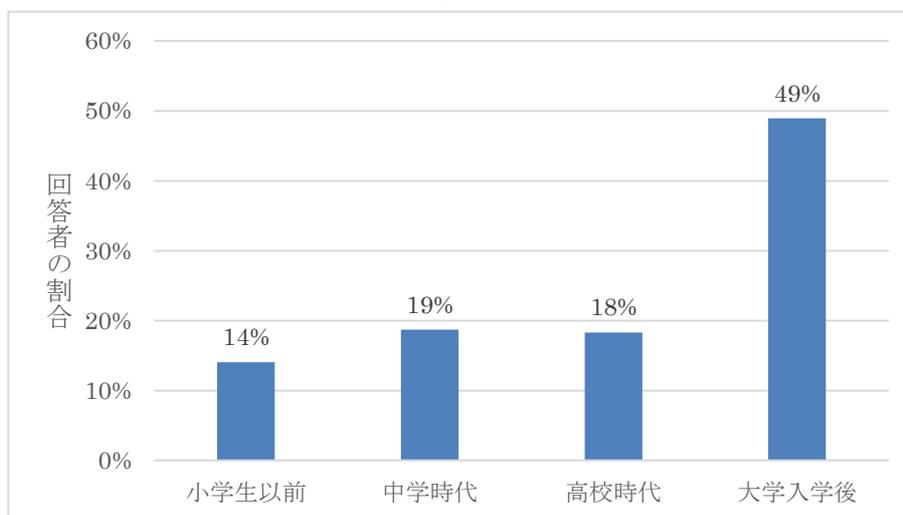
3. 活動頻度 (N=235)



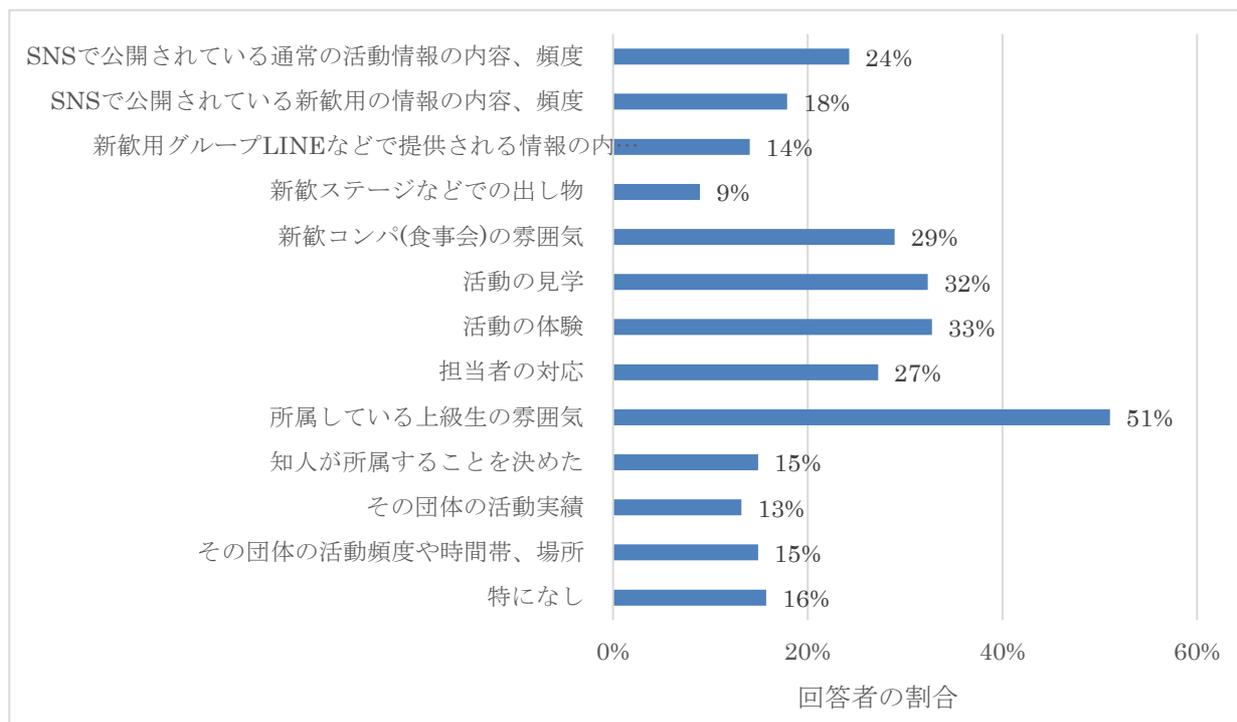
4. その団体の活動内容を、大学から始める人の割合 (N=235)



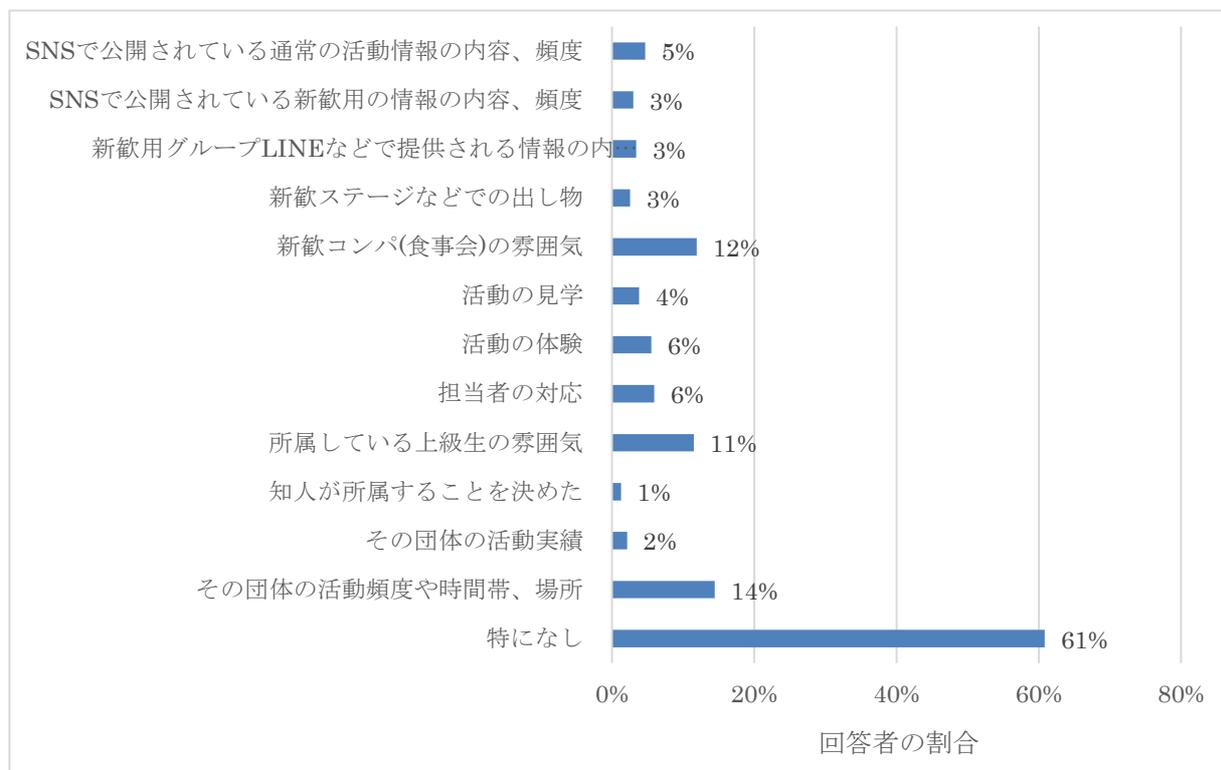
5. あなたがその団体の活動内容を始めた時期 (N=235)



6. 新歓時にその団体への所属意欲が高まったこと (N=235、複数回答可)

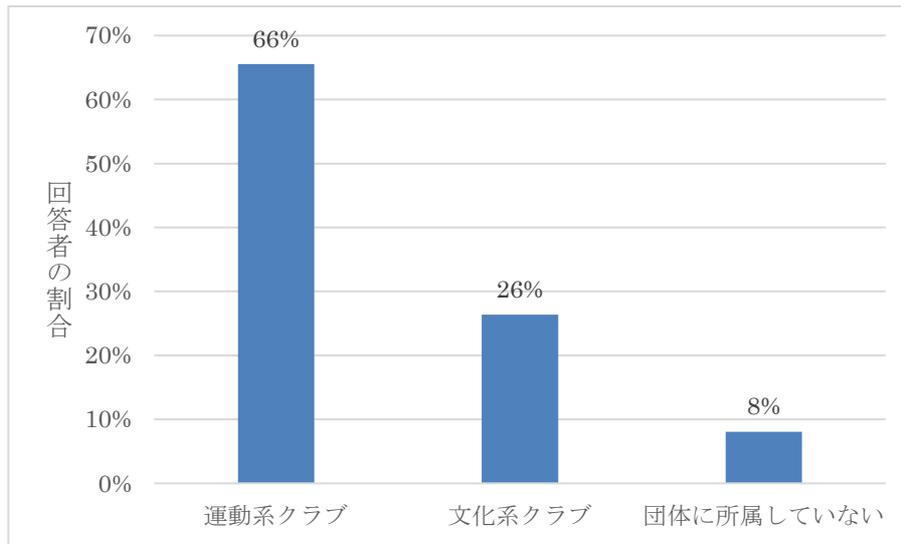


7. 新歓時に、その団体への所属意欲が低下したこと (N=235、複数回答可)

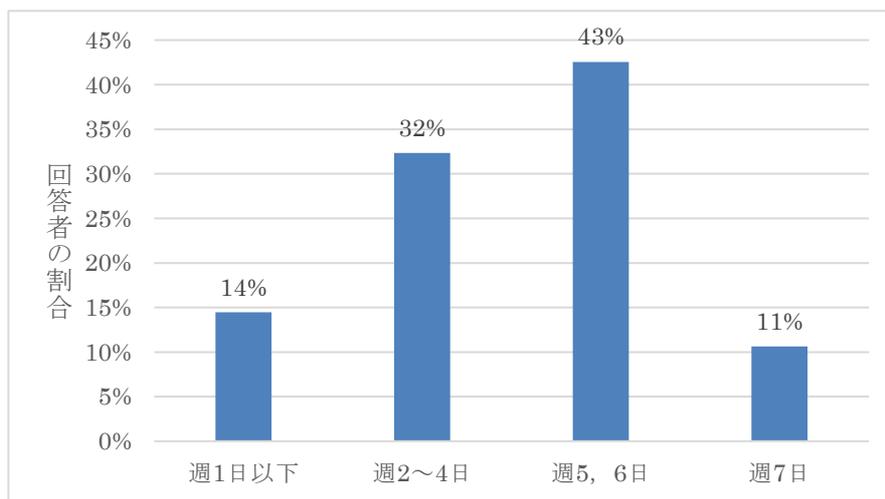


-高校時代に所属していた団体について-

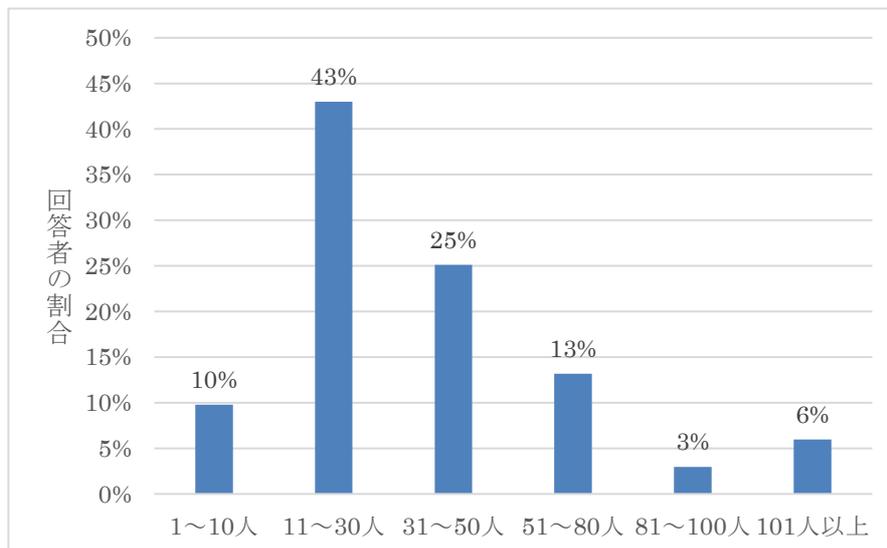
1. 団体の区分 (N=235)



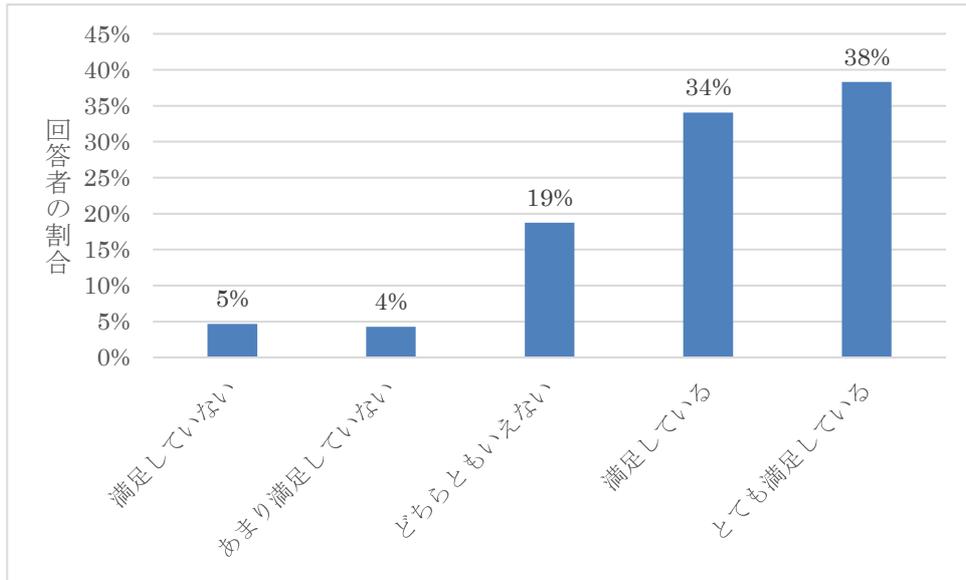
2. 活動頻度 (N=235)



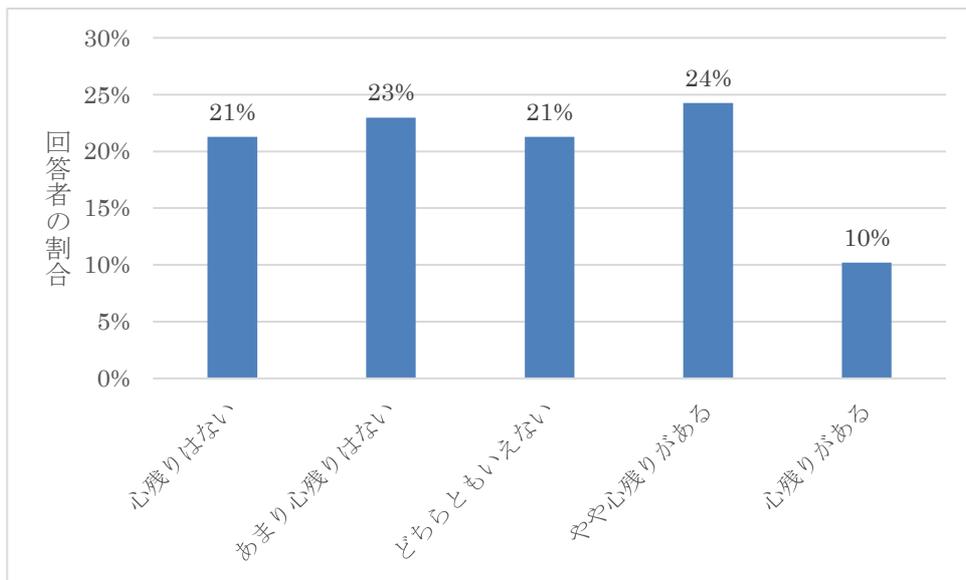
3. 活動人数 (N=235)



4. その団体に対する満足度はどの程度ですか(N=235)

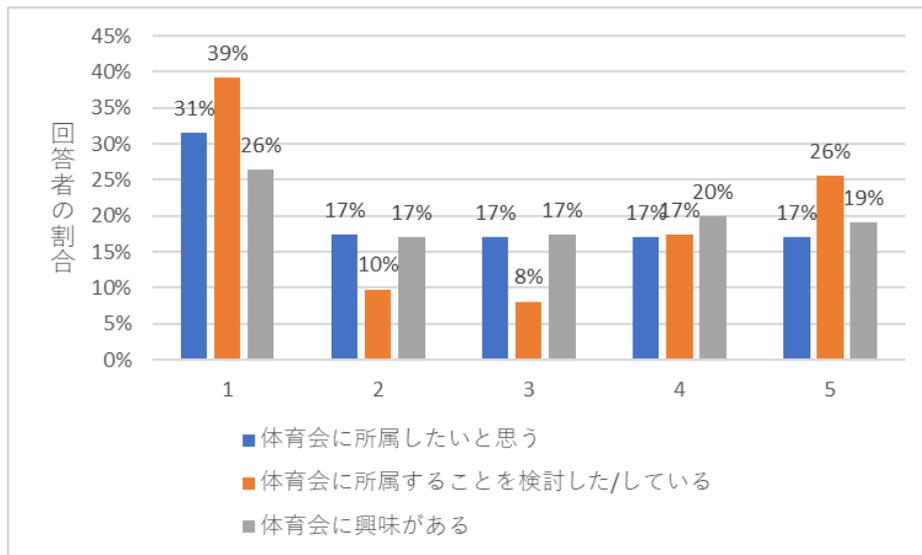


5. その団体に対する心残りや後悔はありますか(N=235)

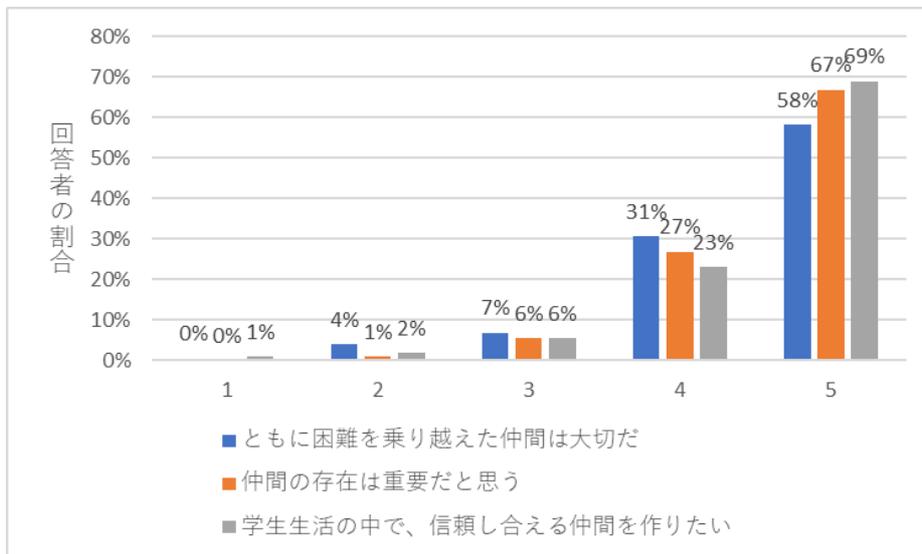


-あなた自身について-

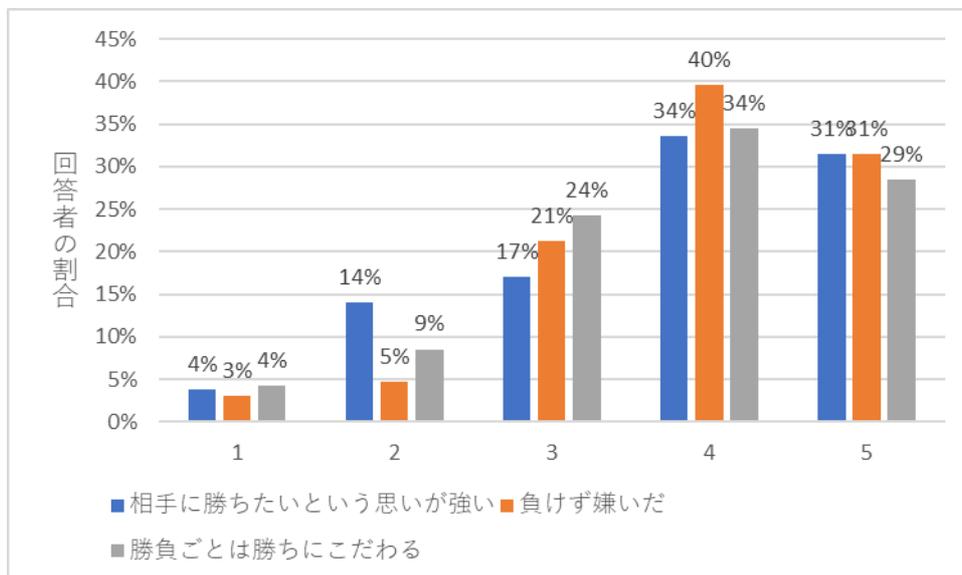
・ 体育会への興味 (N=235)



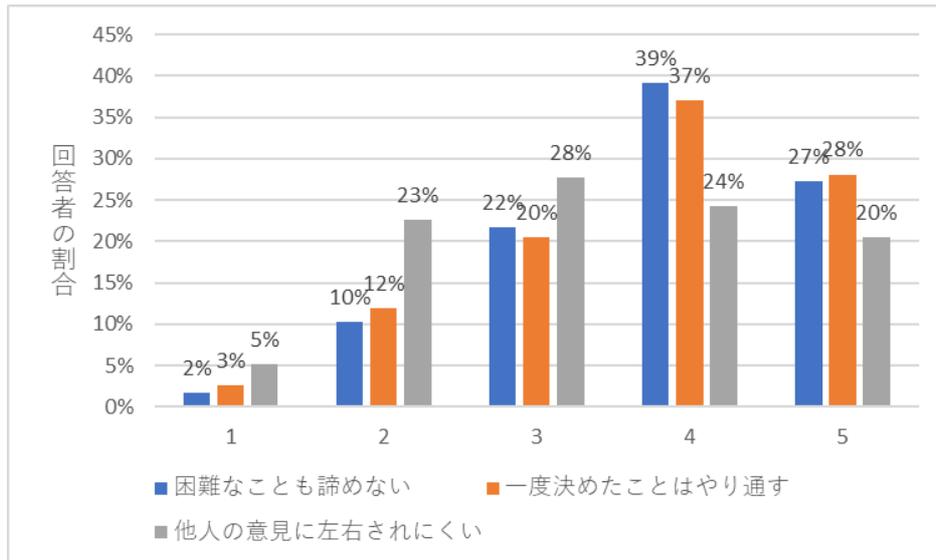
・ 仲間との絆の重視度 (N=235)



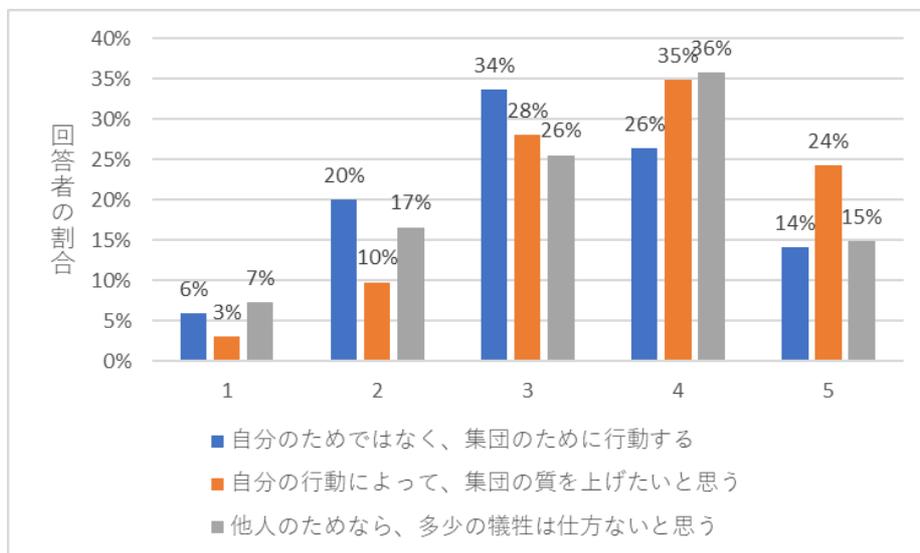
・ 競争心の強さ (N=235)



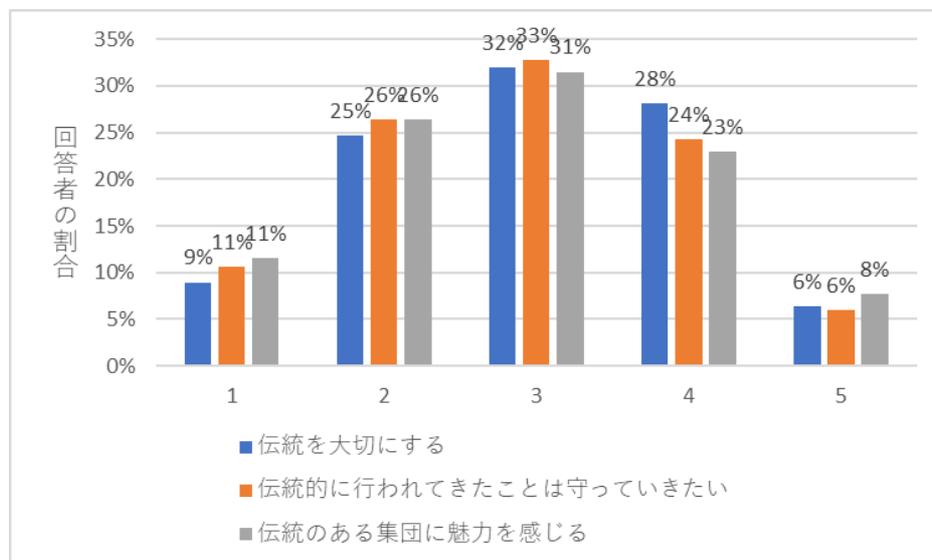
・意志の強さ (N=235)



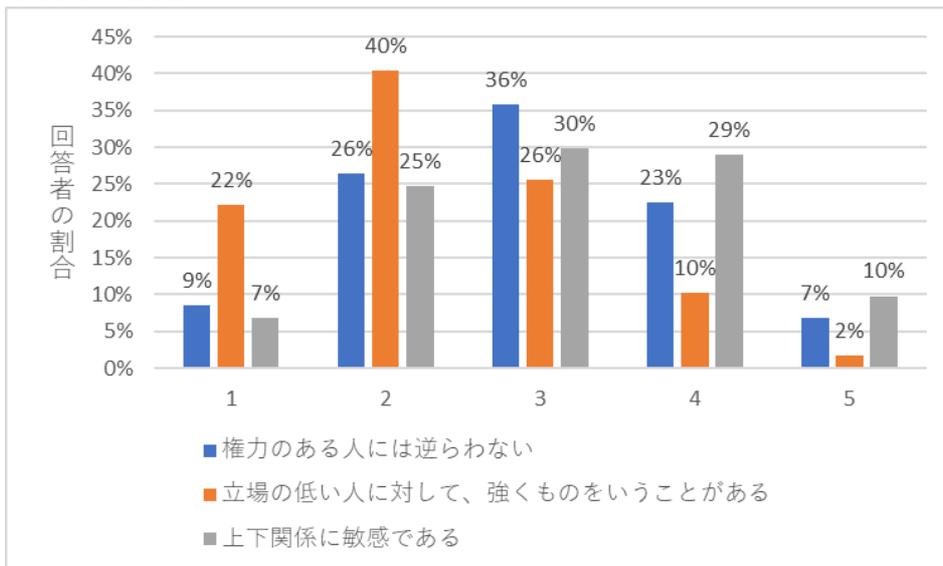
・利他的である (N=235)



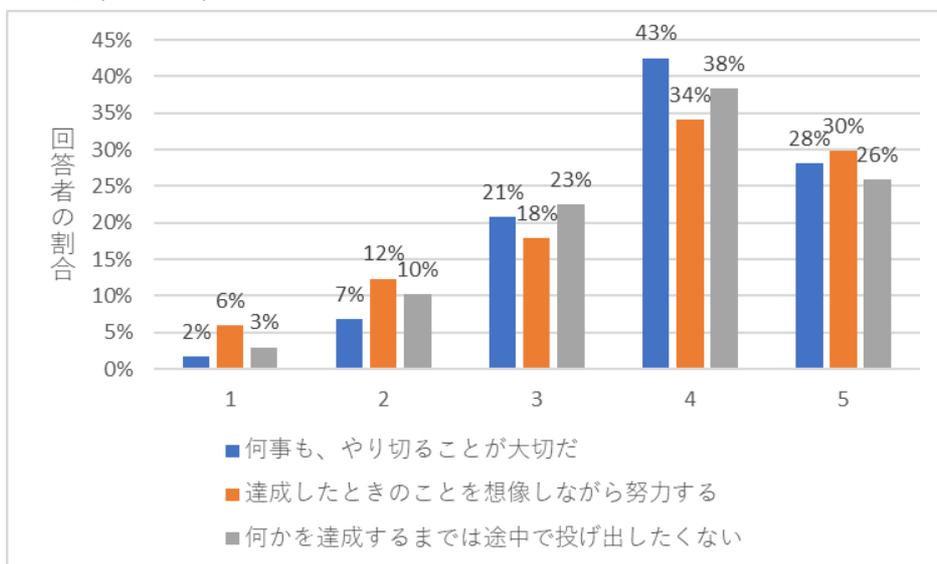
・伝統の重視度



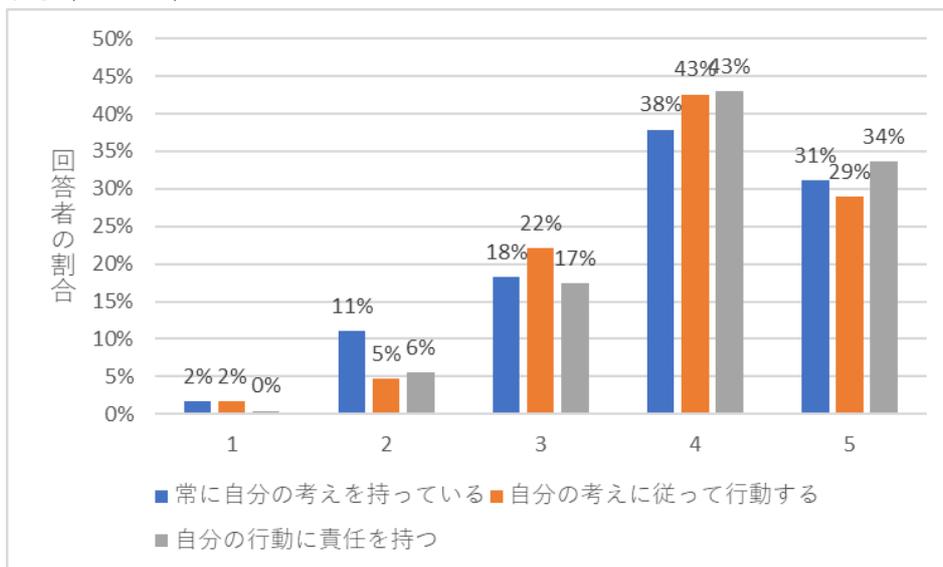
・ 権威主義的傾向の強さ (N=235)



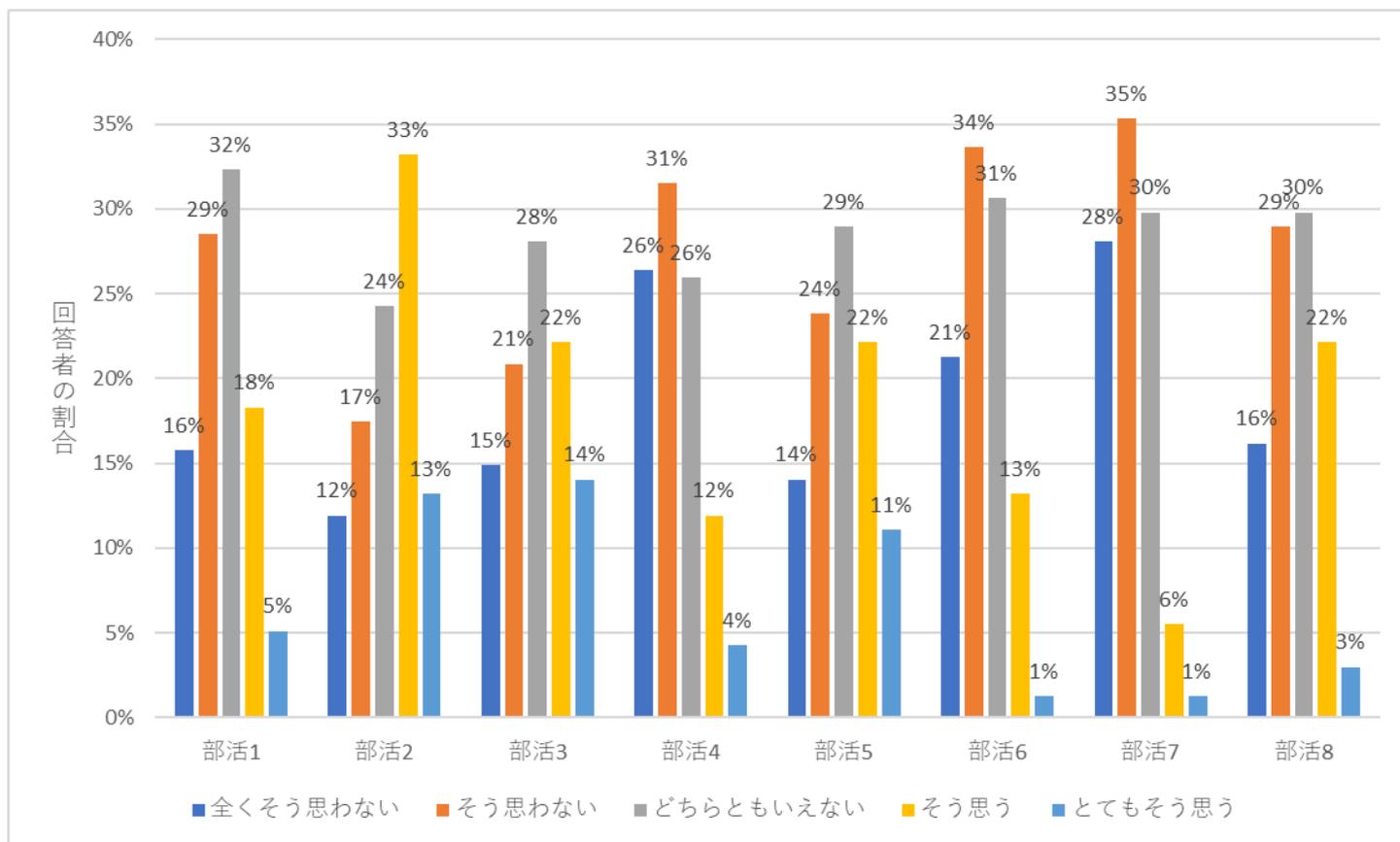
・ 達成感を求める (N=235)



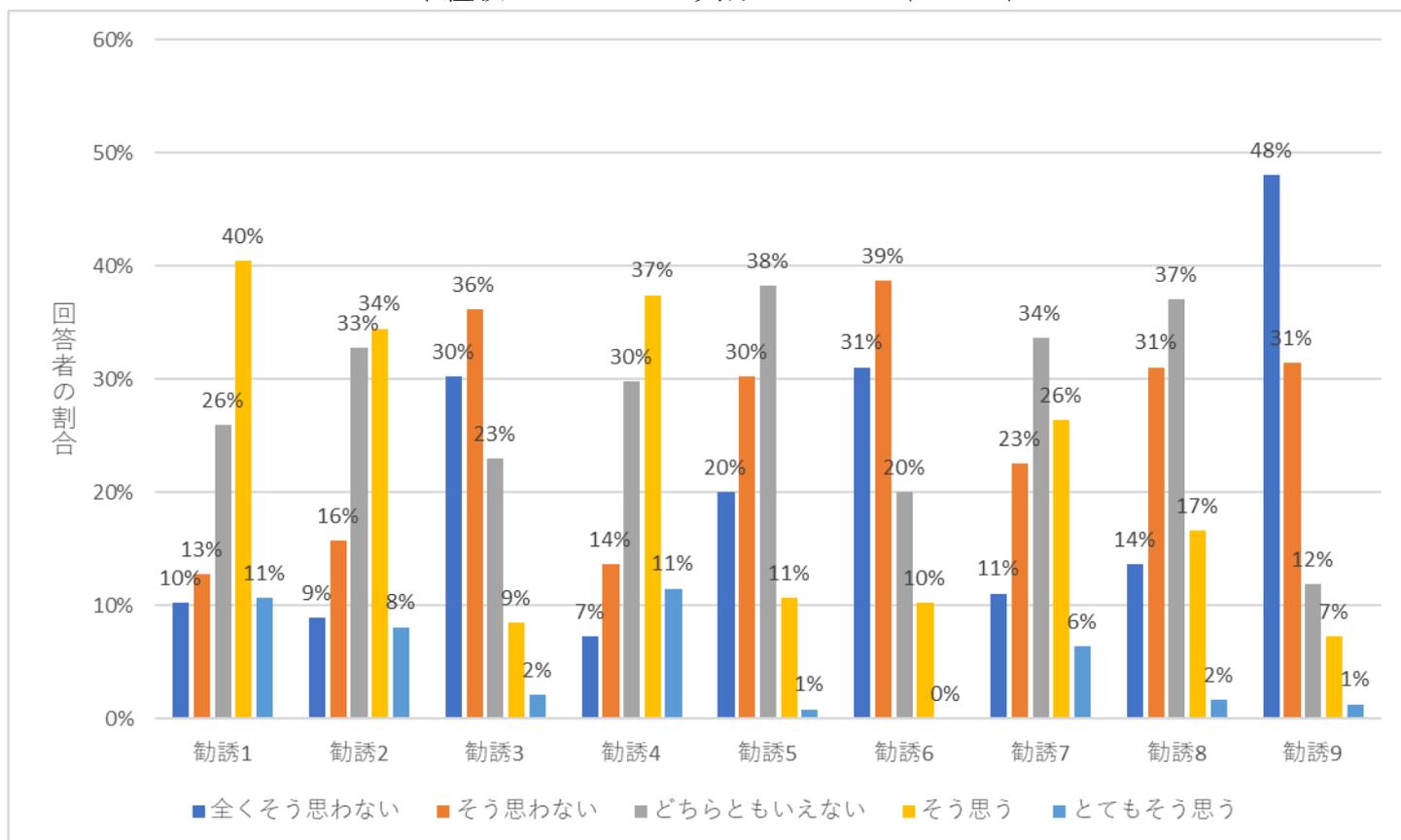
・ 主体性がある (N=235)



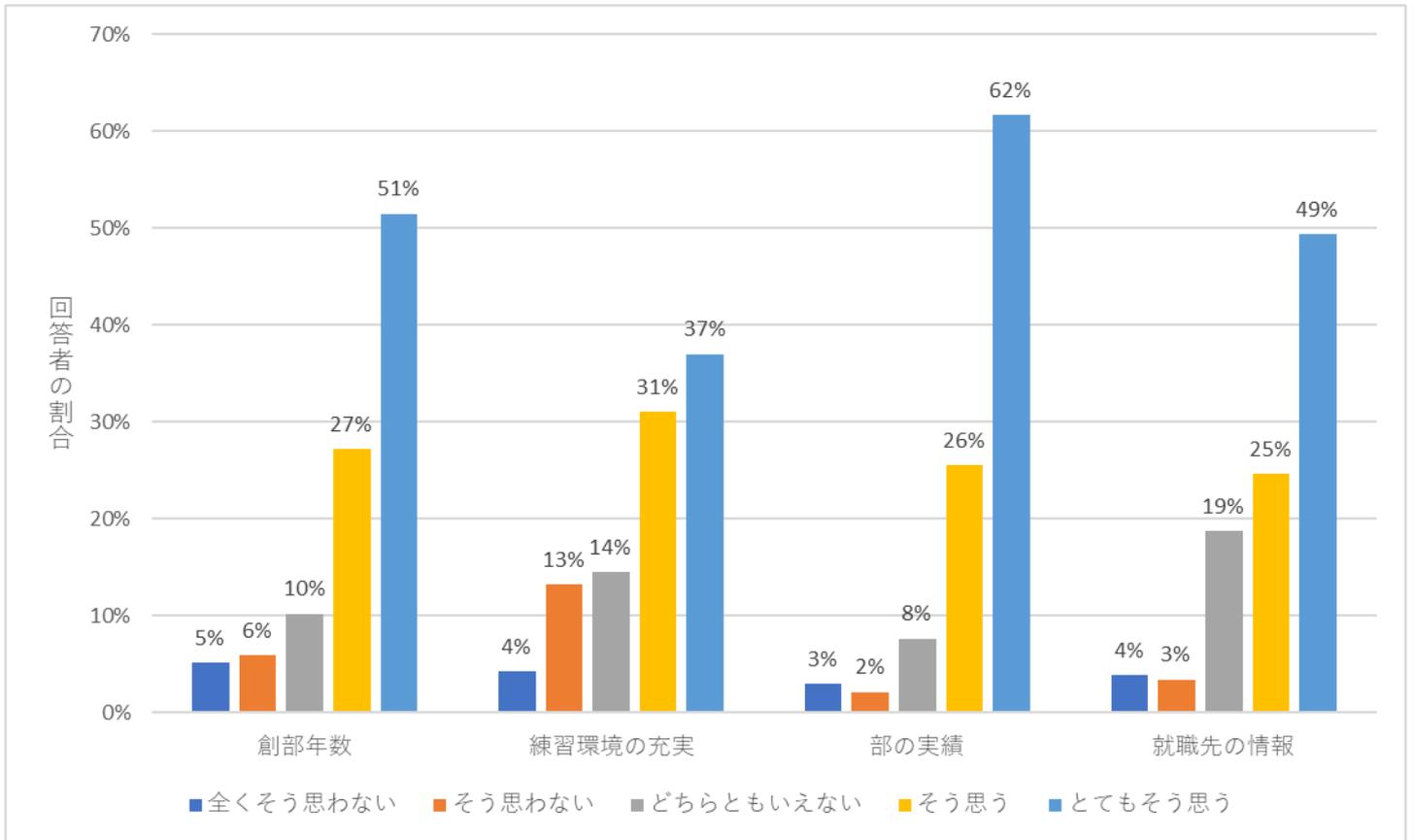
-体育会入部について-(N=235)



-未経験スポーツへの興味について-(N=235)



-マニピュレーションチェック (部活動特性)- (N=235)



-マニピュレーションチェック (勧誘特性)- (N=235)

